

認め得ヘク又本件被害者ノ如キ危険ナル作業ニ従事スル者カ假令火薬使用人トシテ前記ノ如ク不發「ダイナマイト」ノ有無其ノ他危険ノ存否ニ付調査ヲ爲スヲ業務トスル被告人ニ於テ其ノ調査ヲ遂ケタル後ニ於テ初メテ其ノ作業ニ取掛ルモノナリトスルモイサ具體的ニ各個ノ岩穴ヲ掘鑿スルニ當リテハ自ら自己ノ生命身體保全ノ爲然ルヘキ注意ヲ以テ當該岩壁ノ念査ヲ爲スコトアルヘキハ當審證人中西喜代治、外崎邦雄ノ證言ヲ俟ツ迄モナク其ノ業務ノ性質竝條理上當然ノコトニシテ鄭太文、孫武述、高正錫ニ對スル司法警察官代理ノ各聽取書モ直ニ右ノ事實ヲ否定シ去ルモノトハ爲シ難ク以上ノ事實ト原審竝當審ニ於ケル被告人ノ供述、當審ニ於ケル檢證ノ結果ニ依リ認め得ラルル本件被害者ハ何レモ右作業ニ付五、六年以上ノ經驗ヲ有スルモノナルコト、本件不發「ダイナマイト」ノ爆發ハ該「ダイナマイト」ノ殘存セシ岩穴ヨリ僅カニ五寸程ヲ距テタル個所ヲ孫武述ガ掘鑿機ヲ運轉シ鄭萬壽ガ鑿先ヲ操リテ四五寸掘鑿シタル際突然惹起シタルモノニシテ該慘事ノ發生シタル結果ヨリシテ同人等ニ於テハ該穴ノ掘鑿ニ際シ右不發「ダイナマイト」ノ殘存穴ニ氣付カサリシモノナルヘシト推定サレ得ル等ノ各事實ト當審ニ於ケル檢證竝鑑定ノ結果トヲ綜合考覈スルトキハ被告人辯疏ノ如キ事由ニ依リテ本件不發「ダイナマイト」殘存ノ穴尻ハ其ノ發見困難ナリシ稀ナル場合ニ屬シタルモノト推認スルニ難カラサルモノトス

而シテ右鑑定ノ結果ニ依レハ爆發後岩壁ヲ出來得ル限り丁寧ニ清掃シ最大ノ注意力ヲ以テ調査ヲ爲サハ發見困難ナル穴尻ト雖モ發見可能ノ場合モアルヘシト在リテ其ノ結論タルヤ固ヨリ抽象的ニ之ヲ論スルトキハ容易ニ首肯サレ得ヘキモノナレトモ之ニ依リテ直ニ被告人ノ過失ヲ推斷シ得サルコト勿論ニシテ要ハ當該ノ具體の場合ニ於テ其ノ地位ニ置カレタル被告人ニ要求サルヘキ最大ノ注意トハ如何ナル限度ノモノナリヤ及本件不發「ダイナマイト」ノ殘

存穴尻ノ發見困難ハ果シテ之ヲ具體的ニ觀察シテ右ノ所謂發見可能ノ場合ニ該當シタリシモノナリヤヲ探究シタル後之ヲ決スルヲ要スルモノトス

然ルニ記録ヲ精査スルモ右本件不發「ダイナマイト」殘存穴尻ノ發見困難カ元來發見可能ノモノニシテ被告人ニ於テ具體的ニ如何ナル注意義務ノ實行ヲ怠リタル爲該發見カ出來サリシモノナリシヤノ點ニ付テハ原審第二回公判調書中證人長谷川富太郎ノ供述トシテ自分ハ二十年位火薬使用人ノ經驗ヲ有スルモノナルカ「ダイナマイト」爆發後穴尻ヲ點檢シ不發「ダイナマイト」ノ殘存スルヲ發見出來サリシ場合ハナカリシ旨ノ記載アリテ恰モ本件穴尻ノ發見モ結局可能ナリシモノニシテ之ヲ發見シ得サリシハ被告人ノ何等カノ過失ニ基クモノナルカ如キ口吻ヲ感シ得レトモ同證人ハ被告人ヨリ火薬使用人トシテ其ノ仕事ニ不馴レノモノナルコト、然モ同人ノ用キタル穴尻發見ノ方法ハ被告人ノ供述スルトコロト同ジク「カンテラ」、棒、板切レ等ニ依ルモノナルトハ右公判調書中ノ同證人ノ供述ニ依リ明カナルトコロニシテ此等ノ事實ト前顯鑑定ノ結果ニ徴スレハ結局右摘出ノ證言部分モ直ニ採ツテ以テ認定ノ資料ト爲シ難ク其ノ他之ヲ判定スルニ足ルヘキ何等ノ確證ナキモノナレハ右念査ノ點ニ付テモ被告人ノ過失ハ之ヲ認定スルニ難キモノトス

而シテ以上敘述ノ外ニ於テモ本件事故發生カ被告人ノ冒頭記載ノ業務上ノ注意義務ノ懈怠ニ基因スルモノナリトノ點ニ付テハ固ヨリ之ヲ肯認スヘキ何等ノ證據存セサルモノナレハ結局本件公訴事實ハ犯罪ノ證明ナキニ歸スルモノナルヲ以テ刑事訴訟法第三百六十二條ニ則リ被告人ニ對シ無罪ノ言渡ヲ爲スヘキモノトス

仍テ主文ノ如ク判決ス

昭和十三年十一月二十四日

五八二

富山地方裁判所刑事部

三五四 無罪

判決

本籍並住居

静岡縣濱名郡北濱村道本二百九十番地ノ一

電車運轉手

大 城 一 郎

當三十一年

右ノ者ニ對スル業務上過失致死被告事件ニ付昭和十四年十二月二十七日濱松區裁判所カ言渡シタル有罪判決ニ對シ原
審辯護人白石信明ヨリ適法ナル控訴申立アリタルヲ以テ當裁判所ハ檢事其關與更ニ審理ヲ遂ケ判決スルコト左ノ如シ

主 文

被告人ハ無罪

理 由

本件公訴事實ハ被告人ハ遠州電氣鐵道株式會社ニ雇ハレ電車運轉ノ業務ニ從事中昭和十四年八月十日午後二時二十一
分頃同會社線西鹿島驛發旭町驛行上リ電車第五號ヲ運轉シ静岡縣濱名郡小野口村小松驛ホームノ西鹿島驛寄りニ接セ
ル同村小松及同郡笠井町ヲ通スル所謂舊笠井道ノ踏切ニ差蒐リタルカ右箇所ノ線路兩側ニハ線路ニ平行シテ人家並ニ

横ノ植込等並存セル爲該踏切附近ハ約四米ノ踏切構内部分ヲ除キ其ノ左右人道ハ何レヲモ見透シ得サル狀況ニ在リ且
該踏切ニハ番人ヲ置カス又遮斷機其ノ他電車ノ進行ヲ通行人ニ豫知セシムヘキ何等ノ設備ナキコトヲ日頃熟知シ居ル
モノナレハ斯カル場合運轉手タルモノハ須ク右踏切ニ通行人等ノ往來アルヘキヲ豫想シ萬一ノ場合事故ノ發生ヲ未然
ニ防止スルニ付必要ナル程度ニ速度ヲ減シ徐行スヘキ業務上ノ注意義務アルニ拘ラス之ヲ盡サス時速二十軒位ノ速度
ニテ進行シタル爲右踏切トノ距離約四十米ノ地點ニ到リテ鈴木若太郎(當五十一年)カ荷馬車ヲ挽キ線路左側ヨリ該踏
切ニ立出テタルヲ認ムルヤ直チニ急停車ノ措置ヲ執リタルモ力及ハス途ニ電車ノ前部ヲ同人ニ衝突セシメ因テ同人ヲ
シテ胸腔内臟器挫滅破壊等ニ因リ應急手當ノ爲運搬セル同郡北濱村沼醫師太田悅太郎方ニ於テ程ナク落命スルニ至ラ
シメタルモノナリト謂フニ在リ

仍テ按スルニ被告人カ前示會社ニ雇ハレ電車運轉手トシテ其ノ業務ニ從事セル者ニシテ前示日時前示方向ニ向ヒテ電
車ヲ操縦シ前示舊笠井道踏切附近ヲ通過スルニ當リ時速二十軒位ノ速度ニテ進行ヲ續ケ右踏切前方ヲ距ル約三十米ノ
地點ニ於テ鈴木若太郎(當五十一年)カ荷馬車ヲ挽キ被告人ノ電車ノ進行ニ氣付カス該踏切ヲ横斷セントシテ線路左側
ヨリ踏切上ニ立出テタルヲ發見シ直ニ急停車ノ措置ニ出テタルモ踏切手前ニテ電車ヲ停止セシメ得ス爲ニ同踏切上ニ
於テ右電車ノ正面ヲ同人ニ衝突セシメ因テ同人ニ胸腔内臟器挫滅破壊等ヲ被ラシメ間モナク之ヲ死ニ致ラシメタル事
實並本件踏切及其ノ附近ノ狀況前示ノ如クニシテ該踏切ニハ番人ヲ置カス又遮斷機其ノ他電車ノ通行ヲ行人ニ豫知セ
シムヘキ設備ナキモノナルコト等ヲ被告人日頃熟知シ居リタルコトハ被告人ノ當公廷ニ於ケル自認ニ徴シテ之ヲ認メ
得ヘキトコロナリ然レトモ被告人ノ當公廷ニ於ケル供述ニ依レハ被告人カ右電車ヲ運轉シ右舊笠井道踏切ヲ通過セン

三五四 無罪

五八三

トシタル際該踏切ノ北方約三十一間ノ地點ニ存在スル新笠井道踏切(遮斷機ノ設備アリ)ヲ通過スル頃ヨリ絶ヘス警笛

ヲ吹鳴シ乍ラ漸次速度ヲ減シ舊笠井道踏切ニ對スル警戒注意ヲ爲シ同踏切ヲ距ル前方三十米位ノ地點ニ達シタルトキハ速度ヲ二十杆位ニ減シ居リタルコトヲ認メ得ヘシ而シテ前述ノ如ク被告人ハ右踏切ヲ距ル前方約三十米ノ地點ニ到リ突如鈴木若太郎カ該踏切ヲ横斷セントスルヲ現認シ直ニ警笛ヲ吹鳴シ乍ラ急停車ノ處置ヲ執リタルモ力及ハス隋力進行ノ爲本件事故ヲ惹起セシメタルモノニシテ當時該電車ノ制動機ニ何等故障ナカリシコトハ被告人ノ當公廷ニ於ケル供述ニ依リ之ヲ認メ得ヘシ然ラハ本件事故發生ノ結果ニ付被告人ニ責ムル所アリトセハ開ハ被告人カ前示踏切ヲ距ル前方約三十米附近ヲ通過セントスルニ時速二十杆位ニテ進行シタルノ一點ニ歸着スヘシ仍テ右時速二十杆位ニテ右地點ヲ進行シタルカ妥當ナリヤ否ヤニ付審按スルニ高速度電車ノ運轉ニ從事スル者ニ於テハ其ノ業務、性質ニ鑑ミ速度ノ調節進路ノ安全等ニ付常ニ甚深ノ注意ヲ拂ヒ以テ人命等ニ及ホスヘキ事故ノ發生ヲ未然ニ防止スヘキ注意義務ヲ有シ其ノ義務ハ電車カ専用軌道ヲ有スルコト高速度交通機關ナルコト又ハ其ノ發着時間ニ付定ヲ爲シ居ルコト等ニ依リ免除セラルヘキモノニ非ラサルコト論ヲ俟タサルコトコナリト雖モ會社ノ定メタル速度ニシテ且適正妥當ナル速度ニテ進行中障害物ヲ發見シ直ニ急停車スルモ及ハスト云フカ如キ場合ニハ其ノ運轉手ヲ責ムヘキモノニアラサルコトモ亦論ナシ、今本件ニ付之ヲ觀ルニ被告人カ日頃時速二十杆位ノ速度ニテ進行中ノ電車ハ急停車ノ措置ヲ執ルモ隋力ニテ約四十米進行セサレハ停車セサルモノナルコトヲ熟知シ居リタルコトハ被告人ノ當公廷ニ於ケル供述ニ依リ明白ニシテ而モ本件踏切ハ小松驛ホームニ接着シ居ルコト前認定ノ如クナレハ被告人ハ右新笠井道踏切ヲ越ヘテ後ハ小松驛ホームニ停車スヘク漸次速度ヲ減シ舊笠井道踏切ヲ距ル前方三十米ノ箇所ニ到ル頃ニハ二十杆位トナシ夫ヨリ更ニホムニ近クニ從ヒ速度ヲ低下セシメ遂ニ右ホームニ停車スヘク操縦シ居リタルコト明白ニシテ其ノ一段階トシテ二十杆位ノ速度ニテ進行中偶々本件被害者ノ姿ヲ發見シ急停車ノ措置ヲ執リタルモ力及ハサリシモノナリ尤モ和田實ニ對シテ檢事ノ聽取書中同人ノ右電車ハ時速十二杆位ノトキ急停車ノ措置ヲ執ラハ約二十米ノ隋力進行ニテ停車スル旨ノ供述記載ニ徴スレハ被告人カ若シ右地點ヲ時速十二杆位ニテ進行シ居リタランニハ本件事故ハ惹起セサリシモノナルヘシトハ雖モ本件記錄編綴ノ右會社ノ電車運行表ニ依レハ本件事故ノ發生シタル踏切ノ存スル小松驛ト貴布禰驛間ノ平均時速ハ四十杆ナレハ益々交通機關ノ高速度ナルコトヲ要求セラルル現代ニ於テ被告人カ本件地點ヲ時速二十杆位ニテ運轉進行シタレハトテ何等業務上ノ注意義務ニ違反シタルモノトハ謂ヒ難シ正ニ適正妥當ナル速度ヲ以テ進行シタルモノト認ムヘキ本件事故ノ發生ハ將ニ被害者ノ重大ナル過失ニ基因スルモノト謂フヘシ然ラハ本件事故ハ被告人ノ業務上ノ注意義務ノ懈怠ニ因ルモノナリト斷スヘキ證明十分ナラサルニ歸スルヲ以テ刑事訴訟法第三百六十二條ヲ適用シテ被告人ニ對シテハ無罪ノ言渡ヲ爲スヘキモノトス

仍テ主文ノ如ク判決ス

昭和十五年四月二十四日

靜岡地方裁判所刑事部

三五五 無 罪

判決

三五五 無 罪

五八五

右ノ者ニ對スル詐欺被告事件ニ付昭和十三年七月四日高岡區裁判所ニ於テ言渡シタル有罪判決ニ對シ被告人ヨリ適法ナル控訴ノ申立アリタルヲ以テ當裁判所ハ檢事某關與ノ上更ニ審理ヲ遂ケ判決スルコト左ノ如シ

明治十九年五月二十九日生

主 文

被告人ハ無罪

理 由

本件公訴事實ハ公判請求書記載ニ係ル

被告人ハ射水郡新湊町ニ於テ開業醫ヲ營ムモノナル處同町所在ノ日本鋼管株式會社電氣製作所ノ職工採用試験ニ際シ同會社ヨリ職工志願者ノ身體検査ノ囑託ヲ受クルヤ志願者ノ身體検査票ニ眞實ノ「トラホーム」患者ノ如ク裝フテ虚偽ノ記載ヲ爲シ検査醫タル被告人ノ治療ヲ受ケシメ其ノ治療費名下ニ金員ヲ利得センコトヲ企テ昭和十三年一月上旬頃ヨリ同年五月下旬頃迄ノ間ニ針山清一外約三十名ヨリ數百回ニ互リ射水郡新湊町三日會根ナル被告人方ニ於テ治療費名下ニ合計約二百四十圓ヲ騙取シタリ

ト謂フニ在リテ被害者ノ氏名ヲ具體的ニ表示スルコトナキモ本件起訴(昭和十三年六月十三日附)ニ直近スル後記強制處分請求ニ基ク原審判事ノ被疑者ニ對スル訊問調書中ノ記載竝檢事第二回聽取書ノ記載ニ徴スレハ起訴檢事ノ目シテ

以テ本件詐欺ノ被害者ナリト斷シタル者ハ該聽取書ニ記載シアル本件記載錄第二九二丁乃至第二九四丁ノ「被疑者醫師飯野善詐欺恐喝參考表」ト題スル書面ニ掲クル者ノ内

- | | | | |
|------------|-------------------|------------|----------------|
| 1、石 黒 伊 平 | 2、荒 木 間 作 | 3、高 木 富 吉 | 4、湊 太 作 |
| 5、安 田 留 男 | 6、針 山 清 市 | 7、姫 野 傳 二 | 8、京 谷 甚 市 |
| 9、品 川 一 郎 | 10、京 谷 一 郎 | 11、四 村 清 二 | 12、小 谷 幸 吉 |
| 13、釣 由 次 郎 | 14、中 俊 夫 | 15、島 正 吉 | 16、草 開 久 雄 |
| 17、脇 田 榮 三 | 18、安 部 清 作 | 19、鎧 塚 榮 藏 | 20、牧 野 清 志 |
| 21、魚 宇 一 | 22、殿 村 重 央 | 23、越 後 喜 作 | 24、四 方 與 七 |
| 25、網 谷 喜 作 | 26、木 林 常 吉 | 27、牧 野 久 信 | 28、布 目 彌 三 次 郎 |
| 29、大 谷 治 作 | 30、塩 井 鎮 一(慎一ノ誤記) | 31、中 野 信 吉 | 32、高 木 榮 作 |
| 33、島 榮 作 | 34、酒 井 留 吉(富吉ノ誤記) | 35、中 谷 勳 | |

ノ三十五名ナルモ右ノ内20ノ牧野清志ト27ノ牧野久信ト同一人ナルコトハ右一覽表ノ記載ニヨリ明瞭ナルヲ以テ結局三十四名ナルコトヲ認ムルニ難カラス

而シテ右嫌疑事實ニ對シテ被告人ハ取調官ニ對シ如何ナル陳述ヲ爲シ來レルカヲ一々摘示スレハ

一、(イ) 司法警察官代理ノ第一回聽取書(昭和十三年五月三十日附記録五〇丁以下)ニ於テハ未タ本件詐欺ノ點ニ

付テハ何等供述スルコトコナク

(ロ) 同代理第二回聴取書(昭和十三年五月三十日附記録第五十五丁以下)ニ於テハ被告人カ老年トナリテ長男ヲ儲ケタル爲自己ノ死後モ長男ヲシテ安樂ニ生活セシメントノ親心ヨリ惡事ヲ考ヘ昭和十三年二月末ノ職工志願ノ試験ノ際受驗者中「トラホーム」患者ニ非サルニ不拘「トラホーム」ニ罹リ居ル旨詐ハリ告ケナハ必ス自己ノ許ニ治療ヲ受クル爲來所スヘク左スレハ金儲ヲ爲シ得ヘシト思惟シ其際「トラホーム」ニ非サル者ニ「トラホーム」ナリト診斷シタル處豫期ノ如ク右ノ如キ診斷ヲ下サレタ者ノ殆ント全部治療ヲ受クル爲來所シタリ尙斯ル者ハ其收入ノ點ヨリ一日モ速ニ職工タラント熱望シ全治又ハ傳染ノ虞ナキ旨ノ證明書ノ下附方ヲ希望セルヲ以テ斯ル申出アリタル際今後尙一ヶ月若クハ二ヶ月ニテハ治癒セヌト脅迫シ暗ニ金員ヲ持參セハ書キ與フル趣旨ノ下ニ證明書ヲ書キ與フレハ最早ヤ治療ヲ受クル爲來所セサル可キヲ以テ必ス其期間來所スヘシトノ何カ證據物ヲ出セト告ケ出金セシムル仕組ト爲シ何時ニテモ言ヒ逃レヲ爲ス爲預リ置ク名義ノ下ニ金ヲ貰ヒタルカ左スレハ翌日ニ大抵證明書ヲ與ヘタル旨供述シ

(ハ) 司法警察官ノ第三回聴取書(昭和十三年六月五日附記録第二六〇丁以下)ニ於テハ昭和十二年五、六月職工志願者ニシテ何等「トラホーム」ニ罹リ居ラサル者ニ對シ「トラホーム」ナリト診斷シ不正ノ治療費ヲ得ンコトヲ考ヘタルカ勿論此治療法ハ全然施ササル譯ニハ行カサル故唯申譯的ニ爲シタルニ過キス然レトモ斯ル措置ヲ爲シタレハトテ相手ハ素人ニテ病氣ニ對シ知識ナキ爲容易ニ目的ヲ達シ得ヘク斯ル「トラホーム」ニ非スシテ「トラホーム」ト診斷シ治療ニ通院セシメタルハ三月以降五月迄(年度ノ記載ナキモ該聴取書ノ記載全體ヲ綜合スレハ昭和十三年三月ヨリ五月迄ヲ指稱セルモノト認メラル)一ヶ月凡ソ五十人ニシテ此内治療ニ來所スル者ハ平

均毎日十五人乃至二十人位ナル旨並證明書交付ノ方法ニヨリ金員ヲ喝取セル件ニ付テハ略前項ニ掲ケタルト同一趣旨ノ供述ヲ爲セル外斯ル方法ニテ金ヲ取ルニ至リタルハ大體昭和十三年三月以降ニシテ人員ハ約二十人位ナル旨供述シ

二、(イ) 檢事聴取書(昭和十三年六月七日附記録第一九五丁以下)ニ於テハ被告人カ射水郡新湊町所在日本鋼管株式會社電氣製鐵所ノ囑託ヲ受ケ職工試験受驗者ノ身體檢査ヲ爲スニ際シ體格檢査表ニ「トラホーム」患者ニ非サルニ拘ハラス「トラホーム」患者ナリト虚偽ノ記入ヲ爲スカ如キ惡事ヲ爲シタルハ昭和十二年八月頃ヨリ昭和十三年五月九日ノ試験ノ時迄ニテ斯ル志願者ハ被告人方ニ治療ヲ受クル爲來所スヘク左スレハ治療費ヲ利得シ得ヘシト考ヘ其意圖ノ下ニ爲シタルナリ而シテ證第三號ハ右ノ如ク受驗者中自分カ體格檢査表ニ「トラホーム」患者ト記入シ自分方ニ治療ヲ受クル爲來リタル者ノ診療簿作成ニ代ヘ書シタルモノナルカ其ノ内真正ノ「トラホーム」患者ハ「重病」又ハ「不」ト記載セル者ノミニテ即チ

- 網谷 喜作 網谷 勝次 今泉 太一 中川 清 酒井 富吉
- 長谷川 與七 京谷 甚一 宮袋 清一 釣 芳夫 伏木 政雄
- 島 政吉

ノ十一名ナリ但右證第三號記載ノ内

大谷 治作

ニ付テハ重病患者ノ記載ナキモ高岡市ノ館醫師ノ診察ノ結果ニ依レハ輕キ「トラホーム」ト診斷ヲ下サレタル由

ナリシカ自分ハ同人ニハ「トラホーム」ハ無キモノト思ヒ居タリ

網谷喜作

ハ館醫師ノ診察ヲ受ケタルニ「トラホーム」無シトノ由ナルモ自分ハ「トラホーム」患者ト思ヒ居タリ又證明書ノ點ニ付金ヲ受取リタル内

京谷一郎ノ十五圓ハ記憶アリ

網谷喜作ハ二十圓ヲ出シタ由ナルモ自分ニハ記憶ナシ

脇田榮三ヨリ四圓

谷川庄太郎ヨリ四圓

湊政吉ヨリ十圓

四方與七ヨリ六圓

川除與一郎ヨリ八圓カ十圓

品川ヨリ五圓

阿部清作ヨリ十圓

鎧塚榮藏ヨリ十二圓

魚宇一ヨリ十一圓

ヲ受取リタル記憶アリ

殿村繁夫(重央ノ誤記)ヨリ十圓
ヲ受取リタルコトハ證第三號ニ記載シアリ
越後喜作ヨリ二十五日分十三圓

受取ノ旨證第三號ニ記載シアルモ二十五日分トシテハ金高多額ニ過キ果シテ何程受取リタルヤ判然セス尙自分カ「トラホーム」患者ニ非サルニ「トラホーム」患者ト稱シ治療ヲ受ケシメ治療代ヲ取リ證明書ヲ認ムルニ治療前金トシテ金ヲ取リタルハ結局其人ヲ欺キ金ヲ取リタルコトトナル旨及詐取金額ハ約三百圓位ニ達スルト思フ旨供述シ
(ロ) 檢事第二回聽取書(昭和十二年六月十二日附記録第三九〇丁以下)ニ於テハ自分カ日本鋼管株式會社電氣製鐵所ノ囑託トシテ採用職工ノ身體検査ヲ爲スニ際シ何等「トラホーム」ニ非サル職工ニ對シ「トラホーム」ナリトノ身體検査表ヲ作り其ノ職工ヲ志願スル者ニ眞實「トラホーム」ナリト思ハセ自分方ニ治療ニ來所セシメ治療費ヲ詐取セルコトハ相違ナク斯ル惡事ヲ爲スニ至レルハ昭和十二年一月頃ヨリノコトニテ昭和十三年五月迄ニ約百名ノ「トラホーム」患者ニ非サル者カ治療ヲ受ケニ來リタルカ其ノ内證第三號記載ノ約五十名カ本年三、四月ニ來リタル譯ニテ本年ニ至リ急ニ増加シタリ證第三號中ニ記載アル者ハ「トラホーム」患者ハ一名モナク前回佐藤檢事ノ御取調ノ際「重症」又ハ「不」トアルハ「トラホーム」患者ナル如ク虚偽ノ申立ヲ爲シタルモ斯ル記載アルモ何レモ「トラホーム」ニ非ス實際ハ結膜炎ニテ眼瞼カ多ク腫脹シ居ル者ヲ「不」トシ少許腫レ居ル者ヲ「重症」トセルナリ然レトモ證第三號中ニ記載シアル人名ハ本年三、四月中ニ「トラホーム」患者ナリトテ臆シテ治療シタル者全部ヲ記載セル譯ニ非スシテ氏名ヲ脱漏シ居ル者モ相當アルモノト思フ尙前回證明書ノ件ニ付事實ト相違

セルコトヲ申述ヘタルヲ以テ改メテ申上ケンニ

五九二

京谷一郎ヨリ十五圓

網谷喜作ヨリ二十圓

脇田榮三ヨリ四圓

谷川庄太郎ヨリ四圓

湊政吉ヨリ十圓

四方與七ヨリ六圓

川添與一郎(川除ノ誤記)ヨリ十圓

品川一郎ヨリ四圓

鎧塚榮藏ヨリ十圓

魚字一ヨリ十圓

殿村重央ヨリ十圓

越後喜作ヨリ十圓

ニテ右ノ内

網谷喜作

谷川庄太郎

品川一郎

ノ分ハ自分ノ記憶ニ存シ他ハ何レモ證據第三號中ニ記載セラレアル旨並記録第二九二丁乃至二九四丁ノ一覽表ヲ

示シ「中伏木警察署ノ取調ニ依レハ其許カ「トラホーム」患者ニ非サル者ヲ瞞シテ「トラホーム」患者ナリトシテ治療ヲ受ケサセ治療費ヲ受取リタル被害ハ此一覽表ノ通りニテ本年一月以降ノ分カ二百三十九圓餘トナリ居ルカ此通り相違ナキヤ」トノ問ニ對シ「之迄取調ヲ受ケタ際ニモ申上ケタ通り間違アリマセヌ」ト供述シ

三、原審判事ノ強制處分請求ニ基ク被疑者訊問調書ニ依レハ被疑者ハ取調ノ冒頭ニ於テ先ツ日本鋼管株式會社電氣製鐵所ノ職工採用試験ニ於テ志願者ノ身體検査ヲ囑託セララルヤ「トラホーム」患者ハ傳染ノ惧ナキ程度ニ治療スルニ非サレハ職工ニ採用セラレサルニ依リ若シ「トラホーム」患者ト診斷セラレタル者ハ検査醫タル被疑者ノ治療ヲ乞フヘキ事ヲ豫想シテ其ノ治療代ヲ利得スル目的ヲ以テ昭和十三年一月以來數度ノ職工採用試験ニ於テ「トラホーム」患者ニ非サル多數ノ受験者ノ體格検査表ニ「トラホーム」疾患アル旨虚偽ノ記入ヲ爲シ以テ同年一月ヨリ五月迄ノ間ニ新湊町針山清市外三十名ヨリ「トラホーム」治療代名義ノ下ニ合計金二百三十九圓七十錢ヲ詐取シタルモノナリトノ被疑事實ヲ肯認シタル上治療代ノ前取りヲ爲シ證明書ヲ交付シタル者ノ内記憶ニ存スルハ

脇田榮三

谷川基治

湊政吉

四方與七

川除與一郎

品川某

阿部清

作(安部ノ誤記)

鎧塚榮藏

魚字一

ナリ然レトモ實際其者等カ全部「トラホーム」ニ罹リ居タリヤ否ヤハ判然記憶ナシ但「トラホーム」患者ニ非サルニ不拘「トラホーム」患者ナリト書キタル者ニ新湊町ノ針山清一(清市ノ誤記)ノ存スルコトハ明確ニ覺エ居ルモ診斷書ニ記載セハ直チニ夫レヲ會社ニ廻ス爲其ノ他二、三十人位ハアリタル様ニ思フモ一々名前ハ覺エ居ラサルカ嘘ノ診斷書ヲ書キ又ハ「トラホーム」患者ニ非サルニ治療ヲ加ヘテ詐取セル金員ハ約三百圓位ナリト供述シ

三五五 無 罪

五九三

四、原審公判ニ於テモ冒頭ニ於テ被告人ハ本判決冒頭掲記ノ公判請求書記載ノ犯罪事實ヲ肯認シタルモ其ノ訊問ニ對スル答辯振リヲ見ルニ實際ニハ「トラホーム」患者ニ非サル者ニシテ「トラホーム」患者ナリトシテ検査表ニ記載シタルコトアリト述ヘ斯ノ如キコトハ何時頃ヨリ爲セルカトノ問ニ對シ答ヘス昭和十二年頃ヨリ斯ル舉ニ出テタルニ非スヤトノ問ニ對シ昨年中ニハ無シト答ヘ更ニ檢事ニハ左様ニ述ヘ居ルニ非スヤトノ問ニ對シテハ答ヘス進ンテ何故斯ルコトヲ爲セシヤトノ問ニ對シテハ會社ノ工場ハ汚キ所ナルニヨリ眼病ハ直チニ傳染スル虞アルニ付眼瞼ニ「ザラ／＼」アレハ「トラホーム」患者ナリトノ診斷ヲ爲シタリト述ヘ前掲檢事第一回聽取書記載事實ノ讀聞ケヲ受クルヤ之ヲ肯定シ多少眼力悪クハ「トラホーム」ナリト書キ又全然眼ニ異狀ナクモ「トラホーム」ト記載シタル者モアリ然レトモ實際「トラホーム」ニ非サルニ「トラホーム」ト記載セル者ノ數ハ只今記憶ナシ證第三號ニ「重症」又ハ「不」ト記載セルハ實際「トラホーム」ヲ患ヒ居タル者ニシテ之等ノ記載ナキ者ハ眞正「トラホーム」患者ニ非サルニ自分カ虚偽ニ書キタルモノナリ又輕症ニテ全治シタル者ニ對シ全治後ニ於テモ未タ全治セスト詐リ通院セシメタル者モ中ニハアルモ證第三號ノ記載ニテハ夫等ノコトハ判明セスト述ヘ次ニ治療費ノ前拂ヲ受ケタル點ニ付從來ノ自白ヲ翻シ(記錄第四三五丁)タル處前掲司法警察官第三回聽取書ノ記載ノ讀聞ケヲ受ケ訊問セラルルヤ之ヲ肯定シ重ネテ「最初ノ間ハ治療費ヲ詐取スル目的ナリシモ後ニ至リ患者カ證明書ヲ欲スルコト切實ナル點ニ乘シ其關係ヲ巧ニ利用シテ「トラホーム」症ナル旨欺キテ金ヲ取りタルコトニナルヤ」竝ニ記錄第二九二丁乃至第二九四丁記載ノ者ノ中實際ニ「トラホーム」患者ナリシ者モアル譯ナリヤ」トノ問ヲ肯定シ現在ノ心境ニ付一時ノ氣ノ迷ヒニテ申譯ナキコトヲ爲シタリト思ヒ衷心慚愧ニ堪エス悔悟シ居ル旨供述シ

居リテ以上ノ各供述ヲ彼此對照スルトキハ被告人ノ自白タルヤ犯罪著手ノ日時竝被害者ノ數其ノ他必スシモ首尾一貫セサルモノアリ又其ノ供述自體ノ價值判斷ニ付テハ更ニ精細ナル檢討ヲ要スルコト勿論ナレハ此ノ點ニ付テハ後段ニ詳述スト雖モ大體ニ於テ被告人ハ司法警察官第二回取調以後原審ニ至ル迄犯罪事實ヲ肯定シ來レルコトヲ認メ得ヘシ而シテ證第三號中「重症」又ハ「不」ノ記載ナキ者ノ氏名ヲ列擧スレハ

- 針山 清市(清一トアリ) 品川 一郎(品川トアルモノ一ノ指スモノト認ム)
- 京谷 一郎 小谷 幸吉 鈞 由次郎 草開 久雄(久男トアリ)
- 脇田 榮三 安部 清作 殿村 重央(茂男トアリ) 越後 喜作
- 四方 與七 木林 常吉 牧野 久信 布目 與三(彌三トアリ)
- 中野 信吉(眞吉トアリ) 高木 榮作 島 榮作
- 中 谷 勲(伊佐男トアリ)

ノ十八名ナルコトヲ明認シ得ヘシ

依テ以下順次本件公訴事實ヲ認メ得ヘキヤ否ヤヲ檢討センニ

第一、冒頭記載ノ本件被害者ト目セラルル三十四名中

- (1) 島正吉ハ「トラホーム」ニ罹リタル痕跡アリ又現ニ「トラホーム」症
- (2) 鍛塚榮藏ハ「トラホーム」ニ罹リタル痕跡アリ現在癢痕性「トラホーム」症
- (3) 京谷甚市ハ「トラホーム」ニ罹リタル痕跡アリ現ニ「トラホーム」症

- (4) 大谷次作ハ癩痕性「トラホーム」症
 (5) 四村清二ハ「トラホーム」疑似症

ナルコトハ館保二ノ診斷書(記録第四〇六丁以下及第四一五丁)及同人ニ對スル檢事聽取書ニ依リ明瞭ナルヲ以テ被告亦同人等ヲ「トラホーム」ナリト診斷シ之ニ對シ治療ヲ加ヘタルコトハ固ヨリ當然ノ措置ナリト推定スルヲ妥當トスヘク此ノ點ニ關スル前掲被告人ノ自白ハ右館醫師ノ診斷ヨリスルモ亦後段理由ニ依ルモ容易ニ措信シ難ク其ノ他右患者ニ對スル被告人ノ有罪タルコトヲ認ムヘキ證據無シ

第二、(一) 進ンテ「トラホーム」診斷ノ難易竝之ト類似疾患トノ鑑別ノ難易ノ點等ニ付按スルニ

鑑定人三國政吉ノ鑑定書ニ依レハ「トラホーム」ノ類似疾患ハ極メテ多數存シ且「トラホーム」ト其ノ類似疾患タル濾胞性結膜炎、結膜濾胞症、慢性結膜カタル等トノ鑑別ハ至難ナリ元來「トラホーム」ト濾胞性結膜炎乃至結膜濾胞症トノ異同ニ付テハ二説アリテ「トラホーム」ト濾胞性結膜炎乃至結膜濾胞症ハ同一ニシテ唯程度ノ差アルノミト爲スモノト是等ハ相異ルモノナリトノ説ヲ爲ス者アリ而シテ今日ノ通説ハ後説タル二元論ナルモ近年ニ至リ東京帝大石原教授ノ如キハ再ヒ前説ヲ唱ヘ種々ノ經驗ヨリ「トラホーム」ト濾胞性結膜炎ト結膜濾胞症トハ本來同一ノ疾患ニシテ患者ノ體質、生活狀態、環境ノ相違等ニ依リ或時ハ「トラホーム」トナリ又或場合ハ結膜濾胞症トモナルモノトノ考ヲ抱クニ至リタル旨日本眼科學會雜誌昭和十二年七月號上ニ發表シ是等兩説ニ就テハ眼科専門醫ト雖モ其ノ去就ニ迷ハサルヲ得サル狀況ニ在リ故ニ眼科専門醫ニ在リテモ「トラホーム」ノ初期輕症ナルモノノ診斷ニ際シテハ相當ノ智識ト精細ナル檢索或ハ長期ニ亘ル觀察ニ依ラサル限り殆ント不可能ニ屬スル場合尠ナカラ

ス從ツテ専門醫ニ非サル一般開業醫ニ在リテハ個々ノ症例ニ付的確ナル診斷ヲ下スコト殆ント不可能ナリト思料セラル況ンヤ世界有數ノ「トラホーム」國タル我國ニ於テ且上記ノ如ク「トラホーム」ノ早期診斷カ容易ニ非サルノ故ナランカ非専門醫ハ勿論相當ノ經驗アリト思惟セラルル専門醫ニ在リテモ一見結膜濾胞症ナルコト明カナルモノ或ハ單ナル結膜カタルニ過キササルコト明瞭ナルモノニ對シテモ「トラホーム」ナリト診斷シ剩ヘ之ニ手術ヲ施シ居ル者醫學ノ進歩セリト稱セラルル今日ニ於テモ尙決シテ尠ナカラサルコトハ住々見聞スル所ニ屬ス之ヲ要約スルニ比較的末期ニシテ種々ノ症狀ヲ具備シ居ル「トラホーム」ハ其ノ診斷ニ付左マテ因難ニ非サルモ初期輕度ノ「トラホーム」ニ在リテハ之ト鑑別スヘキ數多ノ類似疾患存スルヲ以テ之カ判別ハ熟練セル専門醫ト雖モ容易ナラサル場合尠ナカラス而シテ直チニ「トラホーム」ノ診斷ヲ下ス能ハサル場合ニシテ其ノ經過ヲ觀察スルノ要アル時ハ結膜ニ於ケル癩痕形成ノ有無ニ因ルモノニシテ之レ有ル時ハ「トラホーム」ト診斷ス故ニ夫レカ「トラホーム」ナル限り治療後癩痕ヲ殘スヘキモノナルカ故ニ初期輕度ノ「トラホーム」ニシテ適當ナル治療ニヨリ治療セル場合ニ於テモ癩痕ヲ存スヘキ筈ナレトモ極メテ輕微ナルトキハ臨床的ニ或ハ殆ント痕跡スラ認メサルコトモ有リ得ヘシ然レトモ學者中ニハ「トラホーム」ニシテ全ク癩痕ナク治療セリト發表セル者アレトモ「トラホーム」病原體ノ確立セラレ居ラサル今日ニ於テハ斯ルモノカ果シテ眞ノ「トラホーム」ナリシヤ又「トラホーム」ニ在リテハ極メテ輕症ナルモノハ全ク癩痕ヲ殘サスシテ治療スルモノナリヤ等ノ點ニ付テハ尙將來ノ研究ニ俟タサル可ラサルコトニ屬ス故ニ現今ニ於テハ如何ニ適當ナル治療ニ依ルトモ「トラホーム」ナル限り癩痕ヲ形成セスシテ治療スルモノハ絶無ニ非サルモ殆ント存セスト一般ニ考ヘラレ居ルモノナルコトヲ認メ得ヘシ之ト同時ニ他ノ疾患ノ診定

ニ付一言論及センニ金澤醫學專門學校ニ在リテ眼科ヲ専門ニ學修シ明治三十九年同校ヲ卒業後四五ケ年間金澤、京都、東京等ノ學校、病院ニテ眼科ヲ研究シ大正元年以降高岡市ニ於テ眼科專門醫トシテ開業シ今日ニ至レル館保二ハ昭和十三年十二月五日檢事ノ囑託ニ基キ診察ノ結果

草開久雄 牧野久信 布目彌三次郎 塩井慎一
ハ各健康眼

京谷一郎 高木榮作

ハ結膜充血ニシテ何レモ病氣ト見ル程度ニアラサルモ充血アリ一時的ノモノナラント診斷ヲ下シ同醫師ノ學歷ト經驗トヨリスレハ右診斷ニハ一應信ヲ措クヲ以テ妥當ナリト爲スヘキカ如シト雖モ他方之ニ反シ新潟醫科大學講師ニシテ眼科專門醫タル前記三國政吉ハ同年十月十五日右ノ者等ヲ診察ノ結果

草開久雄 布目彌三次郎 塩井慎一

ハ「トラホーム」ト類症鑑別スヘキ慢性結膜カタル

牧野久信 京谷一郎 高木榮作

ハ「トラホーム」類症疾患タル慢性結膜カタルヲ有シ尙角膜ニハ「トラホーム」パンヌス」ノ初期ト鑑別スヘキ所見ヲ有シ居ル旨診斷セル結果ニ徴スルトキハ前掲(一)ノ如ク獨リ「トラホーム」ノ診斷竝之ト類似疾患ノ鑑別ノ至難事ナルノミナラス「トラホーム」以外ノ眼疾ノ診斷ニ付テモ亦其ノ専門醫間ニ在リテモ各々其ノ所見ヲ異ニスルコト往々存シ醫師ニ非サル常人ノ考ヘ居ルカ如キ診斷ノ容易ナルモノニ非サルコトヲ窺知スルニ足ルヘシ

(二) 然ラハ本判決冒頭掲記ノ本件被害者ナリト目セラレ居ル三十四名中第一ニ説明セル既往及現在ニ於テ明カニ「トラホーム」又ハ其疑似症ニ罹リ居タルモノト認メラレ從ツテ公訴ノ範圍ヨリ除外スルヲ妥當トスヘキ五名ヲ除キタル他ノ二十九名中被告人ノ診斷當時「トラホーム」症又ハ之ト類似疾患ニ罹リ鑑別困難ナリシモノ果シテ存シタリヤ否ヤノ點ニ付一々證據ニ基キ之ヲ念査スルニ

(1) 前記三國鑑定人ノ鑑定書ニ依レハ

針山清市 小谷幸吉 草開久雄 安部清作 殿村重央
木林常吉 布目彌三次郎 中野信吉 酒井富吉
ニ付テハ

(イ) 何レモ「トラホーム」ニハ非サルモ「トラホーム」ト類症鑑別スヘキ慢性結膜炎ヲ有ス而シテ尙針山清市ハ上下眼瞼結膜ニ初學者カ「トラホーム」顆粒ト誤謬スルコトアル結膜結石及マイボーム氏腺梗塞ヲ有ス又殿村重央ノ右眼ニハ偽性翼狀贅片アリ木林常吉ハ外斜視ヲ有シ其左眼ニハ角膜白斑ヲ有シ居ルカ是等ハ何レモ勿論「トラホーム」トハ何等關係ナシ

(ロ) 何レノ例ノ結膜ニモ癩痕ハナキヲ以テ既往ニ於ケル「トラホーム」ノ存在ヲ推定セシムル跡ナキモ其ノ類症疾患タル慢性結膜炎ハ其名ノ示ス如ク慢性ニ經過スルモノナルカ故ニ既往ヨリ存セルモノト推定ス

(ハ) 以上ニテ既ニ明カナルカ如ク既往ニ於ケル「トラホーム」ノ罹患ハ略々否定シ得ルモ其ノ類似疾患タル慢性結膜炎ノ既往ニ於ケル罹患ハ勿論確實ニ否定スルヲ得ス

- (イ) 「トラホーム」ニ非サルモ之カ類似疾患タル結膜濾胞症ヲ有ス
- (ロ) 此ノ結膜濾胞症ハ體質ニヨリテ起ルモノニシテ且ツ又青年者ニ生スト稱セラレ居ルニヨリ之ハ既往ヨリ存シ居タルモノト思ハル而シテ結膜ニハ癍痕ナキ故「トラホーム」ハ無カリシモノト思フ
- (ハ) 以上ニ依リ「トラホーム」ノ存セサリシ事ハ略ホ確實ナルカ結膜濾胞症ノ既往ニ於ケル罹患ヲ否定スル能ハサルコト勿論ナリ

中谷勲ハ

- (イ) 結膜濾胞症ニ慢性結膜「カタル」ノ附加セルモノニシテ「トラホーム」ニアラス
 - (ロ) 結膜ニ癍痕無キニヨリ既往ニ「トラホーム」ハ無カリシモノト思フ然レトモ其ノ類似疾患タル結膜濾胞症及慢性結膜「カタル」ハ既往諸例ニ於ケルカ如ク既往ヨリ存シタモノト思フ
 - (ハ) 以上ニ依リ明カナルカ如ク「トラホーム」ハ恐ク既往ニ存セサリシモノト觀察スルヲ妥當トスルモ其ノ類似疾患タル結膜濾胞症及慢性結膜カタルノ既往ニ於ケル罹患ハ否定スルヲ得ス
- 京野一郡(京谷ノ誤記) 牧野久信 高木榮作ハ
- (イ) 三名トモ現在「トラホーム」ハ無シ然レトモ之カ類似疾患タル慢性結膜「カタル」ヲ有ス尙角膜ニハ「トラホーム」バンヌスノ初期ト鑑別スヘキ所見ヲ何レモ有シ居レリ
 - (ロ) 結膜ニ癍痕ハ無キニヨリ既往ニ「トラホーム」ハ存セサリシモノト思ハル然レトモ慢性結膜「カタル」ハ既往ヨリ存シ居タルモノト思料セララル

往ヨリ存シ居タルモノト思料セララル

- (ハ) 故ニ既往ニ於ケル「トラホーム」ノ罹患ハ否定シ得ルモ其ノ類似疾患タル慢性結膜「カタル」ノ存在ハ否定スル能ハサルコトトナルヘシ

塩井慎一 姫野傳ニ付テハ

- (イ) 現在症トシテ兩者トモ「トラホーム」ハ之ヲ認メ難シ然レトモ其ノ類似疾患タル慢性結膜「カタル」ヲ有ス
- (ロ) 姫野ニ於テハ「トラホーム」治癒後ト認メラルヘキ癍痕アリ塩井ニ於テモ癍痕存スルモ之ハ「トラホーム」ト關係ナキモノナルカ類似疾患タル慢性結膜炎「カタル」ヲ有スルヲ以テ之カ既往ヨリ存シタモノト觀察セララル事ハ既往諸例ニ於ケルト同様ナリ

- (ハ) 故ニ姫野ニ於テハ既往ニ於ケル「トラホーム」ノ罹患ヲ確實ニ否定セラレサルハ勿論ナルカ塩井ニ於テモ其ノ類似疾患タル慢性結膜「カタル」ノ既往ニ於ケル罹患モ決シテ確實ニ否定サレサルコト既往諸例ト同様ナル

旨ノ記載アリ

(2) 記録第四〇六丁以下及第四一五丁ノ館保二ノ診断書中

魚 宇 一 鈞 由次郎

ハ何レモ既往ニ於テ「トラホーム」ニ罹リタル痕跡アル旨ノ記載アリ

(3) 記録第六五二丁以下館保二ノ診察當時ノ患者病狀頭末書中

小谷 幸吉 島 榮作 姫野 傳二 中 俊夫 網谷 喜作

等ハ結膜炎ニ罹リ居タル旨ノ記載アリ

(4) 石 黒 伊 作 荒 木 間 作

ニ付テハ同人等提出ニ係ル始末書(記録第一七二丁以下及第七一丁以下)ニ何レモ既往ニ於テ輕症「トラホーム」ニ罹リ居タル旨ノ記載アリ

右ニヨリ被告人カ診斷セル當時ニ於テモ「トラホーム」症又ハ之ト類似疾患ノ存シタルモノト認定スルヲ妥當トスヘク

(三) 續ツテ醫師タル本件被告人ノ眼科ニ關スル智識ト經驗ト因果シテ如何ナル程度ノモノナリシヤヲ稽查スルニ原審並當審ニ於ケル被告人ノ供述ニ依レハ日本醫學校在學中明治四十一年開業醫試驗ニ合格シタルヲ以テ中途退學ヲ爲シ其後金澤歩兵第三十五聯隊ニ看護卒トシテ入營シ除隊後東京ニ研究ニ行キタルモ明治四十二年五月頃ヨリ醫師ヲ開業セルカ専門トテナク田舎ノ事トテ種々ノ患者ヲ扱ヒ居ルモ平素ハ殆ント眼科ヲ取扱ヒ居ラス患者カ來レハ芥カ入りタル程度ノ者ノ處置ハ爲スモ眼疾ノ患者ハ成ルヘク他ノ専門醫ノ治療ヲ受クヘキ様申シ居レリ(此點ノ供述ハ被告人カ本件嫌疑ヲ受ケ居ルカ如キ多數ノ治療ヲ施シタルコト極メテ明瞭ナルヲ以テ容易ニ信ヲ措キ難シ)又素養ノ點ヨリ申セハ學校時代ニモ臨床的ニ研究シタルコトナク唯書物ヲ讀ミテ知り得タル程度ニテ極メテ淺薄ノモノナリト謂フニ在リ而シテ「トラホーム」ナリヤ否ヤノ診斷ニ付テハ原審ニ於テ眼瞼ノ裏面ニ

「ザラ〜」カアルノハ「トラホーム」ニテ割合簡單ニ診斷可能ナリト謂ヒ當審ニ於テモ略之ト同シク「トラホーム」ノ診斷ハ割合ニ簡單ニテ患者ヲ重症、中症、輕症ニ區別シ居リ重症トハ上下眼瞼ノ裏面ニ顆粒ト云フ「ザラ〜」カ出來タモノヲ云ヒ中症トハ上眼瞼ノ裏面ノミニ此顆粒アルヲ云ヒ輕症トハ眼瞼ノ内皆外皆ノ部分ニ僅少ノ顆粒ノ存スル場合ヲ云フ旨供述シ居ル處之ヲ前掲三國鑑定人ノ鑑定ニ徵スル時ハ被告人ノ眼科殊ニ「トラホーム」ノ診斷ニ付テハ到底専門醫タルノ智識經驗ヲ有セサルハ勿論顆粒ノ存在スルコトハ「トラホーム」症ニ特有ノ徵候ニアラサル初步的ノ智識スラモ之ヲ缺知セルモノナルコトヲ推認シ得ヘク斯ル程度ノ經驗乃至智識ヲ以テシ而モ記錄上明カナル如キ短日時間ニ多數ノ職工志願者ノ身體検査ヲ爲スニ際シ「トラホーム」ノ有無又ハ之ト類似ノ疾患トノ鑑別ヲ正當ニ診定スルコトノ殆ント不可能事ニ屬スヘキコトハ容易ニ之ヲ斷定シ去ルヲ得ヘシ

敘上第二ノ(一)乃至(三)ノ理由ニヨリ本件公訴事實中被害者ト認メラレ居ル者ノ内前記三國鑑定人ノ鑑定ノ對象トナレル針山清市外十五名及前掲魚宇一、島榮作、中俊夫、網谷喜作、石黒伊作、荒木間作、(以上總計二十三名)ニ付テハ被告人ニ於テ診療當時「トラホーム」患者ナリト診斷スルハ寧ロ有リ勝チノ事ニ屬シ起訴ノ如ク其ノ所見ニ反シ故意ニ「トラホーム」ナリトシ金員ヲ詐取セントシタルモノニアラサルモノト推認スルヲ相當トスヘク此ノ點ニ關シ冒頭ニ摘示セル被告人ノ自白ハ前記第二ノ理由並後段説明ノ點トテ彼此綜合考覈スレハ容易ニ事ノ真相ヲ述ヘタルモノト認メ難ク此推定ヲ覆ヘスニ足ルヘキ何等ノ證據ナシ

第三、果シテ然ラハ上記第一、第二ニ掲記ノ被害者ト認メラレ居ル總計二十八名ヲ公判請求書ニ顯ハレ居ル三十四名(其ノ具體的説明ハ冒頭記載ノ如シ)中ヨリ除外スルヲ相當トスヘキヲ以テ最後ニ問題トシテ殘存スルハ

高木富吉 湊 太作 安田留男 品川一郎 越後喜作
四方與七

六〇四

ノ六名ニ過キス

而モ此内湊太作、安田留男ノ兩名ニ付テハ被告人ノ診療當時同人等カ「トラホーム」ニ罹リ居ラサリシモノナルコト竝之ト鑑別困難ナル他ノ類似ノ疾患無カリシコトヲ確認スルニ足ルヘキ何等ノ證據無キヲ以テ之レ亦本件公訴ノ内ヨリ之ヲ逸シ去ルノ外ナク唯

(1) 高木富吉ニ付テハ同人ニ對スル司法警察官代理ノ聽取書(記錄第二〇五丁以下)中ニ昭和十三年一月初旬被告人ヨリオ前ノ眼ハ非道クテ到底俺ニハ癒サレヌ故何處カ他ニ行ケト申サレ止ムナク高岡ノ館病院ニテ診察ヲ受ケシニ全然眼ノ病氣ナク上等ナリト申サレ其ノ證明書ヲ貫ヒ來リシ旨ノ供述記載アルヲ以テ此點ヨリスレハ被告人ノ惡意ヲ推定シ得ヘキカ如シト雖モ若シ眞ニ被告人カ公訴事實ノ如キ惡意ヲ以テ事實ニ反シ「トラホーム」ナリト診斷シタリトセハ當該受診者ニ對シ他ノ専門醫ノ診療ヲ受ケシムル如キハ直チニ其ノ惡事ヲ發覺セラルルコトナルヘク從ツテ被告人カ前記ノ如ク申向ケタル事實自體ニ照シ寧ロ被告人ノ惡意ヲ否定スルヲ以テ妥當ノ判斷ト爲スヘク尙前記第二ノ(一)ノ說明ニ徵スレハ愈々以テ右聽取書ノ記載ヲ以テ被告人ノ有罪ヲ速斷スルヲ得サルノミナラス他ニ之ニ反スル認定ヲ爲スヘキ資料ナシ

(2) 品川一郎、越後喜作、四方與七ノ三名ニ付テハ記錄第四〇六丁以下ノ館醫師ノ診斷書ニハ既往及現在共「トラホーム」ノ症狀ナキモノト診斷スル旨ノ記載アレトモ之ト鑑別ヲ要スル類似疾患ノ有無ニ付何等ノ記載ナキヲ以

テ之レ亦直チニ被告人ノ有罪ヲ斷スヘキ證據ト爲シ難キコト上來ノ說明ニ徵シ自ラ明カナルノミナラス假ニ館醫師ノ診斷書ニ其ノ診察當時右ノ者等カ健康眼ナリシモノナリトノ記載アレハトテ前掲第二ノ(一)後段ニ說示ノ如ク館醫師カ健康眼ナリト診斷セルコト必スシモ確定不可動ノモノナリト爲シ難キ事實ヨリ推セハ館醫師ノ診斷書ノ記載モ亦直チニ採ツテ被告人有罪ノ資料ト爲シ難シ

以上第一乃至第三ニ於テ說明セル所ニヨリ本判決冒頭ニ摘示セル被告人ノ自白ノ眞實ナルコトヲ疑フニ足ルヘキ點多ク多存シ輒ク採ツテ斷罪ノ證據ト爲シ難キモノト謂フヘク更ニ進ンテ被告人ニ本件起訴ノ如キ犯罪敢行ヲ決意スルノ動機原因ノ認ムヘキモノ存シタリヤ否ヤヲ審按スルニ一件記錄中犯罪ノ動機ニ付テ被告人ノ陳述スル所ハ唯僅ニ冒頭摘示ノ内司法警察官代理ノ第二回聽取書及原審公判調書ニ於ケル最後段ノ部分ノ記載アルノミナルカ被告人ハ苦學力行以テ明治四十一年醫術開業試驗ニ合格シ明治四十二年五月頃ヨリ肩書地ニ於テ醫師ヲ開業シ主トシテ内科、花柳病科ノ醫師トシテ今日ニ至レル者ナル處其ノ間約二十年ノ長キニ互リ居町々會議員トシテ町政ニ參與シ警察醫ノ囑託ヲ受ケ今日ニ至ル約十四五年而モ開業間モナク居町々醫トシテ今日ニ及ヒ大正十年頃ヨリ日本鋼管株式會社電氣製鐵所ノ囑託醫ヲ兼ネ來リタルモノニシテ家庭ノ狀況ハ夫婦間ニ男子ナカリシ爲長女スミノ婿養子ヲラシメントシ三郎カ未タ中學卒業當時婿養子縁組ヲ約シ爾後同人ヲ教育シ第四高等學校、東京帝國大學醫學部ヲ卒業セシメ目下同人ハ母校醫學部整形外科講師トシテ奉職シ妻スミトノ間三人ノ子女ヲ擧ケ勤務ノ都合上東京市ニ在住シ被告人ト別居シ居ルコト被告人ハ三郎ヲ迎ヘテ後長男彰(當十一歲)ヲ儲ケタルカ三郎ヲ迎フル際ノ條件トシテ後日被告人ニ男子出生スルモ飽ク迄三郎ヲシテ相續セシムル約ナリシカ彰出生後ニ於テモ被告人夫妻ニ於テ右條件ヲ變改スルノ意圖ナク三郎トノ間極

メテ圓滿ニシテ資産約三萬圓ヲ擁シ醫師トシテノ年收約五千圓ナルコト一件記録ノ上ニ明瞭ニシテ斯ル身分、地位、境遇ニ在ル被告人カ一人ニ付初診五十錢ニ回目以後二十錢宛ノ手當料ヲ徴シ得ルニ過キサル本件犯行ヲ敢テセントシタルカ如キハ他ニ格段ナル證據ナキ限り容易ニ之ヲ肯定スルヲ得ス前掲本件犯罪ノ動機トシテ陳述セル所ノ如キハ之カ肯定ノ資料ト爲スハ甚タ薄弱ニ過クルモノト謂ハサル可ラス尤モ警察官ノ報告書又ハ被告人ノ素行調書ニ依レハ被告人カ高利貸ヲ營ミ或ハ被告人ノ性頗ル強情ニシテ慾心強ク公德心薄シ全町ノ風評惡ク信用薄シナル記載アレトモ何等確實ナル證據ニ基クモノニアラサルノミナラス前記被告人ノ經歷其ノ他ニ照シ輒ク措信シ難ク從ツテ此ノ犯罪ノ動機ノ點ヨリスルモ冒頭摘示ノ自白ノ信憑力ヲ疑ハシムルモノナリ

要之本件ニ於テハ被告人ノ犯意ヲ肯定スルニ足ルヘキ證據十分ナラス結局犯罪ノ證明ナキモノト認メ刑事訴訟法第三百六十二條ニ則リ無罪ノ言渡ヲ爲スヘキモノトス

仍テ主文ノ如ク判決ス

昭和十三年十二月二十四日

富山地方裁判所

三五六 公 訴 棄 却

判 決

本 籍 福岡縣嘉穂郡山田町大字上山田九百五十一番地

住 居 同所四百八十五番地

洋服商

松 岡 松 治

大正三年十一月五日生

右ノ者ニ對スル贈賄被告事件ニ付當裁判所ハ檢事某關與被告人不出頭ノ儘審理ヲ遂ケ判決スルコト左ノ如シ

主 文

本件公訴ハ之ヲ棄却ス

理 由

本件公訴事實ノ要旨ハ被告人ハ豫テヨリ肩書地ニ於テ洋服商ヲ營ミ居ルモノナルカ昭和十五年三月中旬頃物品稅犯則檢舉等ノ事務ニ從事セル飯塚稅務署勤務稅務署屬安部通ヨリ物品稅約八圓ノ脫稅事犯ヲ發見セラレタルトコロヨリ同月下旬頃前記被告人居宅ニ於テ安部ニ對シ寛大ナル處分ヲ受ケ度キ旨ノ請託ノ下ニ現金五十圓ヲ交付シ以テ同人職務ニ關シ贈賄シタルモノナリト謂フニ在レトモ記録編綴嘉穂郡山田町長ヨリ當裁判所檢事局宛回答書ニ依レハ被告人カ昭和十五年七月十八日支那事變ノ爲召集ヲ受ケ下關重砲兵聯隊ニ入隊シ現ニ在隊セル應召軍人ナルコト明ナレハ本件ハ陸軍軍法會議法第一條第二條ニ依リ軍法會議ニ於テ裁判權ヲ有スルモノニシテ通常裁判所ニ於テ裁判權ヲ有セサルモノナルヲ以テ刑事訴訟法第三百六十四條第一號ニ則リ本件公訴ハ之ヲ棄却スヘキモノトス

仍テ主文ノ如ク判決ス

昭和十五年十一月九日

三五六 公 訴 棄 却

三五七 公訴棄却

六〇八
飯塚區裁判所

判決

本籍 千葉縣君津郡湊町櫻井二百六十四番地
住居 東京市豐島區雜司谷町四丁目六百二十七番地 奥津一郎方
書畫骨董ブローカー

竹田讓治事 大河原 一二

當二十六年

右ノ者ニ對スル詐欺及業務上橫領被告事件ニ付當裁判成ハ檢事某關與ノ上審理ヲ遂ケ判決スルコト左ノ如シ

主 文

本件公訴ハ之ヲ棄却ス

理 由

本件公訴事實ノ要旨ハ被告人ハ書畫骨董賣買ノ周旋ヲ業トシ且之ニ附隨シテ書畫鑑定ノ周旋ヲモ營ミ居ルモノナルト
コロ

(第一橫領ノ事實省略)

第二、渡邊晃、松本喜久馬、相川要吉、關五郎ト共謀ノ上山梨縣北巨摩郡葦崎町二千七十五番地岩下恭平ニ於テ渡邊晃ニ資産アリ且嘗テ同人ニ刀劍等ヲ賣却シタル關係ヨリ深く同人ヲ信用シ同人ニ對シ自己所藏ノ書畫骨董類ヲ賣却セムトノ希望アルニ乘シ茲ニ岩下ニ對シ被告人及渡邊晃外三名ノ内一部ノ者ニ於テ恰好ノ書畫ヲ岩下方ニ持込ミテ之ヲ買取ラレ度旨申入レテ預ケ置キ其ノ後他ノ者ニ於テ全く之ト連絡ナクシテ岩下ノ所藏品ヲ買受クル希望アルモノ如ク裝ヒ其ノ閱覽ヲ求メ其ノ際右持込品ヲモ高價ニ買取ルヘキ旨申許リ因テ岩下ヲシテ同書畫ヲ買取ルニ於テハ直チニ高價ニ轉賣シ得ルモノト誤信セシメテ其ノ買受代金名義ニテ金員ヲ交付セシムル所謂鹽廻シノ方法ヲ以テ金員ヲ騙取セムコトヲ企テ昭和十三年六月十六日被告人及關ノ兩名ハ山梨縣南都留郡下吉田町下吉田二百四十六番地渡邊晃方ヨリ同人所有ニ係ル猩々曉齊ノ落款アル人物畫大幅絹本一點(昭和十三年押第五十七號ノ六)無落款ノ佛畫大幅絹本一點(同號ノ五)竹田ノ落款アル山水畫尺五絹本双幅一點(同號ノ一六)ヲ搬出シ同月十八日右四點ト共ニ關所有ニ係ル雅邦ノ落款アル山水畫尺八絹本一點(同號ノ一)大觀ノ落款アル山水畫尺八絹本一點(同號ノ三)及被告人所有ニ係ル百穂ノ落款アル山水畫尺八絹本一點(同號ノ二)ヲ岩下方ニ持參シ同人ニ對シ之等ハ孰レモ長野縣松本市ニ在住スル被告人ノ叔父某ノ所藏品ナルニ付熟覽ノ上是非買取ラレ度旨申入レテ預ケ置キ翌十九日松本相川ノ兩名ハ岩下方ニ到リ同人ニ對シ自分等ハ渡邊晃ノ依頼ニ依リ岩下所藏ノ書畫骨董類買受ノ下見ニ參リタルモノニシテ殊ニ松本ハ東京ヨリ來レル書畫骨董ノ鑑定家ナリト詐稱シテ岩下ノ所藏品ヲ前記被告人等ノ持込品ト共ニ見分シ就中前述ノ人物畫及佛畫ハ大幅ニシテ渡邊晃ニ向ク珍品ナリト賞揚シタル上該持込品中無名ノ落款アル山水畫双幅一點以外ノ六點ヲ含ム三十四點ノ書畫骨董類ヲ代金五萬圓ニテ數日中ニ渡邊晃ニ賣却方ノ周旋ヲ爲スヘシト申欺キ同月

二十二日渡邊見ハ松本、相川ヲ同伴シテ岩下方ニ到リ眞實買受クル意思ナキニ拘ラス右三十四點ヲ數時間ニ互リテ入念ニ吟味スル態ヲ爲シタル後殊更ニ前記持込品以外ノ五點ヲ除キタル殘餘ノ二十九點ヲ代金五萬一千圓トシテ同月二十五日現金引換ニ引取りニ來ルヘキニ付賣渡シアリ度旨申許リ因テ岩下ヲシテ右六點ノ持込品ヲ買受クルニ於テハ前述ノ如ク渡邊見ニ高價ニ轉賣シテ利益ヲ擧ケ得ルモノト誤信セシメ之カ爲被告及關トノ間ニ右六點ニ付賣買契約ヲ締結セシメ同月二十四日岩下方ニ於テ被告及關ノ兩名ニ賣買代金名義ノ下ニ金七千五百圓ヲ交付セシメテ之騙取シ

タルモノナリ

ト謂フニ在レトモ本件記録ニ徴スレハ被告人ハ第一補充騎砲兵ニシテ召集ヲ受ケ昭和十四年八月五日津田沼騎砲兵聯隊ヘ應召入隊同年十一月二十六日北支戰車第八聯隊ニ衛生一等兵トシテ轉屬目下該隊ニテ勤務中ナルコト明瞭ナルトコロ召集中ノ出征軍人タル被告人ニ對シ通常裁判所カ裁判權ヲ有セサルコトハ陸軍軍法會議法第一條陸軍刑法第八條ノ規定ニ徴シ明白ナルヲ以テ本件公訴ハ刑事訴訟法第二百六十四條第一號ニ依リ之ヲ棄却スヘキモノトス仍テ主文ノ如ク判決ス

昭和十五年三月五日

甲府地方裁判所

三五八 公 訴 棄 却

判 決

本籍 鹿兒島縣出水郡出水町大字武井二百二十九番地

住居 川崎市南幸町三丁目千三百七十三番地 岡積共幸方

無職 岡積ミツル 當三十四年

本籍 靜岡縣加茂郡竹麻村湊八百九十六番地ノ三十五

住居 川崎市南幸町三丁目千三百七十三番地 岡積共幸方

職工 關寬治 當二十三年

右兩名ニ對スル姦通被告事件ニ付判決スルコト左ノ如シ(檢事某關與)

主 文

本件公訴ヲ棄却ス

理 由

本件公訴事實ハ被告人ミツルハ岡積共幸ノ妻ニシテ被告人寬治ハ同人方ノ職工ニシテ該事實ヲ知り乍ラ右兩名ハ昭和十五年二月頃ヨリ同十六年一月初旬頃迄ノ間前後十數回ニ亘リ肩書居宅ニ於テ姦通シタルモノナリト謂フニ在レトモ右ハ親告罪ニシテ告訴人岡積共幸ヨリ昭和十六年二月十日右告訴ノ取消アリタルヲ以テ刑事訴訟法第三百六十四條第

五號ニ從ヒ公訴棄却ノ言渡ヲ爲スヘキモノトス
仍テ主文ノ如ク判決シタリ

昭和十六年二月十五日

横濱區裁判所

三五九 公訴棄却

判決

本籍 北海道虻田郡喜茂別村字喜茂別番外地

住居 同道根室郡根室町大字花咲町二丁目

原間井ラヂオ店方

吳服行商

梅津由松

明治二十八年八月二十日生

本籍

北海道禮文郡香深村大字香深字ヘウケトンナイ百九十四番地

住居

梅津由松ニ同ジ

無職

小寺みな

明治二十五年八月十六日生

右兩名ニ對スル姦通被告事件ニ付昭和十四年九月二十日根室區裁判所ニ於テ言渡シタル公訴棄却ノ判決ニ對シ原審檢

事ヨリ適法ナル控訴ノ申立アリタルニ依リ當裁判所ハ檢事某關與ノ上更ニ審理ヲ遂ケ判決スルコト左ノ如シ

主文

本件公訴ハ之ヲ棄却ス

理由

本件公訴事實ノ要旨ハ

被告人みなハ河原與吉ノ妻ニシテ被告人由松ハみなカ右ノ如ク有夫ノ婦ナルコトヲ知悉シ居タルモノナルトコロ被告
人兩名ハ何レモ犯意繼續シテ昭和十三年五月中旬頃北海道網走郡津別村一條旅館及同村津別旅館ニ於テ其ノ後同年十
一月末頃迄ノ間ニ同道千島列島國後島等ニ於テ昭和十四年二月中旬頃同道川上郡弟子屈溫泉某旅館ニ於テ情交ヲ爲シ
以テ順次姦通シタルモノナリ

ト謂フニ在リテハ右事實ハ被告人兩名ノ當公廷ニ於ケル各其ノ旨ノ供述ニ徴シ之ヲ認メ得ヘク而シテ右ハ刑法第百八十
三條第一項ニ該當スル姦通ノ所爲ナルニ依リ同條第二項ニ基キ本夫ノ告訴ヲ待チテ其ノ罪ヲ論スヘキ所謂親告罪ナリ
トス仍テ適法ナル告訴アリタルヤ否ヤニ付案スルニ河原與吉提出ノ告訴狀同人ニ對スル司法警察官代理ノ告訴補充調
書ノ各記載原審第一回公判調書中證人河原與吉ノ供述記載ニ依レハ河原與吉ハ昭和十四年七月十二日北海道廳網走警
察署女滿別巡查部長派出所ニ於テ司法警察官代理巡查部長大場新悅郎ニ對シ本件姦通ノ事實ニ付告訴ヲ爲ス旨ノ意思
表示ヲ爲シタルコトヲ認メ得ヘシ然レトモ河原與吉ニ對スル司法警察官ノ聽取書同檢事ノ第一回聽取書中ノ各同人ノ
供述記載原審第一回公判調書中證人河原與吉ノ供述記載ノ一部被告人みなニ對スル司法警察官ノ聽取書同檢事ノ聽取

書原審第一回公判調書中ノ被告人みなノ各供述記載原審第一回公判調書中被告人由松ノ供述記載並當公廷ニ於ケル被告人兩名ノ各供述ヲ綜合スレハ被告人由松ハ約十七、八年以前ヨリ北海道網走郡女滿別村ニ妻ますえ及其ノ子等ト共ニ被告人みなハ明治四十五年四月一日河原與吉ト婚姻ヲ爲シ右同村ニテ由松ノ近隣ニ夫與吉及其ノ子等ト共ニ夫々暮シ來リタルモノナルトコト被告人兩名ハ共ニ吳服行商ヲ營ミ居タルヨリ其ノ商用ノ途路ニ於テ前示ノ如ク情ヲ通スルニ至リタルモノナルモ其ノ後ナル昭和十四年二月中旬頃みなハ夫與吉ノ許ニ還リ同人ニ對シ由松トノ關係ニ付一伍一什ヲ告ケ謝罪シタル上從前通り同棲シ居タルモ被告人由松ハ同年十四日頃みな及與吉ニ對シみなトノ從前ノ關係ヘノ復歸ヲ求ムル旨ノ脅迫的言辭ヲ連ラネタル手紙ヲ送付シタルコトヨリ昭和十四年二月二十八日網走區裁判所ニ於テ脅迫罪其ノ他ニ依リ懲役四月及科料五圓ニ處セラレ尙懲役刑ニ付テハ三年間執行猶豫ノ裁判ヲ受ケ其ノ後ハ前示妻ますえノ許ニ還リみなトノ關係ヲ絶チ居タルモ敘上みなトノ情交關係並脅迫罪等ニ依リ刑ニ處セラレタル事實等ノ爲與吉方ト由松方トハ近隣ナルニ拘ラス事毎ニ反目シ其ノ交際圓滿ヲ缺キ又與吉夫婦間ニ於テモ風波ノ絶ユル暇ナカリシヲ憂ヒタル右兩家ノ近隣ナル津乘勝藏ニ於テハ由松みなモ夫々前非ヲ悔ヒ居ルコトトテ與吉夫婦間ノ圓滿、兩家交際ノ復活ヲ圖ル爲從來ノ行掛ヲ一掃シ和解セシムルコトト爲シ昭和十四年三月初旬頃ノ夜右津乘勝藏方ヘ仲裁人トシテ同人並近隣居住者ナル木村三代治成常茂市河原方ヨリハ與吉みな及長女ヨシ子梅津方ヨリハ由松及妻ますえ長女シン等夫々參集シ宴席ヲ設ケ其ノ席上みなハ津乘ヨリ與吉力仲裁人タル同人ニ一切ヲ委セ水ニ流シ許シ遺ル旨申居ルヨリ今後氣ヲ付ケ仲良ク暮サレ度キ旨告ケラレシヨリ與吉ニ對シ由松トノ間ニ於ケル從前ノ非行ヲ謝罪シタルトコト與吉ハみなニ向ヒ今迄ノコトハ許シ遺ル旨申シ渡シタルコト並由松ニ對シテモ本件姦通事實ハ一切之ヲ水ニ流ス旨言明シ列

席者ノ面前ニテ右兩家ハ從來ノ蟠レル感情ヲ一掃シ從來圓滿ニ交際スヘキコトヲ互ニ誓約シ參集者一同互ニ酒盃ヲ交シ歡談ヲ遂ケタル事實並其ノ後被告人兩名間ニ情交關係等ノ無カリシ事實等ヲ認メ得ヘク是等ノ認定事實ヨリ推考スレハ其ノ際與吉ハ被告人兩名ニ對シ前示姦通ヲ宥恕シタルモノト認定スルヲ相當トスヘク而シテ右ノ如ク宥恕アリタル以上與吉ノ右姦通事實ニ付有セシ告訴權ハ同時ニ當然消滅ニ歸スルモノト解スルヲ妥當トスルヲ以テ其ノ後ナル昭和十四年七月十二日爲シタル前示告訴ハ其ノ效ナキコト明白ナリト謂ハサルヘカラス然ラハ本件公訴ハ告訴ナキニ拘ラス提起セラレタルニ歸シ結局起訴條件ヲ缺クヲ以テ刑事訴訟法第三百六十四條第六號ニ則リ判決ヲ以テ之ヲ棄却スヘキモノトス仍テ主文ノ如ク判決ス

昭和十四年十月三十日

釧路地方裁判所刑事部

裁判長判事 甲 某
 判事 乙 某
 裁判長判事 甲 某

三六〇 公 訴 棄 却

判 決

三六〇 公 訴 棄 却

判事丙某ハ出張ニ付署名捺印スルコト能ハス

本籍及住居 小樽市花園町東四丁目十九番地

有價證券買入

大浦 興三市

明治十八年九月二十九日生

右傷害被告事件ニ付小樽區裁判所ノ言渡シタル無罪ノ判決ニ對シ同區裁判所檢事某ヨリ控訴ノ申立アリタルヲ以テ當裁判所ハ檢事某關與ノ上更ニ審理ヲ遂ケ判決スルコト左ノ如シ

主 文

本件公訴ハ之ヲ棄却ス

理 由

本件公訴事實ハ

被告人ハ昭和十四年八月十日小樽市花園町東四丁目十九番地自宅ニ於テ金錢貸借上ノコトヨリ安保留藏ト口論シ手ニテ同人ヲ毆打シ右額骨弓部等ニ治療三日間ヲ要スル傷害ヲ與ヘタルモノナリト謂フニ在リテ

原審ニ於ケル第二回公判調書中證人早貨博ノ供述トシテ判示日時場所ニ於テ被告人ト安保留藏中口論トナリ安保留カ立上リ上半身ヲテীবルニ乗リ上ケル様ニシテ右手ヲ以テ被告人ヲ毆リ付ケ更ニ二度目ヲ毆リサウナ態度ヲ取リタル際被告人モ立上リ何ヲスルカト申シ乍ラ兩手ヲ擧ケテ飛ヒ蒐ツテ行キタルカ瞬間ノ事ニテヨク判ラサリシモ被告人モ一ツカニツ叩キタル様ナリシ旨ノ記載、被告人ノ當公廷ニ於ケル判示日時場所ニ於テ金錢貸借問題ニ付安保留ト對談中口

論トナリ自分ハ五月蠅イカラ歸レト申シタルニ同人ハ突然席ヲ立チ自分ノ左頬ヲ毆リタル故自分モ何ヲスルカト申シ立上リタルニ同人ハ更ニ手ヲ振り上ケ毆リ來ラントスル様子ナリシヲ以テ自分ハ兩手ヲ擧ケ進ミ行キ相手ノ手ヲ掴マントシタルカ其際安保留ハ體當リヲ受ケ顛倒シタル旨ノ供述、原審第一回公判調書中被告人ノ供述トシテ安保留ノ爲ニ二度目ニ毆ラレ様トシタ時ソレヲ防カウトシテ取り掛ツテ行キタル際叩イタカモ知レサル旨ノ記載等ヲ綜合スレハ被告人カ判示日時場所ニ於テ安保留藏ニ對シ手ヲ以テ毆打スル等ノ暴行ヲ加ヘタル事實ハ之ヲ推認シ得ルトコロナレトモ證人瀬戸國治ノ當公廷ニ於ケル自分ハ大正十二年以降小樽市入船町四丁目ナル現住所ニテ外科醫師ヲ開業、今日ニ至リタル者ニテ昭和十四年八月十日午後四時頃夫迄面識モナキ安保留藏ナル者自分方ニ來リ他人ニ叩カレ左額及右額骨ニ痛ミヲ感スルト申ス故診察シタルトコロ同人カ痛ミヲ感スルト謂フ部位ニハ腫脹モナク發赤ノ形跡モナク單ニ指ニテ押サハ壓痛ヲ訴フル如キ程度ニテ外部的ニハ何等ノ變化モナカリシモ他覺的ニ患者ノ主訴ヲ否定スル事出來サル故安保留ノ主訴ヲ信シ同人ノ言フ如ク該部位ニ極ク輕度ノ外力カ加ヘラレタルモノト診斷シタルカ同傷害ハ其ノ儘ニ放置スルモ治癒スルト思ヒタル故手當ヲ加フルコトモ爲ササリシモノナルカスカル場合ニ於テモ醫師ノ責任上放置スル譯ニ行カサル爲同人ノ要求ニ應シテ通院加療三日ヲ要スル打撲傷ノ診斷書ヲ交付シタルモノナル旨ノ證言ニ徵セハ被告人カ安保留藏ニ加ヘタル暴行ニ因ル被害ノ如キハ刑法第二百四條ニ所謂傷害ノ程度ニ至ラサリシモノト謂フヘク而シテ被告人ノ暴行ノ點ニ付テハ既ニ昭和十四年九月二十一日附ヲ以テ被害者安保留藏ヨリ本件告訴ノ取消アリタルカ故ニ本件公訴ハ訴訟條件ヲ欠クモノトシテ刑事訴訟法第三頁六十四條第五號ニ則リ之ヲ棄却スヘキモノトス仍テ主文ノ如ク判決ス

昭和十五年三月六日

六一八

札幌地方裁判所刑事部

三六一 控訴棄却

判決

本籍 北海道花咲郡齒舞村大字友知村三番地
住所 同所一番地

昆布採取人

上野 仁 郎

大正元年九月七日生

右ノ者ニ對スル放火被告事件ニ付昭和十四年三月二十四日釧路地方裁判所カ言渡シタル有罪判決ニ對シ原審辯護人ヨリ控訴ノ申立アリタルヲ以テ當院ハ檢事某關與ノ上判決スルコト左ノ如シ

主 文

本件控訴ハ之ヲ棄却ス

理 由

被告人ハ昭和十四年三月二十四日釧路地方裁判所ニ於テ放火罪ニ因リ懲役一年六月ニ處ス但未決勾留日數中百二十日ヲ右本刑ニ算入ス訴訟費用ハ全部被告人ノ負擔トストノ判決ノ宣告ヲ受ケタルモノナルトコロ原審辯護人手島胤則ハ

同月二十八日被告人ノ爲控訴ノ申立ヲ爲シタルカ一方被告人ハ同日適法ナル上訴權拋棄申立書ヲ提出シタルコトヲ認メ得ヘク當時被告人ニ於テ上訴權拋棄ノ意思アリタルコトハ被告人ノ當公庭ニ於ケル供述ニ依リテモ明ナルトコロナリ而シテ刑事訴訟法第二百七十九條ニ依レハ原審辯護人ハ被告人ノ爲上訴ヲ爲スコトヲ得ルモ被告人ノ明示シタル意思ニ反スルコトヲ得サルモノナルヲ以テ右辯護人ノ爲シタル控訴ノ申立ハ被告人ノ爲シタル上訴權拋棄ノ意思ニ反シ無効ノモノト謂ハサルヘカラス從テ刑事訴訟法第四百條ノ趣旨ニ則リ本件控訴ハ之ヲ棄却スヘキモノトス仍テ主文ノ如ク判決ス

昭和十四年四月二十七日

札幌控訴院刑事部

三六二 私 訴

判決

私訴原告 國 勝 正 憲
右代表者選信大臣
右指定代表者廣島選信局在勤
選信書記 木 原 信 夫

本籍 福井縣大野郡大野町大野西二番二一四號二番地

三六一 私 訴

六一九

右私訴被告橋本坦ニ對スル公文書變造行使詐欺被告事件ノ公訴ニ附帶スル右當事者間ノ昭和十五年(う)第一號損害賠償請求私訴事件ニ付當裁判所ハ判決スルコト左ノ如シ

主 文

私訴被告ハ私訴原告ニ對シ金參千五百五十圓九十八錢ヲ支拂フヘシ

私訴訴訟費用ハ私訴被告ノ負擔トス

事 實

私訴原告指定代表者ハ私訴被告ハ私訴原告ニ對シ金參千五百五十圓九十八錢ヲ支拂フヘシ私訴訴訟費用ハ私訴被告ノ負擔トストノ判決ヲ求メ其ノ請求ノ原因トシテ私訴被告ハ訴外瀧川雄次事笠原快造ト共謀ノ上各地三等郵便局ヲ物色シ先ツ虛無人名義ヲ以テ郵便貯金ノ預入ヲ爲シ郵便貯金通帳ノ交付ヲ受ケ該通帳ニテ數回預入或ハ拂戻ヲ爲シ其ノ貯金現在高カ相當額ニ達スルヤ該通帳ノ受入高、拂出高欄ノ次回ニ使用セラルヘキ欄ノ全面ニ布海苔及明礬ヲ溶解シタル液體ヲ塗布乾燥セシメ置キタル後貯金五十錢以上ノ少額貯金ヲ殘シ置キ大部分ノ貯金ハ其ノ即時拂ヲ受ケ該即時拂ニ關スル拂出年月日印、金額印、郵便局長印ノ押捺及日附印、契印等正規ノ手續ヲ經タル郵便貯金通帳ノ交付ヲ受ケルヤ直チニ毛筆ヲ以テ前記液體ヲ塗布乾燥セシメ置キタル上ニ押捺セラレタル右即時拂ニ關スル印影全部ヲ水洗シテ

之ヲ抹消シ一旦拂戻ノ結果右拂戻額ニ付テハ貯金債權ハ消滅シ貯金通帳中之ニ照應スル貯金預入ノ各記入部分ノ文書ハ實質上其ノ效用ヲ失ヒ廢紙ニ均シキモノトナリタルヲ前記ノ如ク拂戻ノ記入ヲ抹消スルコトニ因リ恰モ通帳面ニハ貯金ハ拂戻ヲ受ケスシテ其儘現存シ居ルモノノ如ク作爲シ以テ郵便局長ノ作成ニ係リ且其ノ印影アル郵便貯金通帳ヲ偽造シ右偽造ノ通帳ヲ郵便局係員ニ提出行使シ係員ヲ欺罔シテ即時拂名義ノ下ニ金員ヲ騙取センコトヲ企テ

一、別表(一)記載ノ如ク昭和十二年十月九日ヨリ昭和十三年三月二十八日迄ノ間前後二十一回ニ亙リ名古屋市西區名古屋押切郵便局外十八ヶ所ニ於テ前記方法ニ依リ合計金二千九百七十五圓ヲ騙取シ

二、被告人單獨ニテ別表(二)記載ノ如ク昭和十四年三月十三日ヨリ同年十月二十六日迄ノ間前後六回ニ亙リ防府市宮市郵便局外五ヶ所ニ於テ前同様ノ方法ニヨリ合計金七百二十八圓ヲ騙取シ

因ツテ私訴原告ニ對シ以上合計金三千七百三圓ノ損害ヲ蒙ラシメ右私訴被告ノ不法行爲ニ基キ私訴原告ハ私訴被告ニ對シ同金額ノ損害賠償請求權ヲ有スルニ至リタルカ右債權ト私訴被告カ私訴原告ニ對シテ有スル前示郵便貯金ノ殘額タル私訴原告ノ預金原簿面金額及利息金ノ合計金百五十二圓二錢ノ郵便貯金拂戻請求權トヲ本訴ニ於テ其ノ對當額ニ於テ相殺ス仍テ其殘額金三千五百五十圓九十八錢ノ賠償ヲ求ムル爲メ本訴請求ニ及ヒタリト陳述シ立證トシテ本件公訴一件記録ヲ援用スト述ヘタリ

私訴被告ハ私訴原告ノ請求ハ之ヲ棄却ストノ判決ヲ求メ答辯トシテ私訴原告主張ノ事實ハ之ヲ認ムルモ別表(一)記載ノ犯行ハ私訴被告カ訴外瀧川雄次事笠原快造ト共謀ノ上私訴原告ニ對シ損害ヲ加ヘタルモノナレハ私訴原告ニ對シ右損害額ノ半額ヲ賠償スヘキ義務アルモ全額支拂ノ責任ナク且目下支拂資力ナキニ依リ私訴原告ノ本訴請求ニ應ジ難シ

仍テ按スルニ私訴被告カ私訴原告主張ノ如キ手段方法ヲ以テ私訴原告ヨリ公金ヲ騙取シ因ツテ右不法行爲ニ依リ私訴原告ニ對シ別表(一)及(二)記載ノ如ク合計金三千七百三圓ノ損害ヲ蒙ラシメタル事實ハ公訴一件記録ニ依リ認め得ルトコロニシテ私訴被告ハ別表(二)記載ノ部分ニ付其ノ全額賠償ノ責任ナシト抗爭スレトモ私訴被告カ訴外笠原快造ト共謀ノ上私訴原告ニ對シ損害ヲ加ヘタルモノ即共同ノ不法行爲ニ因リテ他人ニ損害ヲ加ヘタル場合ニ該當シ共同不法行爲者ハ各自連帶シテ其ノ被害金ノ全額ニ付賠償ノ責ニ任スヘキモノナルコト民法第七百十九條ニヨリ明カニシテ私訴被告ノ手許不如意ノ抗辯モ亦本件請求ヲ拒否スルノ事由トナスニ足ラス

依テ私訴被告ノ私訴被告ニ對スル三千七百三圓ノ賠償請求權ト私訴被告ノ私訴原告ニ對スル金百五十二圓二錢ノ貯金拂戻請求權トヲ其ノ對當額ニ於テ相殺シ其殘額金三千五百五十圓九十八錢ニ付テハ私訴被告ニ於テ之カ支拂ノ義務アルヤ明カニシテ右金圓ノ支拂ヲ求ムル本件私訴請求ハ正當ナルヲ以テ之ヲ認容スヘク私訴訴訟費用ノ負擔ニ付刑事訴訟法第五百七十二條民事訴訟法第八十九條ヲ適用シ主文ノ如ク判決ス

昭和十五年四月十二日

山口地方裁判所

別表(一)

預金取扱局ニシテ偽造通帳行使及詐欺ノ場所	通帳記番	預金名義人氏名	新規預入金高	最終現最高	最終拂戻金額	拂戻記入ヲ抹消シテ通帳ニ偽造シタル日	偽造通帳行使及詐欺各ノ年	同上騙取金額	同上利得金額
名古屋西區 名古屋押切局	わろつう 二五四八七	松本精一	二二	七二	七〇	一、一〇、五	一、一〇、九	七〇	六八
昭和區 牛卷局	わとち 二二〇三三	平林政男	二五	九八	九五	一〇、一五	一〇、一五	一〇五	九三
吸場局	わちつ 八六八九	荒川省二	一〇	九七	九五	一〇、一〇	一〇、一六	一〇五	九三
大阪市港區 大阪八幡屋局	とわ 二八三三八	谷口勇次	七五	一三三	一三〇	一、一、九	一、一、五	一三〇	一二七
堺市堺局	ちみ 一〇三三七	横田浩次	二〇	一八五	一八〇	一、一、三	一、一、三	一八〇	一七五
安井局	にく 三三三六一	太田正	一〇	一六五	一六〇	一、二、四	一、二、四	一六〇	一五五
材木町局	りぬ 一六二二七	田村久太郎	三〇	二二〇	二〇〇	一、一、六	一、一、七	二〇五	一九五
善源寺局	とつ 三三七六	山崎孝一	二五	一一〇	一〇五	一、一、二〇	一、一、二〇	一一五	一一〇
東淀川區 南長柄局	なろて 二二九六	小倉豊一	一三、一、六	九五	九〇	一、一、一三	一、一、一三	九〇	八五
大分市 大分長池局	なろて 二二九六	松本金次郎	四〇	一一五	一一三	一、一、一七	一、一、一七	一一〇	一〇八
中島局	なほ 八六〇	辻政一	三五	八五	八〇	一、一、一五	一、一、一五	七五	七〇
福岡縣箱崎町 箱崎局	てけ 二二四九六	伊藤久雄	五〇	一一五	一一三	一、一、二	一、一、二	一一〇	一一八
福岡市 渡邊通局	てちほ 六三二九	藤田孝一	四〇	一一〇	一〇五	一、一、七	一、一、七	一一五	一〇〇
住吉局	てちほ 二五五六	中村富次郎	二〇	一〇七	一〇五	一、一、〇	一、一、〇	一一五	一〇三
廣島市 大手町局	くほい 一九四九五	平井佐一郎	六〇	一九〇	一八五	一、一、一	一、一、一	一八五	一八〇

別表(二)

預金取扱局ニシテ 及詐欺ノ場所	通帳 番記號	預金名義人氏名	新規預入 年月日	新規預 金高	最終現 在高	最終拂 戻金額	拂戻記入ヲ 抹消シテ通 帳ヲ偽造シ タル日	偽造通 帳ニヨリ 其後ノ預 金日	同 上 取 金 額	同 上 利 得 金 額
防府市局	のゑ 二四三九八	古川重次	一四、二、二八	八〇円	八〇円	七九円	一四、三、二	一四、三、一三	七五円	七四円
三田尻局	のいぬ 二五六六四	服部忠一	〃 三、一三	二五	七五	七〇	〃 〃 一五	〃 〃 二九	七三	六八
山口市局	のえよ 五三三八	橋本清	〃 六、四	二	一一二	一一〇	〃 〃 六、三〇	〃 〃 七、一七	一〇〇	九八
上堅小路局	のむむ 八〇八九	山内進	〃 〃 二七	五	一一二	一一〇	〃 〃 七、一	〃 〃 一七	一〇〇	九九
徳山市局	のほけ 九六八一	中村茂	〃 八、一〇	一五七	一五七	一五五	〃 〃 八、一一	〃 〃 九、八	一六〇	一五三
野上町局	のの 七〇三八〇	有富英夫	〃 一〇、一一	一一四	二三四	二三〇	〃 〃 一〇、一六	〃 〃 一〇、二六	二二〇	二一六
防府市局	のの 七〇三八〇	合計							七二八	七〇八
竹屋町局	くほと 二八五三三	田中實	〃 〃 二八	四〇	一九〇	一八五	〃 〃 一〇	〃 〃	一八〇	一七五
平塚局	くゆ 一三八六五	佐藤修一郎	〃 〃 三一	二〇	一八五	一八〇	〃 〃 九	〃 〃	一八〇	一七五
御幸橋局	くあ 二五四三九	鈴木徳三郎	〃 〃 三、二	二〇	一九〇	一八八	〃 〃 一二	〃 〃	一八五	一八三
平塚局	くゆ 一三八七四	吉田梅造	〃 〃 三	二〇	一九〇	一八八	〃 〃 一四	〃 〃	一八五	一八三
御幸通局	へほむ 一九六三三	坂井良三	〃 〃 四	二〇	一八七	一八五	〃 〃 一五	〃 〃	一八五	一八三
呉市本通局	くほふ 七六三四五	阪井安太郎	〃 〃 二、二三	一一五	一八五	一八〇	〃 〃 二、二六	〃 〃 三、八	一八〇	一七五
合計									二、九七五	二、八四三

三六三 私 訴

判 決

大阪市西淀川区加島町

原告 濱 房 吉
被告 井 前 正

福岡市養島町日ノ出町七百四十二番地

原告 坂 本 節 太 郎
被告 塚 本 徳 計

福岡市清水東町四百六十三番地

原告 小 野 延 弘
被告 近 藤 昇

大分市大字大分天神町千二百七十四番地

原告 秋 田 威 男
被告 政 安 事
右訴訟代理人辯護士 阿 部 萬 太 郎

原告 高 宮 蘇 吉
被告 右訴訟代理人辯護士 阿 部 萬 太 郎

右當事者間ノ昭和十四年(リ)第八號私訴被告坂本節太郎同小野延弘ニ對スル私文書偽造行使公正證書原本不實記載行使詐欺被告事件同秋田威男ニ對スル右同罪及電信法違反被告事件ニ附帶スル私訴事件ニ付當裁判所ハ判決スルコト左ノ如シ

主 文

私訴被告等ハ私訴原告ニ對シ連帶シテ金六千圓及之ニ對スル昭和十三年十月十六日以降完済ニ至ル迄年五分ノ割合ニ依ル金員ヲ支拂フヘシ

私訴原告其ノ餘ノ請求ハ之ヲ棄却ス

私訴訴訟費用ハ私訴被告等ノ連帶負擔トス

事 實

私訴原告代理人ハ私訴被告等ハ連帶シテ私訴原告ニ對シ金一萬圓及之ニ對スル昭和十三年十月十六日以降完済ニ至ル迄年五分ノ割合ニ依ル金員ヲ支拂フヘシ私訴訴訟費用ハ私訴被告等ノ連帶負擔トストノ判決ヲ求メ其ノ請求ノ原因トシテ私訴被告等ハ大分縣大野郡牧口村山下倉慶カ其ノ所有ニ係ル滿庵鑛區御嶽鑛山(同郡白山村及合川村ニ互ル十八萬九百七十坪大分縣試掘權登錄第二二六四號)ヲ賣却スル意アルヲ聞知シタルトコロヨリ倉慶ヲシテ豫テ同人ト知合ナル私訴被告威男ニ右鑛區賣却方ヲ承諾セシメ置キナカラ買主ニ對シ宛モ威男カ右鑛區ノ賣却方ヲ倉慶ヨリ依頼セラレ居ルモノノ如ク裝ヒ買主ヲ欺罔シテ賣買名義ノ下ニ金員ヲ交付セシメ倉慶ヨリノ買値ト賣値トノ差額ヲ騙取センコトヲ共謀シ私訴被告節太郎及同延弘ハ昭和十三年九月二十五日買主物色ノ目的ヲ以テ大阪市ニ赴キ知人ヲ介シテ同市西

淀川區加島町私訴原告渚房吉ト會見シ同人ニ對シ「九州ニ滿庵ノ良鑛アルニヨリ買受ケラレ度」旨ス、メ同人ヲシテ實地視察ノ上之カ諾否ヲ決スヘキコトヲ約セシメテ同月二十八日別府市ニ歸來シタルカ一方其ノ頃私訴被告威男ハ累次倉慶ニ交渉シ「他ニ出資者アルニヨリ右鑛山ヲ自己ニ賣却セラレ度」旨申向ケテ同人ヲシテ該鑛區試掘權採掘設備及採掘鑛石等ヲ代金二萬圓ヲ以テ賣渡シテモ可ナル旨約セシメ置キタルトコロ十月四日私訴原告カ前記約旨ニ基キ來別スルヤ同月六日同人ヲシテ右鑛山ヲ視察セシメタル上止宿先ナル同市湊六旅館ニ之ヲ訪レ私訴原告ニ對シ「威男ハ倉慶ヨリ同人所有ノ本件鑛山ヲ代金三萬圓ヲ以テ他ニ賣却スヘキコトヲ依頼セラレ居ル故私訴原告ニ於テ之ヲ買受ケラレ度ク私訴被告等ハ右仲介ニ付キテハ何等カ報酬ヲ要求セサル」旨虛構ノ事實ヲ申向ケテ私訴原告ヲシテ眞實威男カ本件賣買ニ付賣主倉慶ヲ代理スヘキ權限アリト誤信セシメ本件鑛山ヲ右代金ヲ以テ買受クヘク之カ登錄手續ヲ福岡鑛山監督局ニ於テ爲スヘキコトヲ承諾セシメ威男ハ之カ爲同月八日倉慶ヲ伴ヒ同市ニ赴クコトヲ約シタリ而シテ威男ハ倉慶ニ對シ「福岡市ニ出資者カ來リ居ル故取引スル」旨欺キテ同人ヲ同市ニ伴ヒタルモ同人ニ於テ威男カ私訴原告ニ本件鑛山ヲ讓渡スヘキ約アルヲ知ラハ倉慶ハ威男ニ對スル前記約束ヲ取消スニ至ルコトアルヘキニヨリ茲ニ威男及節太郎兩名ハ共謀ノ上下倉慶名義ノ登錄關係書類ヲ偽造行使センコトヲ決意シ同月十四日福岡市ニ於テ威男ハ先ツ節太郎ヲシテ印判屋ヨリ山下ト刻セル有合木印一個ヲ買ヒ來ラシメ私訴原告ニ對シテ「倉慶ハ都合ニヨリ來合セザルカ自分ハ同人ヨリ本件鑛業權讓渡登錄手續及代金受領ニ付一切委サレラル」旨虛言ヲ以テ欺キタル上威男節太郎私訴原告等ハ同道シテ福岡鑛山監督局前ノ代書人方ニ到リ威男ニ於テ行使ノ目的ヲ以テ情ヲ知ラサル右代書人ニ依頼シテ擅ニ山下倉慶ノ氏名ヲ冒書シ本件鑛業權ヲ渚房吉ニ讓渡シタル旨ノ鑛業權讓渡證書及右鑛業權移轉登錄申請書各一通ヲ作成セシメ倉

慶名下ニハ前記有合印ヲ押捺セシメ以テ順次之カ偽造ヲ遂ケ渚房吉ト共ニ同監督局ニ到リ何レモ真正ニ成立シ且ソノ内容モ眞實ナルモノノ如ク装ヒ之ヲ係員ニ提出シ同登錄官吏ヲシテ試掘原簿ノ原本ニ其ノ旨イ不實ノ記載ヲ爲サシメ即時同所ニ之ヲ備付ケシメ斯クシテ私訴原告ヲシテ眞實本件試掘權ヲ取得シタルモノト誤信セシメタル上翌十五日私訴原告ト共ニ福岡市三和銀行ニ到リ山下倉慶名義ノ偽造ニ係ル本件代金領收書ヲ真正ニ成立シタルモノトシテ私訴原告ニ交付シ同人ヲシテ其ノ旨誤信セシメ以上ノ如クシテ同人ヲシテ倉慶ニ交付スヘキ本件鑛業權等賣買代金名義ノ下ニ金三萬圓ヲ交付セシメタル後内金二萬圓ヲ同市丸明旅館ニ於テ倉慶ニ手渡シ差額一萬圓ヲ領得シ因テ私訴原告ニ對シ同額ノ損害ヲ蒙ラシメタリ仍テ私訴原告ハ私訴被告等ニ對シ不法行爲ヲ原因トシテ金一萬圓ノ損害賠償及之ニ對スル不法行爲ノ翌日タル昭和十三年十月十六日以降完済ニ至ル迄年五分ノ割合ニ依ル遲延損害金ノ支拂ヲ求ムル爲本件公訴ニ附帶シ本訴請求ニ及フト述ヘ證據トシテ本件公訴記錄ヲ全部採用シタリ私訴被告等ハ私訴原告ノ請求ヲ棄却ス私訴訴訟費用ハ私訴原告ノ負擔トストノ判決ヲ求メ答辯トシテ私訴原告主張ノ事實ハ全部之ヲ否認スヘキト述ヘタリ

理由

按スルニ本件公訴記錄ニ據レハ私訴被告小野延弘同秋田威男ハ何レモ鑛業經營ニ經驗ヲ有スルモノ私訴被告坂本節太郎ハ延弘ヲ介シテ威男ト相知リタルモノナルトコロ私訴被告等三名ハ威男ノ知合ナル大分縣大野郡牧口村山下倉慶ヲシテ同人ノ經營ニ係ル滿庵鑛區御嶽鑛山(同郡白山村及同郡合川村ニ亘ル鑛區十八萬九百七十坪)ヲ私訴被告威男ニ賣却方ヲ承諾セシメ之ヲ他ニ賣渡シテ買値ト賣値トノ差額ヲ利得センコトヲ相計リ私訴被告威男ニ於テ倉慶ヨリ右鑛山ヲ可及的安價ニ手離サシムル交渉ヲ私訴被告節太郎同延弘ニ於テ之カ買主ヲ物色スルコトヲ夫々擔當スルコト、ナリ私訴

被告節太郎及同延弘ハ昭和十三年九月二十五日右目的ヲ以テ大阪市ニ到リ知人ヲ通シテ同市西淀川區加島町ノ私訴原告ト會見シ同人ニ對シ「九州ニ滿庵ノ良鑛アルニヨリ買受ケラレ度」旨慫慂シタル結果同人ヲシテ實地視察ノ上之カ諾否ヲ決スヘキコトヲ約セシメタルカ一方其ノ頃私訴被告威男ハ倉慶ニ交渉シ自己ノ右意圖ヲ祕シ「他ニ出資者アルニ付御嶽鑛山ヲ自分ニ賣却セラレ度キ」旨申述ヘ同人ヲシテ右鑛區試掘權採掘設備及採掘鑛石等ヲ代金二萬圓ヲ以テ賣渡スモ可ナル旨諾セシメ置キタルカ私訴被告等三名ハ私訴原告ニ於テ右事實ヲ了知セハ本件鑛山ヲ買受ケサルコトアルヘキヲ慮リ右事實ヲ祕シ私訴原告ニ對シ宛モ私訴被告威男ニ於テ倉慶ヨリ代金三萬圓ヲ以テ右鑛山ノ賣却方ヲ依頼セラレタルモノノ如ク申欺キ且本件鑛山ノ鑛石採掘量ハ多クヲ期シ得ラレサルヲ知悉シナカラ之ヲ誇張シテ私訴原告ヲシテ之カ買受方ヲ承諾セシメ同人ヨリ倉慶ニ交付スヘキ賣買代金名義ノ下ニ金員ヲ騙取センコトヲ謀議シタル結果前記約旨ニ基キ私訴原告カ來別スルヤ同年十月六日同人ヲシテ右鑛山ノ視察ヲ爲サシメタル後其ノ止宿先ナル別府市湊六旅館ニ同人ヲ訪レ同人ニ對シ「威男ハ倉慶ヨリ同人所有ノ御嶽鑛山ヲ代金三萬圓ヲ以テ他ニ賣却方ヲ依頼セラレタル故私訴原告ニ於テ買受ケラレ度ク一、二ヶ月ノ準備期間ヲオカハ威男ニ於テ月三百噸延弘ニ於テ月五百噸節太郎ニ於テ月百五十噸乃至二百噸ノ採掘量ヲ保證スヘク且右仲介ニ付テハ私訴被告等ニ於テ何等之カ報酬ヲ要求セサル」旨交々虚構ノ事實ヲ申向ケテ之カ買取方ヲス、メ私訴原告ヲシテ眞實私訴被告等ノ主張スル程度ノ採掘カ可能ニシテ且威男カ本件賣買ニ付キ倉慶ヲ代理スヘキ權限アルモノト誤信セシメ本件鑛區試掘權ヲ設備一切ト共ニ右代金ヲ以テ買受クヘク之カ登錄手續ヲ同月八日福岡鑛山監督局ニ於テ爲スヘキコトヲ承諾セシメ威男ハ之カ爲同市ニ倉慶ヲ同伴スルコトヲ約シタリ而シテ同月十二日頃威男ハ前記同人ノ言ヨリ同人カ買主ト誤信シタル倉慶ニ對シテハ「福岡市ニ

出資者カ來リヲル故取引スル旨欺キテ同人ヲ同市ニ伴ヒタルモ倉慶ニ於テ買主ノ私訴原告ナルヲ知ルニ於テハ所期ノ目的ヲ達スルコト能ハサルヲ思ヒ茲ニ私訴被告威男及同節太郎ハ山下倉慶名義ノ登録關係書類ヲ偽造行使センコトヲ共謀シ同月十四日私訴被告威男ハ節太郎ヲシテ市内印刷屋ヨリ山下ト刻セル有合木印一個ヲ買來ラシメ同日來福セル私訴原告ニ對シ「倉慶ハ都合ニヨリ來合セ得サルモ自分ハ倉慶ヨリ本件鑛業權讓渡登録手續及代金受領ニ付キ一切ヲ委任セラレラル」旨虚言ヲ以テ私訴原告ヲ欺罔シタル上同日午後四時頃私訴被告威男節太郎私訴原告ハ相携ヘテ福岡鑛山監督局前ノ代書人末村某方ニ到リ威男ニ於テ行使ノ目的ヲ以テ情ヲ知ラサル右代書人ニ依頼シ擅ニ山下倉慶ノ氏名ヲ冒用シ同人名下ニハ前記有合印ヲ押捺スル方法ニヨリ本件試掘權ヲ私訴原告ニ讓渡シタル旨ノ鑛業權讓渡證書及右鑛業權移轉登録申請書各一通ヲ作成セシメテ順次之カ偽造ヲ遂ケ私訴原告ト共ニ右監督局ニ到リ何レモ真正ニ成立シ且之カ内容モ亦眞實ナルモノノ如ク裝ヒ之ヲ一括シテ係員ニ提出シテ同登録官吏ヲシテ試掘原簿ノ原本ニ其ノ旨不實ノ記載ヲ爲サシメ即時同所ニ之ヲ備付ケシメ斯クノ如クシテ私訴原告ヲシテ眞實該試掘權ヲ取得シタルモノト誤信セシメタル上更ニ私訴被告威男ハ翌十五日前記代書人方ニ於テ行使ノ目的ヲ以テ擅ニ情ヲ知ラサル右代書人ヲシテ山下倉慶ノ氏名ヲ冒書シ同人カ本件鑛區讓渡金トシテ私訴原告ヨリ金三萬圓ヲ領收セル旨ノ私訴原告宛ノ領收書一通ヲ作成セシメ倉慶名下ニハ自ラ前記有合印ヲ押捺シテ之カ偽造ヲ完成シ同日正午頃福岡市内三和銀行支店ニ於テ右偽造領收書ヲ眞正ニ成立シタルモノノ如ク私訴原告ニ交付シ同人ヲシテ其カ代理權限ニヨリ作成セラレタルモノト誤信セシメ以上各種ノ錯誤ニ基キ私訴原告ヲシテ即時同所ニ於テ倉慶ニ交付スヘキ本件賣買代金名義ノ下ニ金三萬圓ヲ交付セシメ以テ何レモ所期ノ目的ヲ遂ケタル事實ヲ確認スルニ十分ナリ果シテ然ラハ私訴被告等ハ右共同ノ不法行爲ニ

ヨリ私訴原告ニ對シ右損害ヲ加ヘタルモノト謂フヘキヲ以テ私訴被告等ハ私訴原告ニ對シ連帶シテ之カ賠償ヲ爲スヘキ義務アルヤ洵ニ明ナリ仍テ賠償額ニ付按スルニ私訴原告ハ右金三萬圓ノ内金一萬圓ヲ支拂ヲ求ムルモノナルトコロ本件公訴記録ニ依レハ私訴原告ハ私訴被告等ヨリ判示理由摘示ノ如ク本件鑛山ニ付多量ノ鑛石採掘量ヲ保證スル旨申向ケラルルヤ私訴原告ハ當時滿庵鑛石ノ入手難ニ焦躁ヲ感シヲリタル際トテ本件鑛山ヲ一應檢見シタルノミニテ之カ採掘量ヲ確ムヘキ何等ノ調査ヲモ爲サズ漫然私訴被告等ノ右申出ヲ盲信シ本件賣買ヲ爲スニ至リタルモノナルカ凡ソ鑛山賣買ニ付キテハ賣主側ニ於テハ鑛質ノ優秀鑛石含有量、埋藏量ノ豊富鑛石採掘量ノ多額ナル旨等ヲ誇張シ買主ノ買氣ヲ誘フコト世上往々之ヲ目スルトコロナレハ買主タルモノハ此等ノ點ニ付其カ眞實ナルヤ否ヲ確ムル適當ナル措置ヲ講スヘキ義務アルモノト謂フヘキヲ以テ私訴原告ハ本件賣買締結ニ付右義務懈怠ノ責ヲ免レス仍テ本件賠償額算定ニ付被害者タル私訴原告ノ右過失ヲ斟酌シ私訴被告等ヨリ私訴原告ニ支拂フヘキ賠償額ハ金六千圓ヲ相當ト認ムルヲ以テ私訴原告ノ本訴請求ハ私訴被告等ニ對シ連帶シテ右金員及之ニ對スル本件不法行爲ノ翌日タル昭和十三年十月十六日以降完済ニ至ル迄年五分ノ割合ニ依ル遲延損害金ノ支拂ヲ求ムル限度ニ於テ其ノ理由アルモ爾餘ノ請求ハ失當ナリト認メ之ヲ棄却スヘク私訴訴訟費用ニ付刑事訴訟法第五百七十二條民事訴訟法第九十二條但書第九十三條第一項但書ヲ各適用シ主文ノ如ク判決ス

昭和十五年四月十二日

大分地方裁判所

三六四 私 訴

判決

原告

右代表者

右指定代理人

國

高崎地方專賣局長清水頼母

高崎地方專賣局庶務課長

武 田 正

群馬縣多野郡吉井町大字吉井百十七番地

當時高崎刑務支所

被告

白 田 貢

主 文

右被告白田貢ニ對スル放火被告事件ニ附帶スル右當事者間ノ私訴事件ニ付當裁判所ハ判決スルコト左ノ如シ

被告ハ原告ニ對シ金八千二百五十圓十八錢五厘ヲ支拂フヘシ
私訴訴訟費用ハ被告ノ負擔トス

事 實

原告指定代理人ハ主文同旨ノ判決ヲ求メ、其ノ請求原因トシテ「被告ハ群馬縣多野郡吉井町ニ居住シ、昭和十二年四

月同町青年團長ニ就任シ、同十四年四月滿期退任シタル者ナル處右團長在任中團長トシテ町當局等ヨリ交付ヲ受ケタル同青年團ノ補助金等合計金百九十八圓餘ヲ自己ノ用途ニ費消シ、同年四月下旬殘金百圓ヲ殘シテ他ハ辨償シタルモ未タ殘金アリ、同年五月十日後任團長ト事務引繼ヲ爲スコトト定マリ居リ、夫レ迄ニ全部辨償セサレハ右使込ミノ事實發覺ノ處アルニヨリ之カ檢出ニ苦慮シタルカ、其ノ方策付カサルニヨリ同町内ニ放火シ該火災ニ當リ、自己カ消火竝犯人捜査ニ盡力シ、功績ヲ樹テ警察官ノ信頼ヲ得ハ自己ノ非行カ假ニ司法官憲ニ發覺スルコトアルモ寬大ニ取扱ハルルコトヲ臆測期待シテ、同年五月九日翌日ニ迫リタル前記事務引繼ヲ遷延セシムル目的ヲ以テ、同夜十時十五分頃多野郡吉井町大字吉井甲第二百八十八番地所在原告所有ニ係ル高崎專賣局吉井煙草取扱所構内更裝室及作業場建物ノ中間ニ在リタル十數個ノ葉積箱内ノ籠内ニ石油ヲ掛ケ之ニ燐寸ニテ點火シテ放火シ、因テ第二號煙草取扱上家木造平家建瓦葺五十坪一棟、第十五號煙草取扱上家木造平家建鐵板葺三十七坪一棟、第十六號煙草取扱上家木造平家建鐵板葺六十三坪一棟、第十二號廊下木造平家建瓦葺七坪一棟以上建物見積價額合計金四千九百七十四圓五十八錢五厘ノ外有體動産タル金庫外四十八點此ノ見積價額合計金三千二百七十五圓六十錢相當ノモノヲ各燒燬セシメ原告ニ對シ同額ノ損害ヲ蒙ラシメタリ。而シテ右ハ被告ノ故意ニ基キ原告ノ蒙リタル損害ナルヲ以テ、不法行爲ヲ原因トシテ其ノ損害賠償ヲ求ムル爲本訴請求ニ及ヒタリ」ト陳述シ立證トシテ本件公訴記録ヲ援用シ、尙吉井煙草取扱所燒失建物損害調査及吉井煙草取扱所燒失物品損害調査ヲ各提出シタリ

理 由

被告ハ原告ノ請求ハ之ヲ棄却ストノ判決ヲ求メ、答辯トシテ、原告ノ主張事實ハ全部之ヲ認ムト陳述シタリ

仍テ按スルニ被告カ原告主張ノ日其ノ主張ノ如キ動機ノ下ニ原告主張ノ建物ニ放火シ因テ原告主張ノ各建物及有體動
 産ヲ燒燬シタル事實竝ニ右燒失ニ因ル損害額カ原告主張ノ如クナル點ハ被告ニ對スル當審公判調書竝ニ檢證調書證人
 松本熾司ニ對スル訊問調書、及伊藤隆平、中山稻男作成ニ係ル吉井煙草取扱所燒失建物損害調書、竝ニ齊藤眞太郎作
 成ニ係ル吉井煙草取扱所燒失物品損害調書ヲ綜合シテ之ヲ認メ得ヘク、被告ノ右放火行爲カ故意ニ基ク不法行爲ナル
 コトハ前示證據ニ依リ明カニシテ原告ノ右損害カ被告ノ右不法行爲ニ因リテ發生シタルモノナルコトモ前示證據ニ依
 リ之ヲ認ムルニ十分ナリ左レハ原告ハ被告ノ前示不法行爲ニ因リ前示ノ如キ損害ヲ蒙リタルモノト謂フヲ得ヘク、被
 告ハ原告ニ對シ右建物燒失ニヨル損害金合計金四千九百七十四圓五十八錢五厘及有體動産燒失ニヨル損害金合計金三
 千二百七十五圓六十錢以上合計金八千二百五十圓十八錢五厘ノ損害金ヲ賠償スヘキ義務アルモノトス
 仍テ被告ニ對シ之カ支拂ヲ求ムル原告ノ本訴請求ハ正當トシテ全部之ヲ認容スヘキモノトシ、私訴訟費用ノ負擔ニ付
 刑事訴訟法第五百七十二條第五號民事訴訟法第八十九條ヲ適用シテ主文ノ如ク判決ス

昭和十四年九月二十五日

前橋地方裁判所高崎支部

三六五 私 訴

私訴判決

大阪市西區仲之町二丁目二十二番地

原告

西村重三郎

右訴訟代理人辯護士

清家榮

本籍 愛媛縣溫泉郡久枝村大字安城寺三百三十三番地

住所 不定

被告

辰巳ミサオ

右訴訟代理人辯護士

佐伯研治

右辰巳ミサオニ對スル私文書偽造行使詐欺被告事件ノ公訴ニ附帶スル右當事者間ノ損害賠償請求私訴事件ニ付當裁判
 所ハ判決スルコト左ノ如シ

主 文

被告ハ原告ニ對シ金二千二百五十圓ヲ支拂フヘシ

訴訟費用ハ被告ノ負擔トス

事實及理由

原告訴訟代理人ハ主文同旨ノ判決ヲ求メ其ノ請求ノ原因トシテ被告ハ愛媛縣溫泉郡道後湯之町藝妓置屋業明月席ニ於
 テ藝妓稼業中知合ト爲リタル栗木久嘉、石川乙治郎ト共謀ノ上大阪市西區仲之町ニ於テ貸座敷業新清南樓ヲ經營セル
 原告ヨリ前借金名下ニ金員ヲ騙取センコトヲ企テ右乙治郎ノ姪石川エミコト詐稱シエミコノ如ク裝ヒ昭和十四年九月
 初旬頃情ヲ知ラサル堺市南平町紹介業髭重文及大阪市西區十返町紹介業久保松助ヲ介シテ原告ニ對シ前借金二千五百

圓ニテ支那漢口ナル原告經營ニ係ル貨座敷業新清南樓支店ニ於テ娼妓稼業ヲ爲スヘキ旨申入レ同月二十日原告方ニ於テ擅ニ石川エミコ及其ノ實父高木正一ノ署名ヲ冒書シ其ノ名下ニ有合印ヲ押捺シ正一、エミコ名義ノエミコカ娼妓稼業ヲ爲スヘキ旨ノ承諾書、二千五百圓ノ連帯借用契約書及正一名義ノ公正證書作成囑託ニ關スル代理委任狀並エミコ名義同日附原告宛金二千四百五十圓ノ領收證ヲ順次作成偽造シ之ヲ何レモ真正ニ成立シタルモノノ如ク裝ヒ正一、エミコノ戸籍謄本及正一ノ印鑑證明書ト共ニ一括シテ原告ニ交付行使シ原告ヲシテ眞實石川エミコカ娼妓稼業ヲ爲スヘキ旨誤信セシメ即時原告ヨリ前借金中被告ノ支那漢口行旅費金五十圓ヲ控除シタル殘金二千四百五十圓ヲ受取り騙取シタル上内金二百圓ヲ仕度料トシテ原告ニ預ケ置キ同月二十四日原告方ヲ逃走シタルモノニシテ原告ハ被告ノ右犯罪行爲ニヨリ金二千二百五十圓ノ損害ヲ蒙リタルヲ以テ之カ賠償ヲ求ムル爲本訴ニ及ヒタリト陳述シ立證トシテ被告ニ對スル公訴一件記録及證據物ヲ採用シタリ

被告訴訟代理人ハ原告ノ請求ヲ棄却ストノ判決ヲ求メ其ノ答辯トシテ原告主張事實ハ總テ之ヲ認ムルモ被告ハ目下辨濟ノ資力ナキヲ以テ原告ノ請求ニ應ジ難キ旨述ヘタリ

因テ按スルニ被告カ栗木久嘉、石川乙治郎ト共謀ノ上昭和十四年九月二十七日原告方ニ於テ原告ニ對シ石川乙治郎ノ姪石川エミコト詐稱シ前借金二千五百圓ニテ支那漢口ナル原告經營ノ新清南樓支店ニ於テ娼妓稼業ヲ爲スヘキ旨申欺キ擅ニ石川エミコ及其ノ實父高木正一ノ署名ヲ冒書シ其ノ名下ニ有合印ヲ押捺シ正一、エミコ名義ノ承諾書、二千五百圓ノ連帯借用契約書及正一名義ノ公正證書作成囑託ノ代理委任狀及エミコ名義同日附原告宛二千四百五十圓ノ領收證ヲ順次作成偽造シ之ヲ何レモ真正ニ成立シタルモノノ如ク裝ヒ正一、エミコノ戸籍謄本及正一ノ印鑑證明書ト共ニ原

告ニ交付行使シ因テ原告ヲ欺罔シ原告ヲシテ前借金中ヨリ被告ノ支那漢口行旅費金五十圓ヲ控除シタル金二千四百五十圓ヲ交付セシメテ之ヲ騙取シタル事實ハ被告人ノ當公廷ニ於ケル之ト同趣旨ノ供述ニヨリ之ヲ認定スルニ足ルヲ以テ右ノ内ヨリ被告カ原告ニ預ケ置キタル金二百圓ヲ差引キ結局原告ノ蒙リタル金二千二百五十圓ノ損害ヲ被告ニ對シ求償スル本件私訴請求ハ洵ニ相當ナリト認ム被告ハ之ニ對シ無資力ナルヲ以テ辨濟シ得サル旨抗辯スレトモ斯ル事由ヲ以テハ原告ノ請求ヲ拒否スルニ足ラス仍テ訴訟費用ノ負擔ニ付刑事訴訟法第五百七十二條民事訴訟法第八十九條ヲ適用シ主文ノ如ク判決シタリ

昭和十五年三月二十八日

松山地方裁判所宇和島支部

三六六 私 訴

私訴判決

茨城縣新治郡藤澤村藤澤

私訴原告

千葉市新田町百六十六番地

私訴被告

千葉縣印旛郡佐倉町鋪木町三百九十八番地

藤 田 光 一

金 親 久 三 郎

私訴被告

右兩名訴訟代理人辯護士

篠原秋次郎
中村周治

千葉市榮町七番地

私訴被告

右訴訟代理人辯護士

鶴岡卓爾
小川哲二郎

右私訴原告ハ私訴被告久三郎同卓爾ニ對スル各公文書偽造行使詐欺同秋次郎ニ對スル偽造公文書行使詐欺被告事件ノ公訴ニ附帶シ損害賠償請求ノ私訴ヲ提起シタルニ因リ判決スルコト左ノ如シ

主 文

私訴被告三名ハ連帶シテ私訴原告ニ對シ金千九百七拾七圓及之ニ對スル昭和十一年九月二十六日ヨリ完済ニ至ル迄年五分ノ割合ニ依ル金員ヲ支拂フヘシ
私訴費用ハ私訴被告三名ノ連帶負擔トス

事 實

私訴原告ハ主文ト同旨ノ判決ヲ求メ其ノ請求原因トシテ私訴被告久三郎同卓爾ハ共謀ノ上行使ノ目的ヲ以テ擅ニ昭和十一年三月頃訴外國松惣次郎ニ依頼シテ恩給證書用紙ヲ印刷セシムルト共ニ訴外淺倉昇司ニ依頼シテ千葉縣知事ノ木材ノ印章一個ヲ偽造セシメタル上其ノ頃私訴被告久三郎ニ於テ右恩給證書用紙ニ不動文字以外ノ文字ヲ記入シ私訴被告卓爾ニ於テ知事名下ニ右偽造印ヲ押捺シテ千葉縣知事岡田文秀名義被告人久三郎宛ノ恩給證書數通ノ偽造ヲ完成シ

更ニ私訴被告秋次郎ト共謀シ情ヲ知ラサル周旋人ヲ介シテ私訴原告ニ對シ恩給證書ヲ擔保トスル金借方ヲ申込ミ同年九月二十六日茨城縣新治郡土浦町土浦中島重男方ニ於テ前記偽造恩給證書中ノ一通ヲ真正ニ成立シタルモノノ如ク裝ヒテ擔保トシテ私訴原告ニ交付行使シ私訴原告ヲシテ其ノ旨誤信セシメテ金員貸與方ヲ承諾セシメ因テ即時借用名義ノ下ニ金二千七百七十七圓ヲ私訴原告ヨリ受取り騙取シタルカ私訴原告カ私訴被告等ニ右金員ヲ交付シタルハ私訴被告三名ノ犯罪タル詐欺ニ因リ右貸借ノ要素ニ付錯誤ニ陥リタル結果ニシテ則チ無効ノ行爲ニ基クモノト謂フヘク結局私訴原告ハ私訴被告等三名ノ共同不法行爲ニ因リ右金二千七百七十七圓相當ノ損害ヲ蒙リタルモノナル處私訴被告等ハ其ノ後私訴原告ニ對シ金八百圓ヲ辨償シタルヲ以テ私訴被告三名ニ對シ連帶シテ右殘額金千九百七十七圓及之ニ對スル右不法行爲ノ日タル昭和十一年九月二十六日ヨリ完済ニ至ル迄民法所定ノ年五分ノ割合ニ依ル損害金ノ支拂ヲ求ムル爲本訴ニ及ヒタリ假ニ右金員貸借ニ付要素ノ錯誤ナシトスルモ右ハ私訴被告等三名共同ノ詐欺ニ基ク契約ナルヲ以テ私訴原告ハ本訴ニ於テ其ノ意思表示ヲ取消シ因テ生スヘキ右同額ノ損害ノ賠償ヲ求ムト述ヘ私訴被告久三郎同卓爾ノ主張事實ヲ否認シ立證トシテ公訴記録全部ヲ援用シタリ

私訴被告久三郎同秋次郎訴訟代理人ハ私訴原告ノ請求ヲ棄却ストノ判決ヲ求メ私訴被告久三郎ノ答辯トシテ私訴原告主張ノ請求原因タル事實ハ凡テ之ヲ認ムルモ目下手許不如意ニシテ私訴原告ノ請求ニ應シ難シト述ヘ私訴被告秋次郎ノ答辯トシテ私訴原告ノ主張事實中私訴被告秋次郎カ私訴被告卓爾ノ依頼ニヨリ私訴被告久三郎ノ爲金借方斡旋シ同人カ私訴原告主張ノ日自己ノ恩給證書ヲ擔保ニ私訴原告ヨリ額面金三千二百圓ヲ借受クルニ付仲介シ遣リタルコトハ之ヲ認ムルモ其ノ餘ノ事實ハ凡テ之ヲ否認ス私訴被告秋次郎ハ當時右恩給證書ノ偽造ナルヲ知ラス真正ニ成立シタル

モノナリト信シテ右貸借成立ニ付仲介シタルモノニシテ私訴原告ヲ欺罔スル意思ナク從テ犯罪成立セサルヲ以テ其ノ損害ニ付責任ナク私訴原告ノ請求ハ失當ナリト述ヘ立證トシテ公訴記録全部ヲ援用シ私訴被告卓爾訴訟代理人ハ原告ノ請求ヲ棄却ストノ判決ヲ求メ其ノ答辯トシテ私訴被告久三郎ノ爲私訴被告秋次郎ニ依頼シ其ノ仲介ニ依リ私訴原告主張ノ日右久三郎ノ恩給證書ヲ擔保ニ私訴原告ヨリ金二千七百七十七圓ヲ借受ケ遣リ其ノ後金八百圓ヲ入金シタルコトハ之ヲ認ムルモ其ノ餘ノ私訴原告主張事實ハ凡テ之ヲ否認ス私訴被告卓爾ハ右貸借成立當時私訴被告久三郎ヨリ右恩給證書ハ再交付ヲ受ケタルモノナリト聞及ヒ其ノ真正ニ成立シタルモノナルコトヲ信シテ右金借ヲ爲シタルモノニシテ私訴原告ヲ欺罔スル意思ナク從テ犯罪成立セサルヲ以テ私訴原告ノ損害ヲ賠償スル義務ナク私訴原告ノ請求ハ失當ナリト述ヘ立證トシテ公訴記録全部ヲ援用シタル

理由

按スルニ公訴判決事實摘示冒頭第一及第二ノ(一)ノ事實認定ニ付採用シタル各證據ニ依レハ私訴被告久三郎同卓爾ハ共謀ノ上行使ノ目的ヲ以テ擅ニ昭和十一年二月末頃情ヲ知ラサル國松惣次郎等ヲシテ恩給證書表裏ノ記載ト同様ノ不動文字ヲ印刷シタル用紙十枚ヲ作成セシムルト共ニ情ヲ知ラサル淺倉昇司ニ依頼シテ千葉縣知事之印ナル角形木材ノ印章一個ヲ彫刻セシメテ偽造シタル上其ノ頃右用紙ノ内二葉ヲ使用シ私訴被告久三郎ニ於テ之ニ同人宛千葉縣知事岡田文秀名義年額金八百圓ノ教員普通恩給證書ノ記載ト同一ニ不動文字以外ノ文字ヲ記入シ私訴被告卓爾ニ於テ右各知事名下ニ右偽造印ヲ捺捺シテ右教員普通恩給證書二通ノ偽造ヲ完成シ私訴被告秋次郎ニ恩給證書ヲ擔保トスル金借周旋方ヲ依頼シ同人等ヲ介シテ私訴原告ニ對シ右同様ノ金借方ヲ申込ミ同年九月二十六日右偽造恩給證書中ノ一通ヲ眞

正ニ成立シタルモノトシテ擔保トシテ私訴原告ニ交付行使シ私訴原告ヲシテ其ノ旨誤信セシメ因テ即時私訴原告ヨリ金二千七百七十七圓ヲ借用名義ノ下ニ受取り騙取シ私訴被告秋次郎ハ右恩給證書ノ偽造ナルヲ知ラサリシモ其ノ不正無効ノモノナルヲ察知シ私訴被告久三郎同卓爾兩名カ之ヲ使用シテ金員ヲ騙取セントスルモノナルノ情ヲ知り乍ラ右依頼ニ應シ右兩名ノ爲右金員貸借ノ成立ニ付斡旋シ以テ右金員騙取ヲ容易ナラシメテ之ヲ幫助シタルカ其ノ後私訴被告等ニ於テ金八百圓ヲ辨濟シタル事實ヲ認ムルコトヲ得ヘシ果シテ然ラハ私訴原告カ私訴被告久三郎同卓爾ニ右金員ヲ交付シタルハ共犯タル私訴被告等三名ノ詐欺ニ因リ私訴原告ニ於テ右貸金辨濟ノ擔保タル該恩給證書カ真正ニ成立シタルモノナリト誤信シタル結果ニシテ即貸借ノ要素ノ錯誤ニ因ル無効ノ行爲ニ基クモノナルヲ以テ私訴原告ハ因テ右交付金二千七百七十七圓ニ相當スル損害ヲ蒙リタルモノト謂フヘク私訴被告等三名ハ之カ賠償トシテ民法第七百七十九條ニ依ル共同不法行爲者トシテ連帶シテ私訴原告ニ對シ右認定ノ辨濟金八百圓ヲ差引キタル殘損害額金千九百七十七圓及之ニ對スル右不法行爲ノ日タル昭和十一年九月二十六日ヨリ完済ニ至ル迄民法所定ノ年五分ノ割合ニ依ル損害金ノ支拂ヲ爲ス義務アルモノトス私訴被告久三郎ハ目下手許不如意ナル旨抗爭スレトモ斯ノ如キハ私訴原告ノ請求ヲ拒否スルノ法律上ノ理由ト爲スニ足ラス仍テ右金員ノ支拂ヲ求ムル私訴原告ノ本訴請求ハ其ノ理由アルモノトシテ之ヲ認容スヘク私訴費用ニ付刑事訴訟法第五百七十二條民事訴訟法第八十九條第九十三條第一項但書ノ規定ヲ適用シテ主文ノ如ク判決ス

昭和十三年十二月廿四日

千葉地方裁判所刑事部

決定ノ部

三六七 管轄移轉請求棄却決定

決定

本籍 山口縣玖珂郡廣瀬村大字廣瀬二百五十一番地
住居 不定 (新潟刑務所所在所)

請求人 無職

國 弘 健 一

當三十五年

右ノ者ニ對スル詐欺同未遂被告事件ニ付請求人ヨリ管轄移轉ノ請求アリタルニ因リ當院ハ檢事ノ意見ヲ聽キタル上決定スルコト左ノ如シ

主 文

本件管轄移轉ノ請求ハ之ヲ棄却ス

理 由

本件請求ノ要旨ハ請求人ハ昭和九年十一月十二日新潟區裁判所ニ於テ被告人(本件請求人)カ昭和九年六月中新潟市又ハ新潟縣新津町ニ止宿シテ「少年就職案内」ナル求人廣告雜誌ヲ見テ郵便封書ニ依リ少年就職希望者ヲ周旋スルカ如ク

又ハ自カラ少年者ニシテ就職ヲ希望スルカ如ク裝ヒテ雇入方ヲ申込ミ雇主タルヘキ東京市内ノ中小商工業者等ヲ欺罔シ概ネ新潟縣下乃至東京市間ノ旅費一人五圓宛總計百十數圓ヲ騙取シタリトノ公訴事實ニ付詐欺同未遂事件トシテ有罪ノ判決ヲ受ケ之ニ對シ控訴ノ申立ヲ爲シ現ニ第二審タル新潟地方裁判所ニ繫屬シ居ルモ請求人ハ昭和九年六月中ハ東京市ニ居住シ居リテ新潟市ニハ在任セス右公訴事實ノ如キ犯罪行爲ヲ爲シタル事實ナク眞犯人ハ寧ロ阿部幸次ナルヲ以テ第一審裁判所ニ於テ其ノ旨陳述シ且請求人カ當時新潟市ニ在任セサリシ證明ヲ爲サンカ爲メ被害者タルヘキ東京市内在住者タル證人ノ喚問ヲ申請シタルモ同裁判所ニ於テハ其ノ管轄外ナルノ故ヲ以テ之ヲ却下シタリ斯ル情況ノ下ニ於テハ假令第二審裁判所ニ於テ證人喚問カ許可セラルトスルモ確證ヲ得ルカ爲メニハ東京在住ノ多數ノ者ヲ喚問セサルヘカラサルモノニシテ其ノ中ニハ事業其ノ他ノ事情ノ爲必スシモ遠隔地タル新潟市迄ノ召喚ニ應セサル者等アルヘク請求人カ右被告事件ノ真相ヲ究明セントスルモ事實上之ヲ爲ス能ハサルノ状態ニ在リ從テ本件裁判ノ公平ハ到底維持スルコトヲ得サルニ至ルヲ以テ敍上ノ證人ノ喚問ニ最モ便宜ニシテ裁判ノ公平ヲ期シ得ラルル東京地方裁判所ニ本件管轄ヲ移轉スルノ裁判ヲ求ムル爲メ請求人ハ茲ニ刑事訴訟法第十六條第二項ニ則リ本請求ニ及ヒタリト謂フニ在レトモ請求人ニ對スル前記詐欺同未遂被告事件ノ刑事記録ヲ査閱スルニ第一審裁判所タル新潟區裁判所ハ右被告事件ノ審理ニ當リ被告人ニ對スル全部ノ證據調ヲ履踐シタル上更ニ被告人(本件請求人)ノ證據申請ヲ採用シ證人山際タマ、同長谷川ミヨシノ兩名ヲ喚問取調ヲ爲シテ被告人カ前記日時頃新潟市又ハ新潟縣新津町ニ在任シ居タリヤ否ヤノ點其他事實ノ真相發見ノ爲ニ努メタル事實ヲ認メ得ヘキヲ以テ同裁判所ニ於テ偶々被告人ノ申請スル東京在住ノ他ノ證人ノ喚問取調ヲ却下シタレハトテ直ニ以テ同裁判所カ公正ヲ疑フニ足ル裁判ヲ爲シタリトハ認メ難シ然カノミナラス

被告人ハ尙第二審タル新潟地方裁判所ニ於テハ更ニ新ナル證據ノ提出ヲ爲シ必要ニ應シ東京在住ノ證人ノ喚問取調又ハ其ノ囑託訊問ニ依ル取調等ノ申請ヲモ爲シタル上十分事件ノ真相ヲ究明シ得ヘキトコロナルヲ以テ本件ニ於テ請求人カ其主張ノ如ク裁判ノ公平ヲ維持スル能ハサル狀況ニ在ルモノト認ムルヲ得ス其他被告人ニ對スル刑事記録ニ徵スルモ裁判ノ公平ヲ維持スルコト能ハサル虞アル事情ノ認ムヘキモノナシ仍テ請求人ノ本件管轄移轉ノ請求ハ其ノ理由ナキヲ以テ之ヲ棄却スヘキモノト認メ主文ノ如ク決定ス

昭和十年一月四日

東京控訴院第〇刑事部

三六八 忌避申立却下決定

決定

申立人 村松勝太郎
申立人 鈴木輝三郎

右ノ者ニ對スル恐喝被告事件ニ付申立人等ヨリ當院第〇刑事部裁判長判事〇〇〇〇判事〇〇〇〇判事△△△△ニ對シ忌避ノ申立ヲ爲シタルヲ以テ當院ハ決定スルコト左ノ如シ

主文 本件忌避申立ハ之ヲ却下ス

理由

本件忌避申立理由ノ要旨ハ申立人等ハ恐喝被告事件ニ付静岡地方裁判所濱松支部ニ於テ言渡サレタル有罪判決ニ對シ原審ニ於テ顯ハレサル新證據ヲ舉ケテ恐喝ノ事實ナキコトノ確認ヲ求メンカ爲控訴ニ及ヒタルモノニシテ之カ證據方注トシテ中村正治ニ對スル契約證書ノ提出命令東京區裁判所ヨリ申請人中村正治被申請人三ツ矢沓忍間ノ土地所有權移轉假登記假處分申請事件ノ記録ノ取寄及證人、村上熊八、山口淺吉、馬越旺輔、松井艶太郎ノ喚問ヲ申請シタルニ御院第〇刑事部裁判長判事〇〇〇〇判事〇〇〇〇判事△△△△ハ該申請ヲ却下シタリ然レトモ右證據方法ハ本件犯罪ノ成否ヲ決定スルニ付最モ有力ナル資料ニシテ之ヲ却下スルカ如キハ公平ニ事案ヲ判斷スルノ途ニアラス其ノ措置甚タ失當タルヲ免レス畢竟上記判事ニ於テ偏頗ノ裁判ヲ爲ス虞アリト謂ハサルヘカラス仍テ忌避ノ申立ニ及ヒタリト謂フニ在リ

按スルニ取寄ニ係ル申立人等ニ對スル恐喝被告事件ノ記録ニ依レハ申立人村松勝太郎ヨリ申立人等主張ノ如キ證據申請アリ前記判事ニヨリ構成セル當院第〇刑事部カ昭和十六年一月十四日該事件ノ第五回控訴公判期日ニ之ヲ却下シタル事實ハ之ヲ認ムルニ足レトモ右却下決定ノアリタル後同公判廷ニ於テ裁判長カ申立人等ニ對シ意見竝最終ノ陳述アリヤ否ヤヲ問ヒタルニ申立人等ヨリ夫々陳述ヲ爲シテ辯論ヲ終結シ其ノ後同年二月三日ニ至リ本件忌避ノ申立ニ及ヒタルコトモ亦一件記録ニ徵シ明カナリ然ラハ本件忌避ノ申立ハ事件ニ付陳述ヲ爲シタル後ニ爲サレタルモノト謂フヘク偏頗ノ裁判ヲ爲ス虞アリトシテ爲ス判事ノ忌避申立ハ事件ニ付請求又ハ陳述ヲ爲シタル後ハ之ヲ許ササルハ法律ノ明定スルトコロナレハ既ニ此點ニ於テ本件忌避ノ申立ハ理由ナシ加之證據調ノ程度ハ專ラ裁判所ニ於テ決定スヘキモノナ

レハ當事者ノ申請シタル證據調ヲ不要ト認メタルトキハ之ヲ却下スヘキハ當然ニシテ之ヲ却下シタルレハトテ直ニ當該判事ニ偏頗ノ裁判ヲ爲ス虞アリト爲スヘカラサルハ言フ俟タス申立人等ノ疏明方法ニ依リテハ勿論其ノ他前記記録ヲ精査スルモ當該判事ニ偏頗ノ裁判ヲ爲ス虞アリト認ムヘキ情況更ニ存スルコトナク本件忌避ノ申立ハ何レノ點ヨリスルモ其ノ理由ナキヲ以テ刑事訴訟法第二十九條第一項後段第二十六條ニ則リ之ヲ却下スヘキモノトス仍テ主文ノ如ク決定ス

昭和十六年三月三十一日

東京控訴院第〇刑事部

三六九 忌避申立却下決定ニ對スル抗告ノ棄却決定 (一)

決定

住居 東京市本郷區千駄木町二百七十一番地

被告人

鈴木 策 平

右ニ對スル酒精及酒精含有飲料稅法違反被告事件ニ付昭和九年十二月二十六日東京地方裁判所カ辯護人加藤隆久ヨリ爲シタル東京區裁判所判事〇〇〇〇ニ對スル忌避ノ申立ヲ却下シタル決定ニ對シ同辯護人ヨリ即時抗告ノ申立アリタルヲ以テ當院ハ檢事某ノ意見ヲ聽キ決定スルコト左ノ如シ

主 文

本件抗告ハ之ヲ棄却ス

理 由

本件抗告ノ要旨ハ被告人鈴木策平ニ對スル酒精及酒精含有飲料稅法違反被告事件ノ公判ニ於テ東京區裁判所判事〇〇〇〇ハ本人ノ訊問ヲ爲シタルノミニシテ何等ノ證據調ヲ爲シタルモノニアラス若シ既ニ證據調ヲ施行シタル事實カ調書ニ記載シアリトスルモ夫レハ全ク虚偽ノ記載ナリ右ノ如ク判事〇〇〇〇ハ本件ノ審理ニ當リ何等ノ證據調ヲ爲サスシテ結審ヲ爲サントシタルヲ以テ辯護人ヨリ忌避ノ原因記載ノ如ク水道橋稅務署長佐藤一郎ヲ證人トシテ喚問ヲ求メ又本件違反事件ニ關シ押收サレタル帳簿ノ取寄等ヲ求メタルニ即時其ノ申請ヲ却下シタルヲ以テ判事〇〇〇〇ハ本件ニ關シ豫斷ヲ抱キ偏頗ノ裁判ヲ爲スモノト推斷セサルヲ得サル次第ナリ、然リ而シテ原決定カ「證據調ヲ却下シタルレハトテ直チニ原審カ偏頗ノ裁判ヲ爲ス虞アリト云フヲ得ス云々」ト論斷シタリト雖モ實際略式命令ニ於テ既ニ罰金ノ言渡ヲ受ケ居ル事件ニ對シ新タニ有利ナル證據ヲ出ササル限り有利ナル裁判ヲ受ケ得ルコト能ハサルハ理ノ當然ニシテ然カモ其ノ有利ナル證據ノ提出ヲ拒絕セラレタル場合ニ於テハヨリ以上ノ有利ナル裁判ヲ爲スノ考ナキモノト推斷スルニ難カラス果シテ然ラハ判事〇〇〇〇ハ本件ニ關スル限り此ノ點ニ於テ既ニ事件ニ對シ豫斷ヲ抱キ居ルモノト斷セサルヘカラス然ルニ原決定カ机上ノ空論ニ基キ漫然忌避ノ申立ヲ却下シタルハ事件ノ真相ヲ究明セサル裁判ナルヲ以テ茲ニ抗告ノ申立ヲ爲ス次第ナリト謂フニ在リ

按スルニ被告人鈴木策平ニ對スル酒精及酒精含有飲料稅法違反被告事件ノ第一審タル東京區裁判所公判廷ニ於テ右被告人ノ辯護人タル加藤隆久カ同區裁判所判事〇〇〇〇ヲ事件ニ對シ豫斷ヲ懷キ偏頗ノ裁判ヲ爲ス虞アリトシテ忌避ス

三六九 忌避申立却下決定ニ對スル抗告ノ棄却決定(一)

ル旨ノ申立ヲ爲シタルモ昭和九年十二月二十六日東京地方裁判所ハ該忌避ノ申立ヲ理由ナシトシテ却下シタルトコロ
 抗告人ハ之ニ對シ當院へ即時抗告ヲ爲シタルモノナルコトハ一件記録ニ徴シ明瞭ナリ、然リ而シテ區裁判所判事ニ對
 スル忌避申立ハ當該事件ニ付其ノ判事ノ裁判ヲ受クルコトヲ不服トスルノ申立ナレハ刑事訴訟法第二十八條第四項カ
 斯ル場合ニ管轄地方裁判所ニ之カ當否ノ裁判ヲ爲スヘシト規定セルハ即チ該地方裁判所カ第二審トシテ決定ヲ爲スヘ
 シトノ法意ナルコト明瞭ナルヲ以テ該地方裁判所ノ決定ニ對スル刑事訴訟法第三十一條ノ即時抗告ハ裁判所構成法第
 五十條第一號(ロ)ノ規定ニ依リ大審院ニ爲スヘク控訴院ノ管轄ニ屬セサルモノト解セサルヘカラス、然ルニ本件ハ前
 叙ノ如ク東京地方裁判所カ東京區裁判所判事〇〇〇〇ニ對スル忌避申立却下ノ決定ヲ爲シタルニ對シ大審院ニ即時抗
 告ヲ爲サスシテ當院ニ爲シタルモノナルヲ以テ本件抗告ハ之ヲ不適法トシ刑事訴訟法第四百六十六條第一項前段ニ依
 リ之ヲ棄却スヘキモノトス

仍テ主文ノ如ク決定ス

昭和十年四月十日

東京控訴院第〇刑事部

三七〇 忌避申立却下決定ニ對スル抗告ノ棄却決定 (二)

決 定

被告人 被告人宮下文雄外八名辯護人 三 浦 次 郎
 同 被告人 伊 藤 憲 一

被告人宮下文雄外八名ニ對スル治安維持法違反被告事件ニ付昭和七年十一月四日東京地方裁判所カ爲シタル判事忌避
 申立却下決定ニ對シ右抗告人等ヨリ各適法ナル即時抗告ノ申立アリタルヲ以テ當院ハ檢事某ノ意見ヲ聽キタル上審理
 決定スルコト左ノ如シ

主 文

本件抗告ハ之ヲ棄却ス

理 由

本件抗告ノ要旨ハ抗告人等ハ昭和七年十一月四日東京地方裁判所ニ於ケル被告人宮下文雄外八名ニ對スル治安維持法
 違反被告事件ノ公判ニ於テ裁判長判事〇〇〇〇判事△△判事××ニ對シ忌避ノ申立ヲ爲シタルトコロ同裁判所ハ
 右忌避申立ハ訴訟ヲ遅延セシムル目的ノミヲ以テ爲シタルモノトシテ決定ヲ以テ却下シタリ然レトモ右忌避申立ハ同
 裁判所カ偏頗ノ裁判ヲ爲ス虞アリト思料スルニ足ル事由存シタルカ故ニ爲シタルモノナルニ拘ラス同裁判所カ右申立
 ヲ目シテ訴訟ヲ遅延セシムル目的ノミヲ以テ之ヲ爲シタルモノナリトシテ却下シタルハ失當ナルカ故ニ其ノ取消ヲ求
 ムル爲メ本件即時抗告ニ及ヒタリト謂フニ在リ

仍テ被告人宮下文雄外八名ニ對スル治安維持法違反被告事件記録ヲ査閱スルニ抗告人等カ昭和七年十一月二日東京地
 方裁判所ニ於ケル同被告事件ノ公判ニ際シ被告人等ノ利益ノ爲メナリトシテ當時同裁判所ノ豫審ニ繫屬セリト謂フ被
 告人佐野博等カ公判ニ付セラルルヲ俟テ該被告事件ト併合シテ審理ヲ受ケ度キ旨主張シ同月四日右公判ノ續行期日
 ニ於テ本件抗告人タル被告人伊藤憲一等ハ更ニ同様ノ主張ヲ反覆シテ爲シ若シ右主張カ容レラレンハ前記佐野博ヲ

三七〇 忌避申立却下決定ニ對スル抗告ノ棄却決定(二)

シテ憲一等ニ對スル公判ニ立會ハシムヘキ旨主張シテ公判ノ無期延期ヲ求メタルニ對シ同裁判所ハ執レモ理由オシトシテ許容セサリシトコロ同被告人等ハ同裁判所ノ該措置ハ被告人等ノ利益ヲ無視セルモノニシテ偏頗ノ裁判ヲ爲ス處アリトシテ裁判長判事〇〇〇〇判事△△判事×××ニ對シ忌避ノ申立ヲ爲シ同裁判所ハ該申立ハ訴訟ヲ遅延セシムル目的ノミヲ以テ爲シタルモノナリトシテ之ヲ却下シ之ニ對シ被告人宮下文雄ハ即時抗告ヲ爲ス旨陳述シタルモ同裁判所ハ偏頗ノ裁判ヲ爲ス處アルモノナリトシテ更ニ前記判事等ニ對シ忌避ノ申立ヲ爲シタルモ同裁判所ハ前同様に理由ニ依リ該申立ヲ却下シタルモノナルコトヲ明認シ得ヘシ

然レトモ裁判所カ被告事件ヲ審理スルニ際シ其ノ被告事件ト緊密ナル關係ヲ有スル他ノ被告事件カ同一裁判所ニ繫屬シタリトスルモノヲ併合シテ審判スルト將タ各別ニ審判スルトハ全ク審理ノ便宜上裁判所ノ職權ニ依リ自由ニ爲シ得ヘキトコロニシテ裁判所カ各別ニ審理スレハトテ之ノミヲ以テ直ニ被告人ニ對シ不利益ナル裁判ヲ爲スモノナリト斷スルヲ得ス然ラハ被告人等ノ被上ノ如キ併合審理ノ請求ヲ認容セサリシ同裁判所ノ措置ハ毫モ失當ナラスト謂フヘシ又本件被告事件ノ審理ニ際シ同裁判所カ當時豫審ニ繫屬セリト謂フ被告事件ノ被告人佐野博ヲシテ立會ハシムル措置ニ出テサリシコトハ斯カル立會ヲ爲サシムルヲ得ヘシトスル刑事訴訟法ノ規定ナキヲ以テ固ヨリ當然ノ事ニ屬シ又裁判所カ判事忌避ノ申立アリテ該申立ハ訴訟ヲ遅延セシムル目的ノミヲ以テ爲シタルモノナリトシテ之ヲ却下シ該決定ニ對シ即時抗告ノ申立カ適法ニ爲サレタル場合ニ於テモ裁判所ハ訴訟手續ヲ停止スルノ要ナキモノト解スヘキカ故ニ前記裁判所カ前示忌避ノ申立ヲ却下シタル決定ヲ爲シ之ニ對シ即時抗告ヲ爲ス旨陳述アリタリト雖モ其ノ儘訴訟手續

ヲ進行シタルコトモ亦同裁判所ノ裁判ノ公正ヲ疑フニ足ル事由ト爲スヲ得ス其ノ他右事件ノ記録ニ徴スレハ前示判事等ニ偏頗ノ裁判ヲ爲ス處アリト認ムヘキ何等ノ事跡存セサルノミナラス本件抗告人提出ノ疏明書ニ依ルモノ之ヲ認メ難ク却テ右忌避ノ申立ハ徒ニ訴訟ヲ遅延セシムル目的ノミヲ以テ爲シタルモノナリト認定シ得ルニ足ルヲ以テ原審カ刑事訴訟法第二十九條ニ依リ該申立ヲ却下シタルハ相當ニシテ本件抗告ハ其ノ理由ナキモノナルカ故ニ同法第四百六十六條第一項ニ則リ之ヲ棄却スヘキモノトス仍テ主文ノ如ク決定ス

昭和七年十二月二十一日

東京控訴院刑事第〇部

三七二 勾留期間更新決定ニ對スル抗告ノ棄却決定

決定

京都市中京區高倉通丸太町南八

抗告人辯護人

同市同區六角通堺町西入

同

赤塚源二郎

前田龜千代

同市上京區新島丸通丸太町上ル

三七二 勾留期間更新決定ニ對スル抗告ノ棄却決定

同 同市中央区鉄屋町通竹屋町上ル 竹川兼榮

同 同市上京区大宮大門町二十八番地 鍋島徳太郎

同 同市同区紫竹上縁町四十八番地 竹山三朗

同 大阪市北区眞砂町二十九番地 高橋喜又

同 同市東区高麗橋二丁目三十二番地 足立進三郎

同 同市北区堂島濱通堂島ビルディング六階 川崎齊一郎

同 同市同区堂島濱通一丁目一番地 今井嘉幸

同 同市東区釣鐘町一丁目三十九番地 高山義三

同 同 三木善建

神戸市漢東區楠町四丁目百三十三番地

同 小山昇

岡山市上西川町

同 小山美登四

東京市麹町區紀尾井町三番地

同 清瀬一郎

同市神田區猿樂町一丁目三番地

同 富澤効

同市澁谷區元廣尾町三十三番地

同 林逸郎

右原告人等ハ被告人出口王仁三郎ニ對スル治安維持法違反並ニ不敬被告事件ニ付京都地方裁判所カ昭和十四年八月九日爲シタル勾留期間更新決定ニ對シ抗告ヲ申立テタルニ依リ當院ハ檢事ノ意見ヲ聽キ決定スルコト左ノ如シ

主 文

本件抗告ハ之ヲ棄却ス

理 由

本件抗告ノ要旨ハ被告人出口王仁三郎ニ對シ昭和十一年三月十三日勾留狀發セラレ(翌日執行サル)爾來勾留期間更新

セラレ昭和十四年八月九日京都地方裁判所へ更ニ本件勾留期間更新決定ヲ爲シタリ然レトモ勾留ノ條件ハ刑事訴訟法第九十條第八十七條所定ノ通りニシテ其ノ期間ハ一應二ヶ月トシ特ニ繼續ノ必要アル場合ニ限り其ノ更新ヲ許サルモノナリ元來勾留ハ有罪判決アル以前ニ於テ個人ノ自由ヲ拘束スルモノナルヲ以テ憲法竝ニ刑事訴訟法ノ精神ヨリスレハ之ヲ無限ニ更新スル如キハ其ノ本旨ニアラス現ニ被告人ハ定マリタル住所ヲ有シ年齢七十歳ニ近ク且ツ多數ノ家族ヲ有シ國內著名ノ人物ナレハ逃亡ノ虞等固ヨリ存在セス又罪證ニ關シテハ警察官檢事竝ニ豫審判事ノ取調ヲ經且ツ第一審裁判所ニ於テ全部ノ證據調ヲ終リ是以上ノ證據調ハ不必要ナリトシ其ノ請求ヲ却下セララル程度ニ達シタルモノナレハ最早證據湮滅ノ虞ヲ生スルモノニアラス此ノ時ニ當リ猶勾留期間ヲ更新スル爲ノ特ニ必要ナル理由ハ之ヲ發見スルヲ得ス本案訴訟ノ成否ト勾留更新トハ道理上別個ノ問題ナレトモ刑事訴訟法第八十七條ニ於テ罰金拘留料料ニ該ル事件ニ付テハ住所不定ノ場合ノ外勾引ヲ爲サスト在ルヨリシテ間接ニ本案事件ノ罪ノ輕重ヲ考慮ニ容ルル必要アリ被告人ニ對スル起訴事實ノ主體ハ治安維持法違反ナリト云フト雖モ彼ノ共產黨事件ノ如キモノニアラス豫審終結決定ニ依レハ昭和三年三月三日ニ行ヒタルみろく大祭ナルモノヲ治安維持法ニ所謂結社ト觀タルモノニシテ證據調ノ結果ニ依レハ同日ノ所謂結社ニ相當スル事實ノ存在シタルコトハ之ヲ認ムルヲ得ス假ニ右結社存在スルトスルモ其ノ日時ハ昭和三年三月三日ナルヲ以テ同年六月二十九日發布セラレタル改正治安維持法ノ適用ヲ受クヘキモノニアラスシテ舊治安維持法第一條ノ適用ヲ受クルニ過キス同法ノ規定ニ依レハ此ノ行爲ニ科セラレタル刑ノ最長期ハ十年ナリ其ノ公訴ノ時効ハ七年ニシテ本件公訴提起ハ時効期間滿了後ナリ不敬罪ニ對スル處斷ハ如何ニ相成ルヤ固ヨリ豫測ノ限ニアラスト雖モ證據上ニ於テハ甚シク薄弱ナル訴ナリ此ノ種案件ニ於テ勾留更新數十回ニ及ヒ被告人ヲ拘禁スルコト三年

半ニ涉ルト云フカ如キ事ハ我國訴訟法ノ正當ナル運用ナリト信スルコト能ハス仍テ茲ニ刑事訴訟法第四百五十六條第四百五十七條第二項ニ依リ本件抗告ニ及ヒタル次第ニシテ證據方法トシテ本件記錄殊ニ公判調書全部ヲ引用スト謂フニ在リ本件取寄記録ニ據レハ京都地方裁判所豫審判事ハ被告人王仁三郎ニ對シ昭和十一年三月十三日勾留狀ヲ發シ該勾留狀ハ翌日執行セラレ爾後刑事訴訟法第九十條第一項第八十七條第一項ニ掲クル事由ニ依リ勾留ヲ繼續スル必要アリトシ同法第一百十三條ニ則リ勾留期間更新決定ヲ爲シ來リタルトコロ原裁判所ハ昭和十三年六月八日同法第九十條第一項第八十七條第一項第三號所定ノ逃亡スル虞アルヲ以テ勾留ヲ繼續スル必要アリト認メ同法第一百十三條ニ依リ勾留期間更新決定ヲ爲シ來リ翌年八月九日更ニ同一事由ニ依リ本件勾留期間更新決定ヲ爲シタルコト明白ニシテ本件以前ノ勾留期間更新決定カ孰レモ適法ナルコトハ右記錄ニ徵シ認メ得ルノミナラス抗告人等ノ爭ハサル所ナリ然ラハ抗告人等ハ抗告理由トシテ縷々陳述スレトモ其ノ當否ハ本件決定ノ際被告人ニ逃亡スル虞アリヤ否ヤニ存スルカ故ニ之ヲ判定スルヲ以テ足ルモノトス仍テ本件記錄ニ付精査スルニ被告人ハ養母出口なかり大本教祖ト稱シ妻すみり二代教主ト爲シ自身教主補トシテ大本ヲ統轄シ信者約一萬人支部百數十ヶ所ヲ算スルニ至リタルトコロ大本發行ノ神靈界神諭又ハ裏神諭ト稱シ不敬ノ記事ヲ掲載シタル簾ニ依リ大正十年二月不敬竝ニ新聞紙法違反罪トシテ起訴勾留セラレ豫審ヲ經京都地方裁判所ノ公判ニ繫屬中六月十日責付ニ依リ出所シ十月五日懲役五年ノ判決ヲ受クルヤ直ニ控訴ヲ申立テ責付中ナル大正十三年二月十三日擅ニ蒙古方面ニ赴キ逃亡シタル爲七月責付取消トナリ大阪刑務所北區支所ニ收容セラレ其ノ間大阪控訴院ニ於テ關席判決ヲ以テ懲役五年ニ處セラレ辯護人ヨリ上告ヲ申立テ大審院ニ於テ審理中昭和二年五月恩赦令ニ依リ免訴ノ決定アリタルコト右事件ノ豫審中被告人ハ大本教改良ノ意見ト題スル書面ヲ提出シ大本教ノ

神諭ニハ不敬ナル文詞アルヲ以テ所謂筆先ハ之ヲ燒棄シ改革ヲ斷行スヘキ旨上申シタルニ拘ラス信者ノ治安ニ妨害アリト稱シ之ヲ燒棄セス更ニ右筆先及神諭ヲ補充説明シ大正十年十月三十日ヨリ昭和九年十二月三十日迄ノ間靈界物語八十一卷ヲ發行シ大本ノ教典ト爲シ教義ノ宣布ニ力メ昭和十一年本件檢舉ヲ受ケ豫審判事ノ取調ニ對シテハ我國體ヲ變革スルコトヲ目的トスル結社大本ヲ組織シ其ノ目的達成ノ爲諸般ノ活動ヲ爲シ大本教義ヲ宣傳シテ同結社ノ擴大強化ヲ圖ル目的ヲ以テ 天皇陛下ニ對シ奉リ不敬ノ行爲ヲ爲シタル旨陳述シ原裁判所公判廷ニ於テハ大本教義ノ根本ハ皇室中心主義ニシテ皇室無クシテ國家無シトセルモノナルヲ以テ右教義宣布ノ爲爲シタル行爲ニ付テハ一點恥スルトコロ無キ旨陳述シ猶被告人ハ原裁判所ニ於テ神靈界掲載ノ不敬記事ハ部下ノ書キシモノナルモ自分ハ大本ノ責任者ナラ故自分ノ書キシモノト申シタルカ此記事ヲ書キシ者ハ申譯無シトテ心配ノ餘病死シタル旨陳辯セルコト明白ナリ是ニ由リ之ヲ觀レハ被告人ハ大本教義ノ宣布ト稱シ遠隔ノ地ニ赴キ審判ヲ困難ナラシムル虞アルノミナラス多數信徒中被告人ヲ狂信スル者ハ其ノ安泰ヲ願望スルノ餘本件審判ヲ不能ニ陥ラシムル爲被告人ニ其ノ所在ヲ韜晦センコトヲ恣憑スヘキ虞ナキヲ保セス被告人モ亦其ノ懇情ニ感激シ其ノ懇請ヲ容ルル虞ナシト斷定シ難キコトヲ窺知シ得ヘシ斯ノ如キ場合ハ刑事訴訟法第百十三條ニ所謂勾留ヲ繼續スル必要アル場合ニ該當スルコト勿論ナルヲ以テ原裁判所カ同法條ニ則リ被告人ニ對シ本件勾留期間更新決定ヲ爲シタルハ定ニ相當ニシテ本件抗告ハ理由無シ仍テ刑事訴訟法第四百六十六條第一項ニ則リ主文ノ如ク決定ス

昭和十四年九月九日

大阪控訴院第〇刑事部

三七二 保釋請求却下決定ニ對スル抗告ノ棄却決定

決定

被告人、被告人中田長太郎辯護人

佐久間 渡

被告人中田長太郎ニ對スル賭場開帳常習賭博被告事件ニ付昭和十五年七月十一日大田原區裁判所カ爲シタル保釋請求却下ノ決定ニ對シ右被告人ヨリ適法ナル抗告ノ申立アリタルヲ以テ當裁判所ハ決定スルコト左ノ如シ

主文

本件抗告ハ之ヲ棄却ス

理由

本件抗告ノ要旨ハ被告人ハ建築業ヲ營ミ東京市江戶川區平井四丁目千四百八十番地ニ妻子ト共ニ定住スル者ニシテ前記被告事件ニ付既ニ常習者ナリトノ點ヲ除キ其ノ餘ノ公訴事實ハ自白シ居ルヲ以テ罪證湮滅ノ虞ナク且逃亡ノ虞ナキモノナレハ本件保釋請求ハ當然許容セラルヘキモノニ拘ラス之カ却下ノ決定ハ不當ニシテ取消サルヘキモノナリト謂フニ在リ

依テ案スルニ被告人ニ對スル太田原區裁判所昭和十五年刑第四五號賭場開帳常習賭博被告事件ノ記錄ニ依レハ被告人ハ昭和十五年六月九日同裁判所判事ノ勾留狀ニヨリ勾留セラレ同年七月十一日右被告人ヨリ保釋ノ請求アリ同日同裁判所ハ不相當ト認メ之ヲ却下シタルコト明カナリ而シテ該記錄ニ依レハ右却下當時被告人ニ付テハ刑事訴訟法第九十

三七二 保釋請求却下決定ニ對スル抗告ノ棄却決定

六五七

條所定ノ勾留ノ原由ノ存シタルコト明白ニシテ未タ其ノ原由ノ全然消滅シタルコトヲ認ムルニ足ル何等ノ事跡ナシ從テ右保釋請求却下ノ裁判ハ固ヨリ正當ニシテ該裁判ニハ何等ノ違法ナキヲ以テ之ヲ取消ヲ求ムル本件抗告ハ其ノ理由ナシ

仍テ主文ノ如ク決定ス

昭和十五年八月一日

宇都宮地方裁判所第〇刑事部

三七三 勾留執行停止期間延長決定

決定

被告人

萩原中

右ノ者ニ對スル治安維持法違反被告事件ニ付當裁判所ハ檢事ノ意見ヲ聽キ決定スルコト左ノ如シ

主文

昭和七年四月十五日右被告人ニ對シ發シタル勾留狀ニ基ク勾留ノ執行ヲ昭和十二年一月三十一日迄停止シタルト
コト昭和十二年二月一日ヨリ當分ノ間更ニ之ヲ停止ス

右停止期間中右被告人ノ住居ヲ千葉縣香取郡多古町田町萩原彦五郎方ニ制限ス

昭和十二年一月二十七日

東京刑事地方裁判所

三七四 保釋保證金沒取ノ決定

決定

本籍 東京市豊島區目白町一丁目千五百五十八番地

住居 同市荒川区荒川橋町角管二丁目七十二番地

會社員

今仁伊孝

當三十七年

右ノ者ニ對シ當院檢事ヨリ保釋保證金沒取決定ノ請求アリタルヲ以テ當院ハ決定スルコト左ノ如シ

主文

被保釋人今仁伊孝ニ對スル公私文書偽造行使有價證券虛偽記入行使詐欺被告事件ニ付其ノ保釋保證金トシテ納付シタル金貳百圓ハ全部之ヲ沒取ス

理由

被保釋人今仁伊孝ハ公私文書偽造行使有價證券虛偽記入行使詐欺被告事件ニ付昭和七年四月二十二日東京地方裁判所豫審判事ヨリ保釋ノ決定ヲ受ケ右決定ニ基キ保證金トシテ金貳百圓ヲ納付シ同月二十五日釋放セラレタルモノナルト
コト昭和九年九月十四日當院ニ於テ右被告事件ニ付懲役貳年ニ處スル旨ノ判決ヲ宣告セラレ同日該判決ニ對シ上告ノ

三七四 保釋保證金沒取ノ決定

六五九

申立ヲ爲シタルモ昭和十年三月二十日大審院ニ於テ右上告ヲ棄却スル旨ノ判決ヲ受ケ茲ニ前示刑ノ言渡ヲ受ケタル判
決カ確定シタルコトハ取寄ニ係ル同被告事件ノ記録ニ徴シ明白ニシテ其ノ後被保釋人カ逃亡シタルコトハ昭和十四年
十二月十八日淀橋警察署ノ東京控訴院檢事局ニ對スル回答書類ニ依リ之ヲ認メ得ルヲ以テ檢事ノ本件請求ハ其ノ理由
アルモノト認メ刑事訴訟法第百十九條第三項ニ則リ主文ノ如ク決定ス

昭和十五年一月二十四日

東京控訴院第〇刑事部

三七五 押收物還付決定

決 定

被告人

川 口 春 吉

右ノ者ニ對スル強盜殺人死體遺棄被告事件ニ付被告人ノ辯護人神純義ヨリ押收品還付申請アリタルヲ以テ當裁判所ハ
檢事ノ意見ヲ聽キ決定スルコト左ノ如シ

主 文

本件押收物件中メリヤスシャツ上下一組(昭和十一年押第一〇一四號ノ三九)毛絲腹卷一枚(同號ノ四〇)メリヤス
襪又一枚(同號ノ四一)大島耕拾一枚(同號ノ四二)ハ之ヲ被告人ニ還付ス

理 由

本件押收物件中主文掲記ノ物件ハ留置ノ必要ナキモノト認メ之ヲ被告人ニ還付スヘキモノトス
仍テ主文ノ如ク決定ス

昭和十一年十二月七日

東京刑事地方裁判所

三七六 押收物假還付決定

決 定

被告人

伊 藤 曉 造

右者ニ對スル詐欺被告事件ニ付被告人ヨリ押收品假還付申請アリタルニ依リ當裁判所ハ檢事ノ意見ヲ聽キ決定スルコ
ト左ノ如シ

主 文

特別當座預金通帳 一通

但株式会社三和銀行銀座支店ヨリ伊藤曉造宛(昭和十年押第七五八號ノ一八)

ヲ被告人伊藤曉造ニ假還付ス

昭和十年十二月十六日

東京刑事地方裁判所

三七七 付公判ノ豫審終結決定ニ對スル抗告ノ棄却決定

決定

本籍並住居 長野縣上水内郡津和村三十一番地

當時長野刑務所内

大内 寅之助

慶應二年九月八日生

右ニ對スル文書偽造行使詐欺未遂被告事件ニ付昭和四年十二月十九日長野地方裁判所豫審判事ノ爲シタル豫審終結決定ニ對シ被告人ヨリ抗告ノ申立アリタルニ因リ當裁判所ハ檢事ノ意見ヲ聽キ左ノ如ク決定ス

主文

本件抗告ハ之ヲ棄却ス

理由

本件抗告ノ要旨ハ被告人ニ對スル前記文書偽造行使詐欺未遂被告事件ニ付長野地方裁判所豫審判事ハ昭和四年十二月十九日附ヲ以テ該事件ヲ長野地方裁判所ノ公判ニ付スル旨ノ決定ヲ爲シタレトモ被告人ハ該決定ニ對シ服スルコトヲ得サルニヨリ之カ取消ヲ求ムル爲メ本件抗告ニ及ヒタリト謂フニ在リ然レトモ豫審判事カ爲シタル被告事件ヲ公判ニ付スル旨ノ決定ハ刑事訴訟法第四百五十七條ニ所謂訴訟手續ニ關シ判決前ニ爲シタル決定ニ該當シ特ニ即時抗告ヲ爲シ得ヘキコトヲ定メタル場合ヲ除クノ外抗告ヲ爲スコトヲ得サルモノナル處該決定ニ對シテハ即時抗告ヲ許ス旨ノ規

定存セサルヲ以テ抗告ヲ爲シ得サルモノトス然ラハ本件抗告ハ不適法ナルヲ以テ之ヲ棄却スヘキモノトシ同法第四百六十六條第一項ニ則リ主文ノ如ク決定ス

昭和十五年一月十七日

東京控訴院第〇刑事部

三七八 免訴ノ豫審終結決定ニ對スル抗告ノ棄却決定

決定

本籍 山梨縣北巨摩郡上手村永井九千八百十八番地

住居 同所 鈴木長平方

農

鈴木とよじ

當二十九年

右者ニ對スル殺人被告事件ニ付昭和六年六月三十日甲府地方裁判所豫審判事ノ爲シタル被告人ヲ免訴スル旨ノ豫審終結決定ニ對シ同裁判所檢事ハ之ヲ不當トシテ抗告ヲ爲シタルニ因リ當院ハ檢事某ノ意見ヲ聽キ決定ヲ爲スコト左ノ如シ

主文

本件抗告ハ之ヲ棄却ス

理由

三七八 免訴ノ豫審終結決定ニ對スル抗告ノ棄却決定

本件公訴事實ノ要旨ハ被告人ハ豫テ其ノ内縁ノ夫大柴迪ノ長男正孝(昭和五年當時七年)ヲ憎惡虐待シ居タルトコロ遂ニ同人ヲ殺害セムコトヲ決意シ昭和五年三月四日午前九時頃山梨縣北巨摩郡上手村永井ノ右大柴迪居宅前便所ニ於テ用便中ノ正孝ヲ糞便壺中ニ突キ落シ「シヨツク」ニ因リ即死セシメタルモノナリト謂フニ在レトモ公判ニ付スルニ足ルヘキ犯罪ノ嫌疑ナキヲ以テ刑事訴訟法第三百十三條後段ニ依リ被告人ニ對シ免訴ノ言渡ヲ爲スヘキモノトス然ラハ原決定ハ之ト同趣旨ニシテ正當ナルヲ以テ本件抗告ハ理由ナク仍テ刑事訴訟法第四百六十六條第一項後段ニ則リ主文ノ如ク決定ス

昭和七年二月二十九日

東京控訴院第○刑事部

三七九 免訴ノ豫審終結決定ノ取消決定(抗告審)

決定

本籍 長野縣上伊那郡赤穂村一萬七百六十一番地

住居 同縣同郡飯島村千四百二十六番地

製材業

田中松太郎

當五十三年

右ノ者ニ對スル銃砲火藥類取締法施行規則違反脅迫被告事件ニ付昭和十二年三月十八日長野地方裁判所飯田支部豫審判事ノ爲シタル脅迫罪ニ付免訴ノ豫審決定ニ對シ同廳檢事ヨリ適法ナル抗告申立アリタルヲ以テ當院ハ檢事ノ意見ヲ

聽キ決定スルコト左ノ如シ

主文

原決定中脅迫罪ニ付被告人ヲ免訴シタル部分ヲ取消ス

左記事件ヲ長野地方裁判所飯田支部ノ公判ニ付ス

理由

被告人ハ嘗テ山師、劇場經營、製材業等ヲ營ミ飯島村方面ニ於テ親分ノ一人トシテ立テラレ居リタルモノナルカ近時中風ノ氣味トナリ其行動モ意ノ如クナラサルニ至リタルニ反シ十數年前被告人ト内縁關係ヲ結ヒ六年間同棲ノ上別レタル長野縣上伊那郡飯島村料理店武藏屋コト伊藤ミヨカニ、三年前ヨリ田畑金彌ト内縁關係ヲ結ヒ相當ノ營業ヲ續ケ殊更被告人ヲ嫌忌輕侮スルノ態度ヲトルノミナラス其惡口ヲ言觸ス仕打アルヲ憤慨シ右ミヨヲ畏怖セシメンコトヲ企テ昭和十一年十一月十七日夜同女方居宅裏軒下坪庭ニ燐寸ヲ以テ導火線ニ點火シタル「ダイナマイト」ヲ投込ミ之ヲ爆發セシメ以テ同女ノ身體等ニ危害ノ及フヘキコトヲ暗示シテ脅迫シタルモノナリ以上ノ事實ハ刑法第二百二十二條ニ該當シ公判ニ付スルニ足ル嫌疑有ルヲ以テ刑事訴訟法第三百十二條ニ則リ長野地方裁判所飯田支部ノ公判ニ付スヘキモノトス然ルニ原決定ハ之ト異リ右事實ニ付被告人ヲ免訴シタルモノニシテ失當ナルニヨリ刑事訴訟法第四百六十六條第二項ニ則リ原決定中脅迫罪ニ付被告人ヲ免訴シタル部分ヲ取消シ主文ノ如ク決定ス

昭和十二年四月二十六日

東京控訴院第○刑事部

三八〇 公訴棄却決定 (一)

決定

本籍並住居 東京府北多摩郡東村山村大岳二百六十八番地

農

當 麻 直 二

當五十一年

右ノ者ニ對スル收賄贈賄補助被告事件ニ付昭和十四年十月三十日東京刑事地方裁判所ニ於テ宣告シタル有罪判決ニ對シ被告入ヨリ適法ナル控訴ノ申立アリタルトコロ被告人死亡シタルヲ以テ當院ハ檢事ノ意見ヲ聽キ決定スルコト左ノ如シ

主 文

被告人當麻直ニ對スル本件公訴ハ之ヲ棄却ス

理 由

被告人當麻直ニハ昭和十五年六月十三日死亡シタルモノニシテ右事實ハ同人妻當麻幾美ヨリ提出ニ係ル戶籍抄本ノ記載ニ徴シ明白ナルヲ以テ右被告人ニ對スル本件公訴ハ之ヲ棄却スヘキモノト認メ刑事訴訟法第四百七條第三百六十五條第一項第二號ニ依リ主文ノ如ク決定ス

昭和十五年十一月一日

東京控訴院第〇刑事部

三八一 公訴棄却決定 (二)

決定

本 籍 愛媛縣南宇和郡西外海村船越七百九十二番地

最後ノ住所 宇和島市堀端通三十三番地

元繁久丸船長

吉 田 俱

明治十三年八月十一日生

右ニ對スル業務上過失艦船破壊並覆沒被告事件ニ付當裁判所ハ決定スルコト左ノ如シ

主 文

本件公訴ハ之ヲ棄却ス

理 由

本件被告人ニ對スル公訴事實ハ

被告人ハ乙種船長ノ海技免狀ヲ受有シ青木運輸株式會社ニ雇ハレ同會社所有ノ汽船繁久丸(總噸數二〇七噸六三〇)ノ船長トシテ其ノ業務ニ從事シ居リタルモノナルトコロ昭和十四年十二月二十六日午前七時五分頃自己ノ指揮ノ下ニ舵夫谷本勁ヲシテ同船ヲ操舵セシメ大阪港安治川筋八幡屋棧橋ニ向ヒ時速約四哩ニテ進行シ大阪市港區北海岸區地先大阪港内第二區一文字防波堤北端ノ西方約四町ノ海上ニ差蒐リタルカ同所附近ニハ多數ノ船舶ヲ繫留シアリ且船舶ノ航行頻繁ナルヲ以テ船長タル者ハ常ニ前方並ニ側方ヲ注視シ自己ノ前方ヲ横斷セントスル船舶アルトキハ速ニ

之ヲ發見シ衝突等ノ事故ヲ未然ニ防止スヘキ業務上ノ注意義務アルニ拘マズ被告人ハ側方注視ヲ怠リ自己ノ前方約六十間ニ迫リテ始メテ解五艘ヲ曳キテ自己ノ右方ヨリ左方ニ向ツテ横斷セントスル曳船海安丸ヲ發見シ之ト衝突スル危險ヲ感シタルカスカル場合ニ於テモ停船後退ノ處置ヲ採リ且進路ヲ右轉スル等適宜ノ措置ヲ講シ事故ノ發生ヲ防止スヘキニ拘ラス被告人ハ右海安丸カ完全ニ避讓スルモノナルヘシト輕信シ單ニ機關停止ヲ爲シ惰力ヲ以テ進行シ右海安丸ノ最後部解トノ距離約七間ニ迫リタルトキ始メテ右轉シ同解トノ衝突ヲ避ケンシタルモ及ハス繁久丸ノ船首ヲ同解ニ衝突セシメテ之ヲ破壊シタルカ尙附近ニハ前記ノ如ク多數船舶繫留シアルヲ以テ停船後退等ノ措置ニ出テ更ニ事故ノ發生ヲ防止スヘキ業務上ノ注意義務アルニ拘ラス被告人ハ進路ヲ左轉シ尙惰力ヲ以テ進行シタル爲メ前記一文字防波堤北端ニ繫留シアリタル機帆船住吉丸(總噸數十八噸九五)ノ右舷側ニ繁久丸ノ船首ヲ衝突セシメテ之ヲ破壊シ覆没セシメタルモノナリ

ト謂フニアレトモ被告人ハ昭和十六年一月二十日八幡濱市向濱通り千五百十八番地ニ於テ死亡シ右死亡ノ事實ハ宇和島警察署巡查和泉滿春ノ昭和十六年一月二十二日附被告人ノ居住調ニ關スル報告書及南宇和郡西外海村長益田與三郎作成ニ係ル同被告人ノ戶籍謄本ニヨリ明カナリ

仍テ被告人ニ對スル本件公訴ハ略式命令ヲ爲スヲ得ス之カ公訴ヲ棄却スヘク刑事訴訟法第五百二十五條第三百六十五條第一項第二號ニ則リ主文ノ如ク決定シタリ

昭和十六年一月三十日

宇和島區裁判所

三八二 刑執行猶豫言渡取消決定ニ對スル抗告棄却決定

決定

本籍 小倉市大字篠崎四百八十七番地
住居 同市馬借町二丁目百八十七番地

木本榮

明治四十年七月十二日生

右ノ者ヨリ昭和十四年(乙)第一號刑執行猶豫言渡取消事件ニ付小倉區裁判所カ昭和十四年十月二十四日爲シタル刑執行猶豫言渡取消ノ決定ニ對シ即時抗告ノ申立アリタルヲ以テ當裁判所ハ檢事ノ意見ヲ聽キ決定スルコト左ノ如シ

主文

本件抗告ハ之ヲ棄却ス

理由

本件抗告ノ要旨ハ小倉區裁判所ハ昭和十四年十月二十四日「東京控訴院第〇刑事部カ昭和十四年三月三十日抗告人ニ對シテ爲シタル刑ノ執行猶豫ノ言渡ハ之ヲ取消ス」旨ノ決定ヲ爲シ抗告人ハ同月二十五日該決定ノ送達ヲ受ケタルモ之ヲ不服トシ抗告シタルモノナリト謂フニアレトモ抗告人カ昭和十四年三月三十日東京控訴院第〇刑事部ニ於テ不隱文書臨時取締法違反罪ニヨリ禁錮四月ニ處セラレ三年間其ノ刑ノ執行ヲ猶豫セラレタル者ナルコト及右言渡前被告人

三八二 刑執行猶豫言渡取消決定ニ對スル抗告棄却決定

カ昭和十四年二月十六日小倉區裁判所ニ於テ住居侵入暴力行爲等處罰ニ關スル法律違反罪ニヨリ懲役六月ニ處セラレ該判決ハ同年三月二十四日確定シタルモノナルコトハ本件記録ニ徴シ明白ナリ依テ原審裁判所カ右事實ニ付刑法第二十六條第三號刑事訴訟法第三百七十四條ニ則リ右刑ノ執行猶豫言渡ヲ取消シタルモノニシテ原決定ハ洵ニ相當ニシテ本件抗告ノ申立ハ其理由ナキモノナルニ依リ刑事訴訟法第四百六十六條第一項後段ニ從ヒ主文ノ如ク決定ス

昭和十五年九月十六日

福岡地方裁判所刑事部

三八三 累犯加重決定

決定

本籍 朝鮮慶尙南道釜山府草場町三丁目百十五番地
住居 目下前橋刑務所服役中

孫 亮 出

當二十八

右ノ者ニ對シ當裁判所檢察事ヨリ累犯加重刑決定ノ請求アリタルヲ以テ當裁判所ハ被告人ノ意見ヲ聽キタル上決定スルコト左ノ如シ

主 文

被告人カ昭和十年七月十九日竊盜未遂罪ニ因リ處セラレタル懲役一年ニ更ニ懲役六月ヲ加重ス

理 由

被告人ハ昭和十年七月十九日當裁判所ニ於テ昭和十年二月二十日犯シタル竊盜未遂罪ニ因リ懲役一年ニ處セラレ同年十一月二日該判決確定シ其ノ刑ノ執行中ノ者ナルトコロ其ノ犯罪前昭和三年四月二十四日福岡區裁判所ニ於テ竊盜罪ニ因リ懲役一年以上三年以下ニ處セラレ同年五月二日該判決確定シ昭和三年勅令第二七〇號ニ依リ懲役八月以上二年以下ニ減刑セラレ昭和五年四月三日久留米少年刑務所ヲ假釋放セラレ爾後殘刑期ヲ經過シ其ノ刑ノ執行ヲ終リタルモノニシテ該事實ハ被告人提出ノ意見書竝一件記録ニ徴シ明白ナルヲ以テ刑法第五十八條第一項第五十七條第五十六條第一項刑事訴訟法第三百七十五條ニ則リ右當裁判所ニ於テ言渡シタル竊盜未遂罪ノ懲役一年ニ更ニ懲役六月ヲ加重スヘキモノトシ主文ノ如ク決定ス

昭和十一年五月二十二日

東京刑事地方裁判所

三八四 上訴權回復請求棄却決定

決定

本籍 靜岡縣磐田郡掛塚町掛塚八百七十五番地
住居 當時東京拘置所在所

三八四 上訴權回復請求棄却決定

右ノ者ヨリ昭和十四年十二月二十二日當院ノ爲シタル再審ノ請求ヲ棄却スル旨ノ決定ニ對シ上訴權回復ノ請求アリタルヲ以テ當院ハ檢事ノ意見ヲ聽キ決定スルコト左ノ如シ

主 文

本件上訴權回復ノ請求ハ之ヲ棄却ス

理 由

本件上訴權回復請求理由ノ要旨ハ申立人ハ昭和十三年十月二十一日東京控訴院ニ於テ殺人強盜殺人被告事件ニ付有罪ノ判決ヲ受ケテ上告シ昭和十四年二月二十五日上告棄却ノ言渡ヲ受ケ右有罪判決確定シタルヲ以テ同年九月三十日辯護人神純義ヲ選任シテ同人ヨリ東京控訴院ニ再審ノ請求ヲ爲シタルトコロ同控訴院ニ於テ昭和十四年十二月二十二日再審ノ請求ヲ棄却スル旨ノ決定ヲ爲シ右決定ノ謄本ハ同月二十九日申立人ニ送達セラレタリ仍テ申立人ハ該決定ニ對シ直ニ抗告ヲ爲サント決意シ係リノ擔當看守ニ抗告ノ手續ヲ爲シ尙右再審請求ノ辯護人タリシ辯護士神純義ニ報告スル爲メ同人ニ對シ打電ノ手續ヲ了シタルトコロ恰モ同人ハ當時東京拘留所内辯護士控室ニ居合セタルヲ以テ係官ノ特別ナル御取計ニヨリ同辯護士ト面會ヲ許サレタルニヨリ以上ノ趣ヲ申入レタルトコロ同辯護士ハ同人ノ許ニ未タ再審ノ請求ヲ棄却スル旨ノ決定書ノ謄本カ送達セラレズ其ノ内容モ判明セサルヲ以テ之カ送達ヲ受ケタル上ヨク其ノ内容ヲ檢討シ一月ニ入ラハ面會ニ來ルヘキニヨリソレ迄抗告ヲ保留セヨト申シタルヲ以テ申立人ハ其ノ趣旨ヲ前記擔當看守ニ申出テ抗告申立ヲ保留シ置キ、昭和十五年一月十五日右決定ニ對シ抗告ヲ爲シタルトコロ同年一月三十一日大審院

ヨリ法定期間經過後ノ申立ニ係ルトノ理由ノ下ニ抗告棄却ノ決定書ヲ送達セラレタルヲ以テ更ニ同年二月一日大審院ニ即時抗告ヲ爲シタルニ同年二月十六日又棄却ノ決定ヲ受ケタルモノナリ、法律ニ疎キ申立人ニハ如何ナル理由カ判明セズ六法全書ヲ借用シテ始メテ即時抗告ノ提出期間ヲ知り愕然トシテ驚キタル次第ナリ、前叙再審ノ請求ヲ棄却スル旨ノ決定ニ對シ當然抗告スヘキ申立人ノ意思ヲ辯護士神純義ノ過失ニヨリ即時抗告ノ期間ヲ經過シタルモノニシテ明カニ申立人ノ意思ニ反シタルモノナリ故ニ右事情御憫諒下サレ何卒上訴權回復ノ請求ヲ許容セラレタク刑事訴訟法第三百八十七條第三百八十八條ニ則リ本件請求ニ及ヒタリト謂フニ在リ

仍テ按スルニ上訴權ノ回復ハ上訴權ヲ有スル者又ハ其ノ代人ノ責ニ歸スヘカラサル事由ニ由リテ上訴期間ヲ經過シタル場合ニ非サレハ之ヲ許スヘカラサルコトハ刑事訴訟法第三百八十七條ノ明規スルトコロナリトス然ルニ本件ニ於テ申立人カ當院ノ爲シタル再審ノ請求ヲ棄却スル旨ノ決定ニ對スル即時抗告提起期間ヲ經過シタル所以ハ申立人ニ於テ即時抗告ノ提起期間ヲ知ラサリシト、申立人カ當院ノ爲シタル再審請求棄却ノ決定ニ對シ右再審請求事件ノ辯護人タリシ辯護士神純義ト善後策ニ付重ネテ會見協議スヘキコトヲ約シタルニ其ノ後同辯護士ノ過失ニヨリ荏苒即時抗告提起期間ヲ經過シタルニ由ルモノナルコトハ申立人ノ主張自體ニ徴シ明白ナリトス而シテ申立人ニ於テ即時抗告ノ提起期間ヲ知ラサリシトノ事實ハ前記法條ニ所謂上訴權者ノ責ニ歸スヘカラサル事由ノ一ニ該當スルモノトハ到底之ヲ認め難ク又抗告ヲ爲スニ付重ネテ辯護人ト會見協議スヘキコトヲ約シタルニ其ノ後辯護人ノ過失ニ依リ荏苒即時抗告提起期間ヲ經過シタルトノ事實ハ其ノ間申立人ニ於テ適法ニ即時抗告ヲ提起スルヲ妨ケサルヲ以テ結局上訴權者タル申立人又ハ其ノ代人タル辯護士ノ過失ニ依リ即時抗告提起期間ヲ徒過シタルモノナルコト疑ヲ容レズ然レハ本件上訴

權回復ノ請求ハ既ニ此ノ點ニ於テ失當ナルコト明瞭ナルヲ以テ刑事訴訟法第三百八十九條ニ則リ之ヲ棄却スヘキモノトス

仍テ主文ノ如ク決定ス

昭和十五年三月四日

東京控訴院第〇刑事部

三八五 控訴棄却決定ニ對スル抗告ノ棄却決定 (一)

決定

被告人 石塚志郎辯護人

小堀文雄

右ノ者ヨリ被告人石塚志郎ニ對スル傷害被告事件ニ付宇都宮區裁判所カ昭和十五年十月二十四日爲シタル控訴棄却ノ決定ニ對シ即時抗告ノ申立アリタルヲ以テ當裁判所ハ檢事ノ意見ヲ聽キ決定スルコト左ノ如シ

主文

本件抗告ハ之ヲ棄却ス

理由

本件抗告ノ要旨ハ

被告人石塚志郎ニ對スル傷害被告事件ニ付昭和十五年十月十一日宇都宮區裁判所カ言渡シタル有罪判決ニ對シ右被告人ヨリ昭和十五年十月十九日控訴ノ申立ヲ爲シタルトコロ右控訴申立ハ控訴期間滿了シ控訴權消滅後ニ爲サレタルモノトシテ宇都宮區裁判所ハ昭和十五年十月二十四日右控訴申立棄却ノ決定ヲ爲シ同決定謄本ハ昭和十五年十月二十五日右被告人ニ送達セラレタリ

然レトモ右被告人ノ爲シタル控訴申立ハ控訴期間ノ最終日タル十月十八日カ靖國神社臨時大祭ノ一般休日ニシテ翌十九日ヲ以テ期間滿了スヘキモノナルニヨリ右十九日ニ爲サレタル被告人ノ控訴ハ適法ニシテ控訴權消滅セス左レハ原審カ爲シタル控訴申立棄却決定ハ違法ナルニヨリ原決定ノ取消ヲ求ムル爲本抗告ニ及ヒタリト謂フニ在リ

仍テ按スルニ石塚志郎ニ對スル傷害被告事件記録竝當廳昭和十五年(乙)第二號控訴申立棄却ノ決定ニ對スル抗告事件記録ニ徵スレハ右被告人ニ對スル傷害被告事件ニ付宇都宮區裁判所カ昭和十五年十月十一日同被告人ヲ懲役三月ニ處スル旨ノ判決ヲ言渡シ右判決ニ對シ同被告人ヨリ同月十九日控訴ノ申立ヲ爲シタルトコロ同裁判所ハ控訴期間經過後ノ控訴申立ナルコトヲ理由トシ同月二十四日右控訴申立ヲ棄却スル旨ノ決定ヲ爲シ該決定謄本カ同月二十五日同被告人ニ送達セラレタルコト及右被告人ハ同月十九日辯護士小堀文雄ヲ辯護人ニ選任シテ届出テ同日右辯護人ヨリ本抗告ニ及ヒタルコト明白ナリ然レトモ昭和十五年十月十八日靖國神社臨時大祭ノ爲諸官員竝陸海軍軍隊諸生徒ニ休暇ヲ賜リタル日ハ刑事訴訟法第八十一條第三項ニ所謂一般ノ休日トシテ指定シタル日ニ該當セサルヲ以テ本件控訴ハ控訴期間申立後ノ控訴申立ナルコト明白ニシテ原決定ハ相當ナルノミナラス右控訴期間ノ徒過ニヨリ該判決ハ確定シ其ノ後ニ選任セラレタル辯護人ヨリ爲サレタル本件抗告モ亦不適法ナレハ以上孰レノ點ヨリ見ルモ本件抗告ハ其ノ理由ナキヲ以テ刑事訴訟法第四百六十六條第一項ニ依リ之ヲ棄却スヘキモノトス

仍テ主文ノ如ク決定ス

昭和十五年十一月一日

宇都宮地方裁判所刑事部

三八六 控訴棄却決定ニ對スル抗告ノ棄却決定 (二)

本籍 室蘭市輪西町二百十六番地
當時 札幌刑務所在監

抗告申立人

高橋末吉

當五十年

右者ニ對スル贓物故買等被告事件ニ付昭和十五年十二月二十八日室蘭區裁判所カ爲シタル控訴申立ヲ棄却スル決定ニ對シ右申立人ヨリ即時抗告ノ申立アリタルヲ以テ當裁判所ハ檢事ノ意見ヲ聽キ左ノ如ク決定ス

主 文

本件抗告ハ之ヲ棄却ス

理 由

本件抗告ノ要旨ハ

抗告人ハ贓物故買等被告事件ニ付昭和十五年十二月十四日室蘭區裁判所ニ於テ懲役六月罰金百圓及罰金貳拾圓ニ處ス

ル旨ノ判決言渡ヲ受ケタルトコ其ノ際聽覺ニ疾患アリテ懲役刑ノ言渡ナク罰金刑ノミノ言渡アリタルモノト信シ上訴權ヲ拋棄スル旨申立テ法廷ヲ立出テタルニ右疾患ノ爲特ニ附添方依頼セラレ同行シ居リタル石黒巖ノ言ニ依レハ懲役刑ノ言渡ヲモアリタルトノコトニテ折柄法廷ヨリ立出テ來リタル廷下ノ言モ亦同様ナリシヲ以テ初メテ罰金刑ノ言渡ノ外懲役刑ノ言渡ヲモ受ケタルコトヲ知リタル次第ニテ右上訴權拋棄ノ申立ハ抗告人ノ眞意ニ非スシテ右疾患ノ爲ノ誤聞ニ基ク錯誤ニ因ルモノナルヲ以テ上訴權回復請求ヲ爲スト共ニ控訴ヲ提起シタルカ原裁判所ハ同月二十八日該控訴申立ヲ棄却スル旨ノ決定ヲ爲シ該決定謄本ハ昭和十六年一月四日抗告人ニ送達セラレタリ然レトモ右決定ハ不當ニ付之ヲ取消シ更ニ相當ナル裁判ヲ求ムル爲本抗告ニ及ヒタリト謂フニ在リ

仍テ按スルニ抗告人カ昭和十五年十二月十四日室蘭區裁判所ニ於テ贓物故買等被告事件ニ付有罪判決ヲ受ケ上訴權拋棄ノ申立ヲ爲シタルハ縱令抗告人主張ノ如ク罰金刑ノミノ言渡アリ懲役刑ノ言渡ハナカリシモノト信シタルニ因ルモノナリトスルモ刑事訴訟法ニ於テハ錯誤ニ因ル上訴權拋棄ノ申立ヲ無効トスヘキ規定存セサルカ故ニ裁判ノ内容ヲ誤聞シテ上訴權拋棄ノ申立ヲ爲シタル場合ニ於テモ該申立ハ有效ナルコト勿論ニシテ之ニ因リテ抗告人ノ上訴權ハ消滅シタルモノナルヲ以テ該事件ニ付更ニ上訴ヲ爲シ得サルモノナルコト同法第三百八十六條ノ明規スルトコロナリ從ツテ其ノ後ニ爲サレタル控訴申立ハ上訴權消滅後ニ爲サレタルモノトシテ之ヲ棄却スヘキモノニシテ之ト同趣旨ニ出テタル原決定ハ相當ニシテ本件抗告ハ理由ナシ

仍テ刑事訴訟法第四百六十四條第四百六十六條第一項ニ則リ主文ノ如ク決定ス

三八六 控訴棄却決定ニ對スル抗告ノ棄却決定(二)

昭和十六年二月十二日

六七八

札幌地方裁判所刑事部

三八七 控訴棄却決定ノ取消決定(抗告審) (一)

決定

住居 北海道足寄郡足寄村字イナウシ

被告人 無職

川崎 ハツイ

當二十年

右ノ者ニ對スル放火被告事件ニ付昭和十三年四月四日札幌地方裁判所ノ爲シタル控訴棄却決定ニ對シ抗告人ヨリ同年四月十四日附ヲ以テ適法ナル抗告ノ申立アリタルヲ以テ當院ハ檢事某ノ意見ヲ聽キ決定スルコト左ノ如シ

主 文

札幌地方裁判所カ昭和十三年四月四日爲シタル

控訴棄却決定ハ之ヲ取消ス

理 由

本件抗告ノ要旨ハ抗告人ハ昭和十三年三月二十三日札幌地方裁判所ニ於テ放火罪ニ因リ懲役三年ノ判決言渡ヲ受ケ之ニ對シ同年三月三十日同裁判所ニ控訴申立書ヲ提出シタルニ同年四月四日同裁判所ニ於テ右申立書ノ控訴人名下ニ捺

印ナキ故ヲ以テ不適法トシテ棄却セラレタリ然レトモ抗告人ノ肩書地ハ不便ノ土地ニシテ到底期間内ニ申立書ヲ提出シ得サルトコロヨリ抗告人ハ同年三月三十日控訴申立ノ意思ヲ以テ電報ヲ以テ親族ニ當ル札幌市白石川岸一丁目五番地野中恂任ニ對シ控訴申立書ヲ代筆提出方ヲ依頼シ同日午後七時同人ヨリ抗告人名義ノ控訴申立書ヲ札幌地方裁判所ニ提出シタルモノニシテ右控訴申立書ノ抗告人ノ氏名下ニ抗告人ノ捺印ナク且其ノ名ハツイハツエト誤リテ記載シアリト雖モ該控訴申立ハ無効ニアラスト思料スルヲ以テ之ヲ棄却シタル原決定ハ失當ナルニヨリ該決定ヲ取消ノ上本件控訴申立ハ適法ナリトノ裁判相成度シト謂フニ在リ

按スルニ控訴ノ申立ハ控訴人名義ノ文書ヲ判決裁判所ニ提出セハ足ルモノニシテ該申立書ハ他人ノ代筆ニ係ルモ毫モ支障無ク縱令該申立書ノ控訴人名下ニ其ノ捺印ヲ缺ク場合ト雖モ控訴申立ノ意思ヲ以テ爲サレタル以上該控訴ノ申立ハ控訴申立ノ方式ニ違背スルコトナク適法ナルモノト認ムルヲ相當トス今本件ニ付之ヲ觀ルニ抗告人ハ昭和十三年三月二十三日札幌地方裁判所ニ於テ放火罪ニヨリ懲役三年ノ判決言渡ヲ受ケタルコト之ニ對シ同年三十日札幌市居住ノ親族野中恂任ヲシテ控訴申立書ヲ代筆ノ上同裁判所ニ提出セシメタルコト竝右野中恂任カ右申立書ヲ認ムルニ當リ抗告人ノ氏名ヲ誤リテ川崎ハツエト記入シ其ノ名下ニ捺印ヲ爲ササリシコトハ本件記録ニ徴シ明白ナルトコロナルモ前記所論ニ徴シ該控訴申立書ハ法律上ノ方式ニ缺クルトコロナク適法ナルモノト謂ハサルヘカラス從テ原決定カ本件控訴ノ申立書ヲ以テ控訴申立ノ方式ニ違反シタルモノトシテ棄却シタルハ失當ナルコト勿論ナルヲ以テ原決定ハ之ヲ取消スヘキモノトス

仍テ主文ノ如ク決定ス

三八七 控訴棄却決定ノ取消決定(抗告審)(一)

六七九

昭和十三年四月三十日

六八〇

札幌控訴院刑事部

三三八 控訴棄却決定ノ取消決定(抗告審) (二)

決定

住居

ソヴェト聯邦社會主義共和國サガレン州アレクサンドロフスタ市

ゼルギンスカヤ町二十九號ノ二

ソヴェト聯邦社會主義共和國人

被告人 元物品配給所倉庫係 アレキサンドル・セミヨノウイチ・カゼイキン

當三十四年

右ノ者ニ對スル軍機保護法違反被告事件ニ付昭和十四年二月二十四日樺太地方裁判所ノ爲シタル控訴棄却ノ決定ニ對シ抗告人ヨリ同年三月一日適法ナル抗告ノ申立アリタルヲ以テ當院ハ檢事某ノ意見ヲ聽キ決定スルコト左ノ如シ

主文

樺太地方裁判所カ昭和十四年二月二十四日爲シタル

控訴棄却ノ決定ハ之ヲ取消ス

理由

本件抗告ノ要旨ハ抗告人ハ昭和十四年二月十三日樺太地方裁判所ニ於テ軍機保護法違反罪等ニ因リ懲役三年ノ判決言渡ヲ受ケ之ニ對シ同年二月十六日同裁判所ニ控訴申立書ヲ提出シタルニ同年二月二十四日同裁判所ニ於テ抗告人ハ右判決ノ言渡期日ニ於テ口頭ヲ以テ自ラ上訴權ヲ拋棄シタルコト明ナレハ右控訴ノ申立ハ控訴權消滅後ニ係リ不適法ナリトシテ之ヲ棄却セラレタリ然レトモ同年二月十三日ノ公判期日ニ於テ通事菊地喜兵衛ノ通譯ニ依リ右判決ノ言渡ヲ受ケタル際抗告人ハ上訴權ヲ拋棄シタルモノニ非ス右第三回公判調書ニ被告人ハ上訴權ヲ拋棄スト申立テタル旨ノ記載アルハ右通事ノ誤譯ニ基クモノナルヲ以テ原決定ハ失當ナルニヨリ該決定ノ取消ヲ求ムル爲本件抗告ニ及ヒタリト謂フニ在リ

仍テ按スルニ本件記録中ノ樺太地方裁判所ニ於ケル右被告事件第三回公判調書ニ依レハ抗告人ハ被告人トシテ樺太地方裁判所ニ於テ昭和十四年二月十三日通事菊地喜兵衛ノ通譯ニ依リ裁判長ヨリ有罪ノ判決言渡ヲ受ケタル際上訴權ヲ拋棄スト申立テタル旨ノ記載アルコト明ナリ然レトモ本抗告事件ニ於ケル證人菊地喜兵衛ニ對スル囑託訊問調書中ノ同人ノ供述記載、抗告人ニ對スル囑託訊問調書中ノ其ノ供述記載並右各調書末尾添付ニ係ル右證人及抗告人作成ノ各露語ニ依ル手記ト之ニ對スル北海道廳警察部外事課ニ對スル翻譯方囑託ノ回答トシテ同課勤務通譯囑託中川皆志ノ翻譯トヲ綜合對比スレハ右菊地通事カ前記第三回公判期日ニ於テ裁判長ノ爲シタル判決言渡ノ要旨ヲ通譯シタルトコロ抗告人ハ通事ニ對シ露語ヲ以テ「懲役三年テスネ」ト反問シタルヨリ通事ハ露語ヲ以テ「確ニ其ノ通りテス」ト述フルヤ裁判長ハ「被告ハ承知カ」ト訊ネタル爲通事ハ抗告人ニ對シ之ヲ露語ニ通譯スル際右裁判長ノ問ヲ「何ント貴方ハ犯罪ニ對シ承認スルカ」ナル意ノ露語ヲ使用シタルニ抗告人ハ之ニ對シ露語ヲ以テ「承認シマス」ト答ヘタルヲ以テ通事ハ

三三八 控訴棄却決定ノ取消決定(抗告審)(二)

六八一

裁判長ニ對シ日本語ヲ以テ「服罪シマス」ト之ヲ譯シテ傳ヘ裁判長ハ更ニ「其レテハ異存ハアリマセンネ」ト訊ネタルヲ以テ通事ハ之ヲ「貴方ハ犯罪ニ對シ反駁ヲ持タナイカ」ナル意ノ露語ヲ使用シテ被告人ニ通シタルトコロ被告人ハ露語ヲ以テ「勿論私ハ持タナイ」ト答ヘタルニヨリ通事ハ裁判長ニ對シ日本語ヲ以テ之ヲ「被告人ハ勿論異存ハアリマセヌ」ト答ヘ居ル旨通譯シタルモノナルコトヲ窺知シ得ヘク而シテ被上ノ如キ經緯カ該公判調書ニ被告人ハ上訴權ヲ拋棄スト申立テタル旨記載セララルルニ至リタルコトヲ認メ得ヘシ然モ右中川皆志ノ翻譯ニ依レハ菊地通事カ被告人ニ對シ露語ヲ以テ通譯シタル中ニハ單ニ「犯罪ニ對シ承認スルカ」ナル語ヲ使用シタルノミニシテ「被告人ハ懲役三年ノ判決ヲ承認スルヤ或ハ同判決ニ同意スルヤ不服ナキヤ」等ノ意義ヲ包含セル用語ヲ使用シ居ラス從テ被告人カ露語ヲ以テ前記ノ如ク「承認シマス」ト述ヘタルハ通事カ裁判長ニ對シ通譯シタル「服罪シマス」トノ意ニ直ニ該當セサルコトヲ認メ得ヘク次ニ通事カ被告人ニ對シ露語ヲ以テ「犯罪ニ對シ何カ話スコトハアリマセンカ」ト譯シタル用語中ニハ「判決ニ對シ異存ハアリマセンネ」ノ意ナク從テ被告人カ「勿論私ハ持ツテ居リマセン」ノ答カ直ニ判決ニ對スル異議ヲ有セサル意ニ解シ難キコトヲ認メ得ヘキノミナラス前記被告人訊問調書中ノ其ノ供述記載ニ依レハ被告人カ右ノ如ク勿論異存ナキ旨答ヘタルハ懲役三年ノ該判決ニ對シ不服ナリシモ法廷ニ於テ裁判長ノ言ヲ反駁スヘキモノニ非スト考ヘ露語ヲ以テ「裁判長ノ言ニ贊同スルノカ當然タ」ト答ヘタルモノニシテ該判決ニ不服ナシト答ヘタルモノニ非サリシコトヲ認ムルニ足ルヲ以テ右通事カ裁判長ニ對シ被告人ハ上訴權ヲ拋棄スト申立テタル旨通譯シタルハ全ク右通事ノ誤譯ニ基クモノト謂ハサルヘカラス

而シテ公判調書中ニ誤記アルトキハ之ヲ訂正シテ解釋シ得ルコトハ論ヲ俟タサルトコロニシテ誤譯ニ基ク記載ハ誤記

ニ類スルモノトシテ取扱フヘキモノト解スルヲ正當トスヘキヲ以テ右公判調書中ノ被告人ハ上訴權ヲ拋棄スト申立テタル旨ノ記載ハ全ク通事ノ誤譯ニ基クモノナル以上其ノ效力ヲ有セサルモノト謂ハサルヘカラス從テ原決定カ本件控訴ノ申立ヲ右公判調書ノ記載ニ依リ上訴權拋棄後ノ申立ナリトシ之ヲ不合法トシテ棄却シタルハ失當ナルコトヲ免レサルカ故ニ原決定ハ之ヲ取消スヘキモノトス

仍テ主文ノ如ク決定ス

昭和十四年五月六日

札幌控訴院刑事部

三八九 上告申立棄却決定

決定

本籍 山梨縣東八代郡祝村下岩崎三百三十一番地
 住居 右同所
 石工 平田元春

當二十一年

右ノ者ニ對スル爆發物取締罰則違反強盜未遂被告事件ニ付昭和十一年五月二十九日當院ノ宣告シタル有罰判決ニ對シ辯護入菅野勘助ヨリ上告ノ申立ヲ爲シタルモ右申立書ハ昭和十一年六月四日當院ニ到達シタルモノナルコトハ記録ニ

三八九 上告申立棄却決定

六八三

依り明白ニシテ該申立ハ上告權消滅後ニ爲シタルモノナルヲ以テ刑事訴訟法第四百二十條ニ則リ檢事ノ意見ヲ聽キタル上決定スルコト左ノ如シ

六八四

主 文

本件上告申立ハ之ヲ棄却ス

昭和十一年六月八日

東京控訴院第〇刑事部

三九〇 押收物還付處分ニ關スル不服申立ニ對スル抗告ノ棄却決定

決 定

本 籍 弘前市大字元寺町六十九番地

當 時 府中刑務所在監

被告人

毛 利 金 五 郎

當六十二年

右ノ者ヨリ同人ニ對スル昭和十二年(は)第一五〇〇號詐欺被告事件ニ付東京區裁判所檢事ノ爲シタル押收物ノ還付ニ關スル處分ニ對スル不服申立ニ付東京區裁判所カ昭和十二年十二月十八日爲シタル決定ニ對シ抗告ノ申立アリタルヲ以テ當裁判所ハ檢事ノ意見ヲ聽キ決定スルコト左ノ如シ

主 文

本件抗告ハ之ヲ棄却ス

理 由

本件抗告ノ要旨ハ抗告人ハ昭和十二年三月十八日東京區裁判所ニ於テ詐欺罪ニヨリ懲役一年ノ判決ノ言渡ヲ受ケ同日該判決確定シタルモノナルトコロ右事件ニ付抗告人ヨリ任意ニ司法警察官ニ提出シテ領置セラレタル被告人所有ノ金屬大黒、惠比壽兩尊像、鐵道無賃乘車券、額面五萬圓ノ債券、市債、株券見本、小切手等ハ別ニ沒收ノ言渡ナカリシヲ以テ當然抗告人ニ還付セラレヘキモノナルニ拘ラス其ノ後此ノ事無カリシニヨリ同年十月九日東京區裁判所檢事局ニ對シ抗告人ヨリ此ノ點ニ關スル伺書ヲ提出シタルニ右各物件ニ付テハ抗告人ニ於テ之カ所有權ヲ拋棄シタルモノトシテ既ニ係檢事カ適法ニ處分シタル旨ノ回答ニ接シタリ然レ共抗告人トシテハ之等押收物件ニ付之カ所有權ヲ拋棄シタル事實全然ナキカ故ニ該物件ハ差出人タル抗告人ニ還付セラレヘキカ當然ナリト思料セララルニ付事茲ニ出テサリシ檢事ノ處分ヲ取消シ右物件ヲ抗告人ニ還付スヘキ旨ノ決定ヲ求ムル旨ノ申立ヲ爲シタルニ棄却ノ決定ヲ受ケタルニヨリ本件抗告ニ及ヒタリト謂フニ在リ

仍テ按スルニ凡ソ檢事ノ爲シタル押收物ノ還付ニ關スル處分ニ不服アル者ハ檢事所屬ノ裁判所ニ其ノ處分ノ取消又ハ變更ヲ請求シ得ヘキモノナルコト刑事訴訟法第四百七十一條ノ規定スルコトナリト雖モ該不明ノ申立ニ對シ裁判所審理ヲ遂ケ檢事ノ處分ノ當否ニ付決定ヲ與ヘタルトキハ其ノ裁判所ノ裁判ニ對シテハ更ニ抗告ノ方法ニ依リ不服ノ申立ヲ許ササルモノナルコト同法第四百七十四條ノ明規スルコトニシテ此等ノ規定ハ本件ニ於ケル檢事ノ處分ニ付テ

三九〇 押收物還付處分ニ關スル不服申立ニ對スル抗告ノ棄却決定

六八五

モ亦之ヲ準用スルヲ以テ相當ナリトス而シテ本件ニ付不服ノ申立ヲ受ケタル東京區裁判所ハ檢事ノ處分ノ當否ニ付審理ヲ遂ケタル上之ヲ相當ノ處分ナリトシ其ノ不服ノ申立ヲ棄却スルノ決定ヲ爲シタルモノナルコト明白ナルカ故ニ該決定ノ當否如何ニ關セス之ヲ對象トシテ爲シタル本件抗告ハ已ニ此ノ點ニ於テ失當ナルヲ以テ不適法トシテ之ヲ棄却スヘキモノトス敍上ノ理由ニ基キ刑事訴訟法第四百七十三條第四百六十六條ノ趣旨ニ則リ主文ノ如ク決定ス
昭和十三年二月十九日

東京刑事地方裁判所

三九一 再審請求棄却決定 (一)

決定

本籍並住居

群馬縣北甘樂郡富岡町大字七日市七十三番地

再審請求人 石炭商會社員

矢野 間 仁 助

當五十三年

右ノ者ヨリ同人ニ對スル横領被告事件ニ付當裁判所カ昭和十二年十月二十九日言渡シ昭和十三年三月五日上告棄却ニ依リ確定シタル有罪ノ判決ニ對シ適法ナル再審ノ申立アリタルヲ以テ當裁判所ハ請求人及檢事ノ意見ヲ聽キタル上決定スルコト左ノ如シ

主 文

本件請求ハ之ヲ棄却ス

理 由

本件請求ノ要旨ハ請求人ハ昭和十二年十月二十九日前橋地方裁判所ニ於テ「請求人ハ昭和八年末頃西岡市兵衛ヨリ同人ノ妹太田まきノ村田平治ニ對スル約金一萬圓ノ債權ノ取立方ノ依頼ヲ受ケタルカ自己ニ於テ之カ取立ヲ爲スコト能ハサルトコロヨリ適任者トシテ岡野不二三ヲ紹介シ西岡ヲシテ右岡野ニ前記債權ノ取立方ヲ委任スルニ至ラシメタル等ノ關係上昭和九年四月二十八日頃右岡野ヨリ同人カ前記村田平治ヨリ取立タル西岡ニ交付スヘキ現金三百三十八圓九十錢ヲ受取り保管中其ノ頃群馬縣北甘樂郡富岡町ニ於テ擅ニ自己ノ關係スル會社ノ用途ニ費消シテ横領シタルモノナリ」トノ事實ニヨリ有罪ノ判決ヲ受ケ上告ノ結果昭和十三年三月五日上告棄却ノ判決アリテ右有罪判決確定シタリ而シテ右有罪判決ハ西岡市兵衛ニ對スル昭和十一年十二月十一日附及同月二十七日附ノ各司法警察官聽取書ヲ敍上事實認定ノ證據ニ採用シタルカ右各聽取書記載ノ西岡市兵衛ノ供述ハ孰レモ請求人ヲ刑事被告人タラシメンカ爲ニ爲シタル虚偽ノ陳述ナリ即チ右聽取書ニ依レハ西岡ハ當時請求人トノ間ニ何等報酬契約成立シ居ラサリシ旨供述シ居レトモ其ノ後請求人ニ於テ調査ノ結果發見シタル別紙覺書ト題スル書面ヲ看ルニ右西岡ハ太田まきノ家督相續人太田良夫ノ後見人タル太田治右衛門ヨリ請求人ニ對スル謝禮トシテ金三百九十圓(尤モ覺書ニハ請求人及西岡ニ對スル謝禮トシテ金三百九十圓ヲ受領シタル旨記載シアレトモ西岡ハ太田まきノ兄ニシテ報酬等ヲ請求スヘキ筋合ニアラサルヲ以テ金三百九十圓ハ全部請求人ニ對スル謝禮タルヘキモノナリ)ヲ受領セルコト明ニシテ從テ請求人カ岡野不二三ヨリ受領セル金員ヲ費消シタル當時西岡ト請求人トノ間ニ請求人ニ對スル報酬契約確立シ居リタルコトヲ認メ得ヘク前記聽

三九一 再審請求棄却(一)

取書ノ供述ハ全ク虚偽ナルコト明白ナリ而シテ右ノ如ク西岡ノ供述カ虚偽ニシテ同人ト請求人トノ間ニ報酬契約成立シ居タリトセンカ請求人カ昭和九年四月二十八日頃岡野不二三ヨリ受領シタル金三百三十八圓九十錢ヲ費消シタルハ結局請求人ノ受クヘキ報酬金ト相殺シタルニ歸シ罪トナラサルモノナリ然ルトコロ右西岡市兵衛ハ既ニ死亡シ前記各聽取書記載ノ同人ノ供述カ虚偽ナルコトノ確定判決ヲ得ルコト能ハサルヲ以テ刑事訴訟法第四百八十五條第四百八十九條ニ從ヒ其ノ虚偽ナル事實ヲ證明シテ再審請求ニ及ヒタリト謂フニ在リテ證據トシテ覺書ト題スル書面ノ寫ヲ提出シタリ

仍テ按スルニ請求人カ昭和十二年十月二十九日當裁判所ニ於テ「請求人ハ昭和八年末頃西岡市兵衛ヨリ同人ノ妹太田まきノ村田平治ニ對スル約金一萬圓ノ債權ノ取立方委頼ヲ受ケタルカ自己ニ於テ之カ取立ヲ爲スコト能ハサルトコロヨリ適任者トシテ岡野不二三ヲ紹介シ西岡ヲシテ右岡野ニ前記債權ノ取立方ヲ委任スルニ至ラシメタル等ノ關係上昭和九年四月二十八日頃右岡野ヨリ同人カ前記村田平治ヨリ取立テタル西岡ニ交付スヘキ現金三百三十八圓九十錢ヲ受取リ保管中其ノ頃群馬縣北甘樂郡富岡町ニ於テ擅ニ自己ノ關係スル會社ノ用途ニ費消シテ横領シタルモノナリ」トノ事實ニヨリ有罪ノ判決ヲ受ケ更ニ上告ノ結果昭和十三年三月五日上告棄却ノ判決アリテ右有罪判決確定シタルコト並ニ該有罪判決ハ西岡市兵衛ニ對スル昭和十一年十二月十一日附及同月二十七日附ノ各司法警察官聽取書ヲ前記事實認定ノ證據ニ供シタルコトハ取寄ニ係ル請求人ニ對スル當裁判所昭和十二年控第四八號横領被告事件記録ニ徴シ明ナリ然レトモ押收ニ係ル覺書ト題スル書面(請求人提出ニ係ルモノノ原本)ト對比シ且證人太田治右衛門ノ證言ヲ參酌考察スルモ右各聽取書記載ノ西岡市兵衛ノ供述カ虚偽ナリトハ到底認メ難シ加之原有罪判決ヲ其ノ證據ト對照審按スルトキハ

右判決ハ請求人カ昭和九年四月二十八日頃岡野不二三ヨリ受領シタル金三百三十八圓九十錢ヲ同年四月中遅クトモ右受領ヲ受ケタル時ヨリ數日後ニ關係會社ノ用ニ費消シタル事實ヲ認定シ横領罪ニ問擬シタルコト明ナルニ對シ前記覺書ト題スル書面ハ昭和九年八月二十一日附ノモノニ係リ且證人太田治右衛門ノ證言ト綜合考察スルモ右書面ヲ以テ請求人ニ對シテ無罪ヲ言渡スヘキ明確ナル證據トモ做シ難シ果シテ然ラハ請求人ノ本件請求ハ理由ナキニ依リ刑事訴訟法第五百五條第一項ニ則リ主文ノ如ク判決シタリ

昭和十三年六月二十五日

前橋地方裁判所刑事部

三九二 再審請求棄却決定 (二)

決定

本籍並住居

北海道岩内郡岩内町大字稻穂町字清住三番地

有罪ノ言渡ヲ受ケタル成田榮三郎實父

再審請求人

成田幸八

慶應三年一月十二日生

(以下本籍並住居省略)

再審請求人

瀧夫

成田 漢 一

三九二 再審請求棄却決定 (一)

- 再審請求人 漁夫 明治四十年九月十一日生 成田 要
- 再審請求人 漁夫 明治四十三年九月十二日生 西村 久作
- 再審請求人 漁夫 明治三十年十月一日生 關口 幸次郎
- 再審請求人 漁夫 明治三十二年二月二十六日生 齋藤 勝利
- 再審請求人 漁夫 明治三十七年十一月二十五日生 照井 留五郎
- 再審請求人 漁夫 明治三十二年一月六日生 東 喜三郎
- 再審請求人 漁夫 明治二十五年十二月五日生 渡邊 三太郎
- 再審請求人 發動機船三等機關士 田中 力造 明治三十五年七月二十三日生
- 再審請求人 明治四十一年二月十六日生

再審請求人 發動機船油差 道下一郎

大正四年五月十二日生

以上再審請求人辯護人

- 辯護士 今村 力三郎
- 同 鈴木 義男
- 同 山田 半藏
- 同 齋藤 忠雄

右ノ者等ヨリ成田榮三郎外十名ニ對スル艦船覆沒致死殺人死體遺棄殺人偽證被告事件ニ付當院ニ於テ昭和十年十二月二十四日言渡シタル有罪ノ確定判決ニ對シ再審ノ請求アリタルヲ以テ當院ハ右再審請求人並當院檢事某ノ意見ヲ聽キタル上決定スルコト左ノ如シ

主 文

本件再審請求ハ執レモ之ヲ棄却ス

理 由

本件再審請求ノ要旨ハ

有罪ノ言渡ヲ受ケタル亡成田榮三郎ニ對スル艦船覆沒致死殺人死體遺棄再審請求人成田濱一、成田要、西村久作、關口幸次郎、齋藤勝利、照井留五郎、東喜三郎ニ對スル殺人死體遺棄同渡邊三太郎ニ對スル殺人並同田中力造、道下一

郎ニ對スル偽證各被告事件ニ付札幌控訴院ハ第二審トシテ昭和十年十二月二十四日右成田榮三郎ニ對シ死刑成田濱一
 同要、西村久作、關口幸次郎、齋藤勝利、照井留五郎、東喜三郎、渡邊三太郎等ニ對シ各懲役十年(但シ同人等ニ對シ
 第一審未決勾留日數中四百八十日及第二審未決勾留日數中二百日宛算入)田中力造、道下一郎等ニ對シ各懲役十月(但
 シ兩名ニ對シ第一審未決勾留日數中三百日宛算入)ノ判決ヲ言渡シ之ニ對シ各被告人並其辯護人ヨリ上告ヲ申立テタ
 ルモ昭和十二年六月五日大審院ニ於テ上告ヲ棄却セラレ(但シ右濱一、要、久作、幸次郎、勝利、留五郎、喜三郎、
 三太郎等ニ對シ上告審ノ未決勾留日數中二百五十日宛算入)前記札幌控訴院ノ有罪判決ハ確定シタリ、而シテ同院ハ
 原判決ニ於テ認定シタル犯罪事實ノ證據トシテ(一)乃至(七二)ヲ舉示シ殊ニ(四〇)ノ鑑定人富永廣作成ニ係ル昭和
 九年十二月十八日附鑑定書(四二)ノ鑑定人池田千足作成ニ係ル同年十二月十六日附鑑定書等ニ於ケル證第百十七號ハ
 第二幸進丸ノ防舷材ノ外側ニ取付アリタル鐵帶ニシテ該鐵帶ノ二條ノ凹痕ハ證第一、二號ノ千代丸ノ潮切金カ二回右
 鐵帶ニ衝突シタルカ爲發生シタルモノナル旨ノ鑑定ノ結果ト(四三)ノ押收ニ係ル昭和八年豫第四六號事件ノ證第一、
 二號及同年豫第一四號事件ノ證第百十七號ノ存在トヲ綜合シ原判決ノ犯罪事實ヲ認定シタリ然レトモ該判決ニ證據ト
 シテ採用セラレタル前記鑑定ハ孰レモ誤謬ニ基クモノナリ即チ該鑑定ハ證第百十七號ノ第二幸進丸ノ鐵帶ニ存スル凹
 痕ハ證第一、二號ノ千代丸ノ潮切金カ二回衝突シタルカ爲發生シタルモノナリト斷定シタルモ苟モ一時間七ノツツノ
 速力ヲ有スル兩船カ十字形ニ衝突シタリトセハ兩船ハ惰力ニ依リテ互ノ方向ニ突進シ再ヒ衝突スル機會ノアリ得ヘカ
 ラサルハ勿論千代丸ノ潮切金ヲ第二幸進丸ニ如何ナル角度ニ於テ衝突セシメタリトスルモ押收ノ證第百十七號ノ鐵帶
 ニ存スルカ如キ形狀ノ凹痕ハ絕對ニ發生スルコト能ハサルモノト信ス更ニ新ニ發見シタル新證第一號(第八八榮丸ノ

潮切金)ト新證第二號(同船ノ船首ノ鐵帶)トニ依リ前記鑑定ノ誤謬ナル所以ヲ説明センニ新證第二號ノ鐵帶ニハ證第
 百十七號ノ鐵帶ト同様ニ兩端ニ二個ノ釘穴アルノミナラス凹字形ヲ爲セル二條ノ凹痕アリ其ノ他長サ形態等ニ於テ兩
 者殆ント相類似ス而シテ新證第二號ノ鐵帶ハ新證第一號ノ潮切金ト十字形ニ交叉スル部分ノ船首ノ鐵帶ニシテ左右防
 舷材ノ鐵帶ニアラス又凹字形ヲ爲セル二條ノ凹痕ハ建造當時潮切金ヲ跨ク必要上人工的ニ工作セラレタルモノナルコ
 トハ新證第一、二號ヲ十字形ニ交叉シタル試驗ニ徴シ一點ノ疑フ餘地ナシ之ニ依リテ觀レハ證第百十七號ハ第二幸進
 丸ノ右側防舷材ノ鐵帶ニアラスシテ同船々首ノ潮切金ト十字形ニ交叉スル部分ノ鐵帶ナルコト該鐵帶ノ凹字形ヲ爲セ
 ル二條ノ凹痕ハ建造當時潮切金ヲ跨ク必要上人工的ニ工作セラレタルモノニシテ衝突ニ依リテ非人工的ニ發生シタル
 モノニアラサリシコト寔ニ明瞭ナリ、然ラハ證第百十七號ノ第二幸進丸ノ鐵帶ヲ同船ノ右側防舷材ノ鐵帶ナリト誤解
 シ該鐵帶ノ二條ノ凹痕ヲ以テ證第一、二號ノ千代丸ノ潮切金カ二回衝突シタルカ爲ニ發生シタルモノナリト爲シタル
 前記鑑定ノ誤謬ナルコト愈々明白ナルトコロニシテ該鑑定ヲ證據トシテ原判決ニ於テ敘上ノ如ク犯罪事實ヲ認定シ再
 審請求人等ニ對シ有罪判決ヲ爲シタルハ重大ナル事實ノ誤認アリト謂フヘク刑事訴訟法第四百八十五條第六號ニ所謂
 有罪ノ言渡ヲ受ケタル者ニ對シ無罪ヲ言渡スヘキ明確ナル證據ヲ新ニ發見シタル場合ニ該當シ再審請求ノ原由アルモ
 ノト確信スル次第ナリ依テ再審請求人等ハ孰レモ再審開始ノ決定ヲ與ヘラレタル上更ニ審判ヲ求ムル爲本件再審請求
 ニ及ヒタリト謂フニ在リテ新ナル證據トシテ新證第一號(第八八榮丸ノ潮切金)一箇、新證第二號(同船ノ潮切金ヲ押
 ヘル船首ノ鐵帶)一個ヲ提出シタリ

仍テ按スルニ札幌控訴院カ有罪ノ言渡ヲ受ケタル亡成田榮三郎ニ對スル艦船覆沒致死殺人死體遺棄、再審請求人成田

濱一、成田要、西村久作、關口幸次郎、齋藤勝利、照井留五郎、村喜三郎ニ對スル殺人死體遺棄同渡邊三太郎ニ對スル殺人竝同田中力造、道下一郎ニ對スル偽證各被告事件ニ付第二審トシテ昭和十年十二月二十四日同人等ニ對シ前記ノ如キ科刑ヲ以テ有罪判決ヲ言渡シタルコト、之ニ對シ各被告人竝其ノ辯護人ヨリ上告ヲ申立テタルモ昭和十二年六月五日上告ヲ棄却セラレ前記第二審ノ有罪判決ハ確定シタルコト竝札幌控訴院カ原判決ニ於テ證據トシテ(四〇)鑑定人富永廣作成ノ鑑定書(四二)ノ鑑定人池田千足作成ノ鑑定書等ニ記載セラレタル前掲鑑定ノ結果竝(四三)ノ押收ノ證第一、二號及第百十七號ノ存在ヲ採用シテ原判決ノ船舶覆沒致死殺人死體遺棄竝偽證ノ犯罪事實ヲ認定シタルコト本件再審請求人提出ノ原判決贖本竝前記被告事件ノ一件記録ニ徴シ明カナリ仍テ再審請求人等ハ新證第二號ノ鐵帶ハ第二幸進丸ノ姉妹船ナル第八八榮丸ノ潮切金ト交叉スル部分ノ鐵帶ニシテ其ノ二條ノ凹痕ハ建造當時潮切金ヲ押ヘル爲人工的ニ工作セラレタルモノナルカ之ト右證第百十七號ノ鐵帶トハソノ形態殆ソト類似スルヲ以テ該第百十七號ノ鐵帶ハ右新證第二號ト同様ニ第二幸進丸ノ潮切金ヲ押ヘル部分ノ鐵帶ニシテ該鐵帶ノ凹痕モ衝突ノ爲生シタルニアラズ建造當時潮切金ヲ跨ク必要上故意ニ工作セラレタルモノナリ從テ之ト反對ノ斷定ヲ下シタル前記鑑定ハ全ク誤謬ニ陥リタルモノニシテ之ヲ證據ニ採用シタル原判決ハ事實ノ認定ニ重大ナル誤認ヲ爲シタルモノナリト主張スルヲ以テ審按スルニ新證第一號ハ前記被告事件ノ被害船タル第二幸進丸ト同様木質西洋型發動機船ナル第八八榮丸ノ潮切金ニシテ新證第二號ハ同船ノ潮切金ヲ押ヘル部分ニ當ル船首ノ鐵帶ナルコトハ本件記録中證人船矢喜之助ニ對スル訊問調書證人中島松太郎ニ對スル第一回訊問調書ノ記載ニ徴シ明カナルトコロニシテ右新證第二號ノ鐵帶ト證第百十七號ノ鐵帶ト對照見分スルトキハ外見上其ノ形態略々類似シ證第百十七號ノ鐵帶ハ再審請求人主張ノ如ク恰カモ第二幸進丸ノ潮切金ヲ

押ヘル部分ニ當ル船首ノ鐵帶ナルカ如ク思料セラレサルニアラスト雖モ證人佐藤勇吉ニ對スル訊問調書證人三崎宗次郎ニ對スル訊問調書證人増田仁之助ニ對スル訊問調書竝證人富永廣ニ對スル訊問調書ノ各記載ヲ綜合スレバ第二幸進丸ノ遭難當時其ノ船體ハ機關部ノトコロヨリ二ツニ折損セラレ海岸ニ漂着シ居リタルコト及同船ノ船首ノ部分ハ何等ノ損傷ヲ受ケス潮切金及之ヲ押ヘル防舷材ノ鐵帶等完全ニ取付ノ儘殘存シ居リタル事實ヲ認メ得ヘク之ト證人中島松太郎ニ對スル第一回訊問調書證人富永廣ニ對スル訊問調書ノ各記載トヲ對照シ更ニ前記被告事件ノ一件記録ヲ綜合シテ檢討スレハ證第百十七號ハ檢證ノ際第二幸進丸ノ漂着場所ノ海底ヨリ拾上ケ押收セラレタルモノナルコト、該鐵帶ハ同船ノ潮切金ヲ押ヘル鐵帶ニアラスシテ同船ノ右側防舷材ニ取付ケアリシ鐵帶ナルコト竝該鐵帶ノ凹痕亦證第一、二號ノ千代丸ノ潮切金カ二回右第百十七號ノ鐵帶ニ衝突シタル結果發生シタルモノナル事實ヲ明認スルニ足ル尤モ證人中島松太郎ニ對スル第二回訊問調書ニハ右證第百十七號ハ潮切金ヲ押ヘル船首ノ鐵帶ナリト思料セラル、旨ノ記載アレトモ同證人ノ第一回訊問調書ノ記載ニ照シ措信シ難ク其他記録全般ヲ詳細精査スルモ再審請求人等ノ主張ヲ肯認スルニ足ル何等ノ資料無シ果シテ然ラハ前示認定ノ同趣旨ニ出テタル鑑定人富永廣及池田千足ノ爲シタル前記鑑定ノ誤謬ニアラサリシコトヲ確認スルニ足リ之ヲ證據トシテ採用シタル原判決ハ洵ニ正當ニシテ毫モ其ノ事實認定ニ誤認アリタルコトヲ發見スルヲ得ス從テ本件再審請求人ノ提出シタル新證第一、二號ノ證據ハ再審請求人等ニ對シ無罪免訴若クハ刑ノ免除ヲ言渡シ又ハ原判決ノ認メタル犯罪ヨリ輕キ罪ヲ認ムヘキ明確ナル新證據ナリト認メ難キヲ以テ本件再審請求ハ孰レモ理由ナキモノト認メ刑事訴訟法第五百五條第一項ニ則リ之ヲ棄却スヘキモノトス仍テ主文ノ如ク決定ス

昭和十三年一月二十九日

六九六

札幌控訴院刑事部

三九三 再審開始決定

決定

本籍並住居 香川縣三豐郡勝馬村大字勝馬千五百九十三番地

ミシン仕立業

田中芳重

大正元年九月二十三日生

本籍 愛媛縣宇摩郡寒川村千六百九十三番地

住居 同縣同郡同村大字江ノ元九百五十八番地

青木イワ方

(原判決當時ノ住居香川縣三豐郡觀音寺町)

職工

川上龜吉

大正二年四月十五日生

右竊盜被告事件ニ付昭和十三年十二月十三日當裁判所ニ於テ言渡シタル有罪ノ確定判決ニ對シ檢事某ヨリ再審ノ請求アリタルヲ以テ當裁判所ハ申立人及對手人ノ意見ヲ聽キ決定スルコト左ノ如シ

主文

本件再審ヲ開始ス

理由

本件再審請求ノ理由ノ要旨ハ被告人兩名ハ右被告事件ニ付昭和十三年十二月十三日當裁判所ニ於テ被告人芳重ヲ懲役十月ニ處ス被告人龜吉ヲ懲役八月ニ處ス被告人兩名ニ對シ判決確定ノ日ヨリ四年間右刑ノ執行ヲ猶豫ストノ判決ヲ受ケ該判決ハ昭和十三年十二月十五日ヲ以テ確定シタルカ該判決ハ被告人兩名カ昭和十一年四月二十五日ヨリ昭和十三年十一月十二日迄ノ間ニ共謀又ハ單獨ニテ數回ニ亘リ竊盜ヲ爲シタルモノニシテ被告人等ノ所爲ハ夫々繼續ノ犯意ニ出テタルモノナリトノ事實ヲ認定シテ右ノ如ク判決ヲ爲シタルモノナルトコロ其ノ確定後ニ至リ被告人兩名ニ對スル強盜殺人放火被告事件發覺シ昭和十四年二月七日起訴セラレタルカ芳重ハ同年一月二十二日龜吉ハ同月二十三日孰レモ香川縣司法警察官ニ對シ死刑又ハ無期懲役ニ當ル犯罪ニシテ右確定判決ニ於テ認定シタル事實ト連續一罪ノ關係ニアル昭和十三年一月十二日香川縣三豐郡勝間村大字下勝間森梅吉方ニ於テ強盜殺人ヲ爲シタル事實ヲ陳述シ又芳重ハ同月二十九日龜吉ハ同月二十六日高松地方裁判所丸龜支部檢事局檢事ニ對シ孰レモ同様ノ事實ヲ陳述シ又芳重ハ同月二十一日同年二月十日同月十五日等ニ於テ龜吉ハ同年一月三十日同年二月十七日同月十九日等ニ於テ同廳豫審判事ニ對シ同様ノ事實ヲ陳述シ又兩名共同年五月十三日高松地方裁判所ノ公判ニ於テ同裁判所ニ對シ同様ノ陳述ヲ爲シ且龜吉ハ同年八月三十日大阪控訴院ニ於ケル公判ニ於テ同裁判所ニ對シ同様ノ陳述ヲ爲シタルヲ以テ刑事訴訟法第四百八十六條第二號ニ該當スルニヨリ再審ノ請求ヲ爲スト謂フニ在ルヲ以テ按スルニ被告人兩名ニ對スル強盜殺人放火被告事件ノ一件記録ニ據レハ本件再審ノ請求ハ理由アルモノト認ムルニ依リ刑事訴訟法第五百六條第五百九條ニ則リ主文

三九三 再審開始決定

六九七

ノ如ク決定ス

昭和十五年五月十三日

六九八

高知區裁判所

三九四 裁判ノ解釋ニ關スル疑義申立却下決定

決定

小管刑務所内既決囚

徳田清吾

當三十五歳

右ノ者ニ對スル放火被告事件ニ付當院カ大正十四年六月十八日言渡シタル判決ニ對シ疑義ノ申立アリタルニ依リ檢事ノ意見ヲ聽キ決定スルコト左ノ如シ

主文

本件疑義ノ申立ハ之ヲ却下ス

理由

申立人ハ疑義申立書ト題スル書面ニ依リ刑事訴訟法第五百六十一條ニ從ヒ裁判ノ解釋ニ疑アルヲ以テ本申立ヲ爲ス旨明示スト雖其ノ理由トシテ記載スル所ト對照スルトキハ當院ノ爲シタル判決ニハ證據ニ依ラスシテ事實ヲ認定シ虛無ノ證據ヲ採用シ證據ノ取捨判斷ヲ誤リ延テ犯罪事實ヲ誤認シ申立人ニ對シ重刑ヲ科シタル失當アルヲ以テ此レ等ノ點

ニ付當院ノ解釋ヲ求ムト云フニ在ルモノノ如ク刑ヲ言渡シタル判決主文ノ意義ニ付釋明ヲ求ムル趣旨ニ非サルコト明白ナルヲ以テ本件申立ハ不適法タルヲ免レス
仍テ主文ノ如ク決定ス

大正十五年九月十日

東京控訴院刑事第〇部

三九五 裁判ノ執行ニ關スル異議申立却下決定 (一)

決定

本籍 山口縣熊毛郡島田村第七十四番ノ七地

住居 不定現在東京拘留所在監

申立人 無職

宮本顯治

當三十一年

右ノ者ニ對スル兵役法違反被告事件ニ付當裁判所カ昭和十年九月十日言渡シタル判決ノ執行ニ對シ昭和十三年八月九日當該被告人ヨリ異議ノ申立ヲ爲シタルヲ以テ當裁判所ハ檢事ノ意見ヲ聽キ決定スルコト左ノ如シ

主文

本件異議ノ申立ハ之ヲ却下ス

三九五 裁判ノ執行ニ關スル異議申立却下決定(一)

六九九

理由

本件異議申立理由ノ要旨ハ申立人ハ昭和十年九月十日東京刑事地方裁判所ニ於テ兵役法違反罪ニ因リ罰金二十圓ニ處セラレタルトコロ同裁判所檢察局ハ昭和十三年八月四日申立人ノ妻ユリニ對シ右罰金ノ納付方ヲ請求シ右ユリハ誤ツテ之ヲ納付シタルモ該罰金ハ受刑者タル申立人ノ納付シタルモノニ非ルヲ以テ右裁判ノ執行ハ取消サルヘキモノナリト謂フニ在リ

仍テ按スルニ凡ソ罰金刑ノ執行ニ付テハ特別ノ規定アル場合ノ外受刑者本人以外ノ者ニ對シテ罰金ノ納付ヲ強制シ或ハ其ノ者ノ財産ニ對シ執行ヲ爲スヲ得サルコト勿論ナレトモ受刑者本人ニ對シ罰金ヲ納付スヘキ旨諭示シタルモ該受刑者本人ニ於テ之カ納付ヲ肯セザリシ場合ニ於テ其ノ事情ヲ知レル受刑者本人ノ妻カ本人ニ代リテ納付スヘキ旨申出テ之ヲ納付スルハ何等妨クルトコロニ非ス而シテ本件ニ於テ申立人カ昭和十年九月十日當廳ニ於テ兵役法違反罪ニ因リ罰金二十圓ニ處セラレ翌十一日上告ノ申立ヲ爲シタルモ同年十一月二十五日上告棄却ノ判決ノ言渡アリ該罰金刑カ確定シタルヲ以テ東京刑事地方裁判所檢察事ニ於テ受刑者タル申立人ニ對シ申立人在所ノ刑務所長ヲ通シ再度其ノ納付方ヲ諭示シタルモ之カ納付ナカリシヲ以テ昭和十三年八月四日東京刑事地方裁判所檢察局ハ申立人ノ妻宮本ユリニ對シ右罰金未納ノ事情ヲ告ケタルトコロ同人ハ申立人ノ爲ニ該罰金ヲ代納スヘキ旨ヲ申出テ同人ニ於テ即日之ヲ完納シタルモノナルコトハ本件參考記録タル兵役法違反被告事件ノ記録並ニ本件記録中ノ昭和十三年十月十二日附及同年十二月二十日附東京刑事地方裁判所檢察事ノ回答書及申立人ノ戶籍謄本ニ徴シ明白ナリ果シテ然ラハ前段説述ノ理由ニ依リ本件罰金刑ノ執行ニ關シテハ何等違法ノ點ナク同人ノ右納付ニ依リ本件罰金刑ノ執行ハ終了シタルモノト謂ハサル

ヘカラス然ラハ右ノ執行ヲ不當ナリトスル本件異議申立ハ到底理由ナキノミナラス元來刑事訴訟法第五百六十二條ノ裁判ノ執行ニ對スル異議ノ申立ハ當該裁判ノ執行終了後ニ於テハ之ヲ爲スモ何等ノ實益ナキヲ以テ之ヲ爲シ得サルモノニシテ本件罰金刑ニ付テハ既ニ其ノ執行終了シタルコト前示ノ如クナル以上本件異議申立ハ之ヲ許サレサルモノト謂フヘク以上何レノ理由ニ依ルモ本件異議申立ハ失當ニシテ之ヲ却下スヘキモノトス
仍テ主文ノ如ク決定ス

昭和十三年十二月二十七日

東京刑事地方裁判所

三九六 裁判ノ執行ニ關スル異議申立却下決定 (二)

決定

本籍 秋田縣雄勝郡須川村高松百八番地
當時 秋田刑務所在所

既決囚

佐藤信一郎

當三十七歲

右ノ者ニ對スル公文書偽造行使詐欺並詐欺被告事件ニ付當院ノ言渡シタル確定判決ニ因ル刑ノ執行ニ關シ右ノ者ヨリ檢事ノ處分ヲ不當トシ異議ノ申立アリタルニヨリ當院ハ檢事ノ意見ヲ聽キ決定スルコト左ノ如シ

三九六 裁判ノ執行ニ關スル異議申立却下決定(二)

主 文

本件異議ノ申立ハ之ヲ却下ス

理 由

本件異議ノ要旨ハ申立人ハ公文書偽造行使詐欺被告事件ニ付昭和三年二月六日當院ニ於テ懲役壹年六月ニ處スル旨ノ判決ヲ受ケ同月二十五日上告取下ニ依リ確定シ現ニ其ノ刑ノ執行ヲ受ケ居ル者ナルカ當院判決ハ申立人ニ對スル公訴事實中檢事小野爲雄名義ノ公文書ヲ偽造シテ之ヲ行使シ森山アサエヨリ金圓ヲ騙取シタリトノ事實ニ付第一審判決カ此ノ全部ヲ認定シ各該當法條ヲ適用シテ處斷シタルニ反シ單ニ詐欺罪ヲ構成スルニ止マルモノトシテ右ノ公文書ノ偽造竝其ノ行使ノ事實ヲ認定セサリシモノナレハ當院ノ第二審判決ハ第一審判決ニ比シ事實ノ認定ヲ異ニシ從テ法律ノ適用ニ差異ヲ來シ重罪事件ニ非スシテ輕罪事件ニ止マルモノトシテ處斷シタルコト明白ナレハ申立人ノ控訴ハ當然其ノ理由アリテ申立人ノ控訴申立後ニ於ケル未決勾留日數ハ刑事訴訟法第五百五十六條ニ依リ本刑ニ算入セラルヘキモノナルニ拘ラス檢事ハ前記當院ノ確定判決ノ刑ノ執行ヲ指揮スルニ際リ右ノ通算ヲ爲ササリシハ其ノ處分失當ナルニヨリ之カ匡正ヲ求ムル爲本件異議ノ申立ニ及ヒタリト謂フニ在リ

按スルニ申立人カ昭和三年二月六日當院ニ於テ公文書偽造行使詐欺被告事件ニ付懲役壹年六月ニ處スル旨ノ判決ヲ受ケ同月二十五日上告取下ニ因リ確定シタル爲檢事北條磯五郎ハ同日ヲ起算日トシテ右期間ノ懲役刑ノ執行ヲ指揮スルニ際リ未決勾留日數ヲ本刑ニ通算スル趣旨ノ處分ヲ爲ササリシ事實ハ申立人ニ對スル右被告事件ノ當院ノ判決書竝執行指揮書ノ謄本ノ各記載ニ徴シ疑ナキトコロトス而シテ申立人ニ對スル第一審判決ノ要旨ハ申立人ハ第一、大正十四

年十一月頃天鹽國増毛郡増毛町三上法心カ旭川市ニ於テ經營セル太子講ノ基本財産トスル爲北海道廳ヨリ山林拂下ノ希望アルコトヲ知り同市中島町所在ノ其ノ當時ノ法心ノ居宅ニ於テ確實ナル見込ナキニ拘ラス右山林拂下ヲ受クルコトノ可能ナルヘキ旨申述ヘ其ノ際自分ハ辯護士ノ資格ヲ有スル者ニシテ高等文官試験ニモ合格シ近ク樺太眞岡支廳ノ事務官ト爲ル筈ニシテ曾テ北海道廳ニ勤務シ居リタル關係上同廳ノ中山拓殖部長竝根室支廳勤務ノ谷津保夫トハ特ニ入魂ノ間柄ナレハ同人等ニ對シテ運動ヲ爲シ以テ根室ノ國有林四百町歩ヲ無償ニテ必ス拂下ケ遣ルヘキ旨申訴リ其ノ運動費名義ノ下ニ同月中ヨリ同年十二月中ニ至ルマテノ間三回ニ旭川市三條八丁目金吉旅館外二ヶ所ニ於テ合計金三百五十圓ヲ交付セシメテ之ヲ騙取シ第二、東京市淺草區千束町二丁目十六番地黒石金之助竝同人方同居人和田忠章ニ對シ自己カ辯護士ナル旨詐稱シ居リタルトコロ (一)大正十五年十二月三十日右金之助方ニ於テ行使ノ目的ヲ以テ東京地方裁判所檢事局要價係檢事小野爲雄名義東京辯護士會所屬辯護士佐藤信一郎宛人頭假處分申請ノ件ト題シ被告事件ニ關シ貴職ノ申請ヲ受理シテ明朝午前一時解放スル趣旨ノ文書一通ヲ前記忠章ヲシテ執筆作成セシメテ偽造シ (二)右文書中一通ヲ金之助ニ交付シ之ヲ後刻同市下谷區中根岸町百八番地待合あさひ事森山アサエ方ニ持參スヘキ旨ヲ依頼シ置キ自己ハ忠章ヲ伴ヒテ同日夜右待合ニ到リ當時兩人共所持金殆ント無ク申立人ハ自ラ支拂ヲ爲ス意思ナク且忠章ヲシテ支拂ハシムル意思ナキニモ拘ラス右アサエニ對シ右忠章ハ銀行ノ貸付ノ者ニシテ同人カ其ノ費用ヲ支拂フヘキ旨申訴リ因テアサエヲシテ其ノ旨誤信セシメタル上同人ヲシテ金四十一圓餘ニ相當スル飲食遊興ノ提供ヲ爲サシメテ財産上不法ノ利益ヲ得 (三)同日夜申立人等カ右待合ニ於テ飲食遊興中前記金之助カ申立人ノ依頼ニ應シテ前記ノ文書ヲ右待合ニ持參スルヤ申立人ハ之ヲ前記アサエニ呈示シテ行使シ且真正ナル辯護士ノ如ク裝ヒテ懇意ナ人カ

引張ラレテ居ル小野檢事ヨリ右ノ手紙カ來リ自分カ保證スレハ同書面表示ノ人ヲ今夜釋放シテ貰ヘル故金三十圓ヲ貸與セラレタキ旨申許リ其ノ旨アサエヲ誤信セシメ因テ同人ヨリ貸金名義ノ下ニ右金額ノ金圓ヲ交付セシメテ之ヲ騙取シ(四)昭和二年一月十日頃前記金之助ニ於テ同人ヨリ舊津輕藩士六百二十一名ノ家祿賞典祿給與請求事件取扱方ノ依頼ヲ受ケ同月二十二日頃辯護士佐藤信一郎名義ノ鑑定書ヲ作成シ其ノ他ノ奔走ヲ爲シ來リシカ同月末頃行政裁判所ニ對スル元來ノ同事件ノ受付番號問合セ文書ヲ同市麴町郵便局ニ提出シ其ノ郵便物受領證ヲ金之助ニ示シ恰モ實際申立人カ辯護士トシテ同訴訟事件ニ着手シタルモノノ如ク裝ヒ同人ニ對シ右事件ヲ行政裁判所ニ出訴スルニ付印紙代トシテ金七十五圓ヲ要スル旨申許リ同人ヲシテ其ノ旨誤信セシメ因テ印紙代名義ノ下ニ右金額ノ金圓ヲ交付セシメテ之ヲ騙取シ(五)其ノ頃前記金之助ニ對シ眞正ニ前記行政訴訟手續ヲ進行シツツアルモノノ如ク申許リ目下同事件ニ專ラ從事シ居ル爲他ニ收入ナキヲ以テ生活ヲ補助シ吳レト申述ヘ其ノ旨同人ヲ誤信セシメ因テ其ノ頃並同年二月十二日電燈代若クハ生活費名義ノ下ニ合計金五十九圓五十錢ヲ交付セシメテ之ヲ騙取シ(六)同年二月十八日前記金之助方ニ於テ同人ニ對シ行政裁判所ニ保證金九百七十二圓ヲ納付スヘキトコロ自分ニ於テ九百五十圓ヲ立替ヘ置クヘキニヨリ不足分二十二圓ヲ支出セラレタキ旨申許リ其ノ旨同人ヲ誤信セシメ因テ同人ヨリ保證金ノ一部トシテ金二十二圓ヲ交付セシメテ之ヲ騙取シ同日豫メ注文シ置キタル行政裁判所名義收納通告書用紙及「書記之印」並「書記矢村規矩雄」ナル印ヲ使用シ同日淺草區田原町附近某喫茶店ニ於テ金九百七十二圓ヲ收納シタル趣旨ノ書記矢村規矩雄名義ノ通告書一通ヲ作成偽造シ同日該偽造文書ヲ前記金之助方ニ於テ同人ニ交付シテ行使シタルモノニ係リ以上第一事實中ノ各詐欺及第二事實中ノ各公文書偽造其ノ行使並各詐欺ハ夫々犯意繼續ニ出テタルモノナリトノ事實ヲ認定シ之ニ各該當法條

ヲ適用シ二個ノ罪トシ申立人ニハ果犯ノ基礎タルヘキ詐欺竊盜罪ニ因ル懲役壹年ノ前科アルヲ以テ其ノ各加重ヲ爲シ更ニ併合罪ノ加重ヲ爲シタル刑罰範圍内ニ於テ申立人ヲ懲役壹年六月ニ處シタルモノニシテ又當院ニ於ケル第一審判決ノ要旨ハ第一事實トシテ原審ニ於ケル第一事實ト同趣旨ニ認定シ之ヲ前同様連續犯ト認メ第二事實トシテ原審第二事實中(二)、(三)ノ内公文書ノ行使罪ノ點ヲ除キ其ノ餘ノ部分(四)、(五)、(六)ノ内公文書ノ偽造並其ノ行使ノ點ヲ除キ其ノ餘ノ部分ト執レモ同趣旨ニ認定シ之ヲ前同様連續犯ト認メ第三事實トシテ原審第二事實中(六)ノ内公文書ノ偽造並其ノ行使ノ點ヲ認定シ以上各所爲ニ夫々該當法條ヲ適用シ三個ノ罪トシ前記前科アルヲ以テ前同様其ノ各加重ヲ爲シ更ニ前同様併合罪ノ加重ヲ爲シタル刑罰範圍内ニ於テ前同様申立人ヲ懲役壹年六月ニ處シタルモノナルコトハ原審並當審ノ各判決書ニ依リ明白ナリ左レハ當審判決力原審判決ト異ナル點ハ只事實ノ認定ニ於テ原審判決第二事實中(一)ノ公文書ノ偽造(三)ノ内其ノ行使即チ檢事小野爲雄名義ノ人頭假處分申請ノ件ト題スル公文書ヲ偽造シ之ヲ行使シタリトノ事實ヲ犯罪トシテ認定セス延テ之ヲ以テ森山アサエヨリ金三十圓ヲ騙取シタル事實ノ手段タル犯罪行爲ト認メサリシ點ニ存スルコトヲ觀取シ得ヘク斯ル事由ハ時ニ之レノミヲ觀察スルトキ申立人所論ノ如ク控訴ヲ理由アルニ歸セシムル場合アルコト勿論ナルモ申立人ニ對スル公訴事實ニ於テハ右公文書ノ偽造ト其ノ行使トハ當院判決書理由由末尾ニ說示シアルカ如ク原審判決ニ於テハ第二事實中(六)後段ノ事實トシテ當審判決ニ於テハ第三事實トシテ各認定セラレタル公文書ノ偽造ト其ノ行使即チ行政裁判所書記矢村規矩雄名義ノ收納通告書ノ偽造ト其ノ行使ノ犯罪事實ト連續犯ノ關係ニ在ルモノトシテ公判ニ擊屬シタルモノニ係ルヲ以テ連續犯タル一罪ノ一部ニ付犯罪ヲ認定セサリシモノニ過キサレハ特ニ無罪ノ言渡ヲ爲シ得ヘカラサルモノニ屬シ法律ノ適用ニ於テモ判決ニ影響ヲ及ホスヘキモノナ

ク又申立人ニ對スル前記犯罪事實全部ヨリ觀察スルトキハ事實ノ主要ナル部分ト謂ヒ難ク之レカ爲特ニ科刑ノ程度ニ斟酌ヲ加フル要ナキモノト認メラレタルモノニ外ナラサレハ申立人ノ控訴ハ結局其ノ理由ナカリシモノト認ムルヲ相當トス從テ檢事カ申立人ニ對スル刑ノ執行ヲ指揮スルニ際リ申立人ノ控訴ヲ理由ナキモノトシテ控訴申立後ノ未決勾留日數ヲ本刑ニ通算スル處分ヲ爲ササリシハ當然ニシテ之ヲ不當トスル本件異議ノ申立ハ其ノ理由ナキモノトス仍テ主文ノ如ク決定ス

昭和三年八月十日

東京控訴院刑事第〇部

三九七 私訴却下決定 (一)

決定

東京市芝區琴平町三十六番地

私訴原告

田代準作

本籍 東京市牛込區新小川町一丁目四番地

住居 同市下谷區上野花園町十五番地

私訴被告

鳥海重吉

明治十二年九月三十日生

右鳥海重吉ニ對スル詐欺被告事件ニ附帶シ右田代準作ノ提起シタル私訴事件ニ付當裁判所ハ數多ノ日時ヲ費スニ非サレハ私訴ノ審判ヲ終結シ難キモノト認メ刑事訴訟法第五百八十九條ニ則リ決定スルコト左ノ如シ

主文

本件私訴ハ之ヲ却下ス

昭和十一年十月二十一日

東京刑事地方裁判所

三九八 私訴却下決定 (二)

決定

網走郡津別村字本岐四十三番地

私訴控訴人(第一審私訴原告)

國安恒夫

釧路市浦見町五丁目二番地

右訴訟代理人辯護士

小谷勝市

釧路市黒金町十三丁目十五番地

私訴被控訴人(第一審私訴被告)

上原清

阿寒郡阿寒村大字吉辛原野十七線三十二番地

三九八 私訴却下決定 (一)

右被控訴人上原清ニ對スル詐欺、同阿部剛三ニ對スル詐欺恐喝被告事件ノ各公訴ニ附帶スル損害金請求私訴控訴事件ニ付當院ハ決定スルコト左ノ如シ

主 文

本件私訴ハ之ヲ却下ス

事 實

私訴控訴代理人ハ第一審私訴判決ヲ取消シ私訴被控訴人等ハ連帶シテ私訴控訴人ニ對シ金貳萬圓及之ニ對スル昭和十二年十一月十八日以降完済ニ至ル迄年五分ノ割合ニヨル金員ヲ支拂フヘシ私訴訴訟費用ハ私訴被控訴人等ノ負擔トストノ判決ヲ求メ其ノ請求ノ原因トシテ私訴控訴人ハ昭和十二年十一月十七日私訴被控訴人上原清ヨリ北海道阿寒郡阿寒村大字飽別村字阿寒湖畔イベシベツ及チクシヨウベツ前田一步園牧場内保安林ヲ除キ約九百町歩ニ存在スル青木伐根三寸上全部闊葉樹伐根七寸上全部ヲ (一)賣買代金ヲ八萬圓トシ内金二萬圓ハ即時支拂フコト (二)右地域ハ國立公園内ナルヲ以テ立木ノ伐採ニ當リテハ北海道廳ノ許可ヲ要スルニ付賣主ニ於テ其ノ手續ヲ履行シ許可ヲ得テ買主ニ通知スルコト (三)買主ハ右伐採許可ノ通知ヲ受ケタルトキハ即時代金殘額金六萬圓ヲ賣主ニ支拂フコト (四)賣主ハ右伐採手續ヲ爲スモ道廳ノ方針ニヨリ許可ヲ得ルコト能ハサルトキハ買主ニ對シ代金ノ内入トシテ既ニ受領シタル金貳萬圓ヲ即時返還スヘク金利及損害金ハ相互ニ請求セサルコトヲ約定シテ買受ケ即日同被控訴人ニ代金ノ内入トシテ金貳萬圓ヲ支拂ヒタルトコロ私訴被控訴人阿部剛三八右賣主私訴被控訴人清ノ爲本件賣買契約ヨリ生シタル債務

ニ付連帶保證ヲ爲シタリ而シテ私訴控訴人ハ右契約ノ締結ニ當リ私訴被控訴人等ヨリ(イ)賣買ノ目的物タル立木ハ既ニ私訴被控訴人清ニ於テ訴外前田三介ヨリ買受ケ完全ニ其ノ所有權ヲ取得シ居ルヲ以テ私訴控訴人ニ對シ之ヲ完全ニ引渡シ得ヘク又(ロ)右目的物ニ付テハ既ニ道廳技手出張シ來リ調査中ナルヲ以テ同技手歸廳次第伐採ノ許可アルヘク遅クトモ同年十二月中ニハ必ス許可セラルヘク更ニ(ハ)書類ノ作成遅延等ノ爲萬一許可指令遅ルコトアリトスルモ翌年正月中ニハ必ス許可アルヘク若シ許可ナキトキハ直ニ内金貳萬圓ヲ私訴控訴人ニ返還スヘキ旨言明セラレタルヲ以テ之ヲ信シ前記賣買ヲ爲スニ至リタルモノナルトコロ昭和十二年十二月ニ入ルモ私訴被控訴人等ヨリ道廳ノ伐採許可アリタル旨ノ通知ナキヲ以テ私訴控訴人ハ訴外土田耕助ヲ通シ許可促進方ヲ督促シタルニ私訴被控訴人等ハ年内ニハ必ス許可アルヘキ旨ヲ回答シ來リタレトモ其ノ後許可通知ナキヲ以テ同年五月頃迄屢々督促ヲ重ネ其ノ都度私訴被控訴人等ヨリ許可必至ノ旨回答ヲ受ケタリ然レトモ其ノ後更ニ許可通知ナキヲ以テ私訴控訴人ハ疑念ヲ生シ本件立木關係ヲ調査シタル結果意外ニモ(一)訴外手代木隆吉、同東條貞及私訴被控訴人剛三八本件立木ノ所有代表者前田三介ヨリ右立木ノ材積二萬石ヲ代金一萬三千圓ヲ以テ買受ケ道廳ノ出材見込石數カ右石數ヲ超過シタルトキハ其ノ超過額ニ對シ同率ノ代金ヲ附加支拂フ約定ヲ爲シ居ルニ過キス又右賣買ニハ讓渡禁止ノ特約アリ買主ハ已ムヲ得サル事情アルトキニ限り賣主ノ承諾ヲ得テ他人ニ右立木ヲ讓渡シ得ヘキモノナルモ右三名ハ未タ讓渡ニ付賣主ノ承諾ヲ得タルコトナク且私訴被控訴人清ハ右買受人三名トノ間ニ該買受人ノ依頼ヲ受ケ右立木ノ造材ヲ經營スヘキ旨ノ契約ヲ締結シ居ルノミナルヲ以テ同控訴人ハ本件立木全部ノ完全ナル所有權ヲ有スルモノニ非サルコト又(二)本件立木ハ國立公園地帯内ニ存在スルヲ以テ其ノ風致ノ維持保存ノ必要ヨリ該立木ノ伐採ハ制限ヲ受クルコト明白ニシテ而モ當時被控訴

人等ハ本件賣買ニ關シ關係者ヨリ民事訴訟ヲ提起セラレ且所有者前田家トノ間ニモ紛争ヲ生シ居リタルヲ以テ右立木ヲ全部伐採スルカ如キハ殆ト不可能ノ状態ニ在リタルコト判明シタリ即チ私訴被控訴人等ハ本件立木ニ付完全ナル所有權ヲ有セス且前示賣買契約ノ履行ヲ爲ス意思ナキニ拘ラス恰モ之有ルモノノ如ク申向ケテ私訴控訴人ヲ欺罔シ右賣買契約ヲ締結セシメ私訴控訴人ヲシテ賣買代金ノ内入名下ニ金二萬圓ヲ交付セシメテ之ヲ騙取シ因テ私訴控訴人ニ對シ右同額ノ損害ヲ被ラシメタルモノナリ仍テ之カ損害ノ賠償ヲ求ムル爲本訴請求ニ及ヒタリト謂フニ在レトモ本件私訴ハ其ノ請求金額相當多額ナルノミナラス其ノ請求原因亦複雑ナル爲メ本案審理ニ付數多ノ日時ヲ費スニ非サレハ終結困難ナル事情ニアルモノト認ムヘク從テ公訴附帶ノ私訴トシテ適當ニ非サルカ故ニ刑事訴訟法第五百八十九條ニ則リ却下スヘキモノトシ主文ノ如ク決定ス

昭和十五年五月二十八日

札幌控訴院刑事部

三九九 私訴ノ民事部移送決定

決定

埼玉縣北足立郡大宮町大字大宮七百七十三番地
私訴原告 關 口 む め
同所同番地

私訴原告 關 口 一 郎
同所七百六十六番地
私訴原告 關 口 久 之 助
東京市荒川區南千住町十丁目十番地 竹内茂平方
私訴原告 關 口 靜 子
埼玉縣北足立郡大宮町大字大宮七百七十三番地
私訴原告 關 口 光 子
東京市豊島區池袋町 關根才二方
私訴原告 關 口 と し ゑ
埼玉縣北足立郡大宮町大字大宮七百七十三番地
私訴原告 關 口 す み 江
右三名法定代理人 關 口 む め
右私訴原告七名訴訟代理人辯護士 公 文 貞 行
同所七百七十二番地
私訴被告 江 刺 眞 實

右當事者間ノ傷害致死被告事件公訴ニ附帶スル私訴事件ニ付昭和十年五月八日浦和地方裁判所カ言渡シタル判決ニ對シ私訴原告ヨリ控訴ノ申立アリタルモ公訴ニ付控訴ノ申立ナキヲ以テ刑事訴訟法第六百十二條ニ依リ決定ヲ爲スコト

三九九 私訴ノ民事部移送決定

左ノ如シ

七二二

主 文

本件ヲ東京控訴院民事部ニ移送ス

昭和十年六月十日

東京控訴院第〇刑事部

四〇〇 刑事補償請求棄却決定 (一)

決 定

鳥取縣西伯郡五千石村大字八幡六十六番屋敷
當時 京都府與謝郡宮津町字柳繩手 中田岩藏方住居

刑事補償請求人

木 村 幸 春

右ノ者ヨリ當裁判所カ昭和十五年五月二十四日言渡シタル無罪判決ニ基キ勾留ニ因ル補償ノ請求アリタルヲ以テ檢事ノ意見ヲ聽キタル上決定スルコト左ノ如シ

主 文

本件補償請求ハ之ヲ棄却ス

理 由

刑事補償請求人カ窃盜被告人トシテ公訴ヲ提起セラレ昭和十五年五月二十四日當裁判所ニ於テ無罪ノ言渡ヲ受ケ該判

決ハ既ニ確定シタルコト竝ニ補償請求人カ右被告事件審理中勾留セラレタルコトハ當裁判所ニ顯著ナル處右公訴ノ提起ハ補償請求人カ徳田善也ヨリ宮津憲兵分遣隊ノ廳舎建築工事ノ基礎工事ノ下請負ヲ爲シ該下請工事ニ必要ナルセメントハ徳田善也ヨリ供給セラレ一旦之カ交付ヲ受クルトモ該工事施行ニノミ使用シ得ルニ止マリ殘餘ハ之ヲ返還セサルヘカラサル約束ナリシニ之ヲ窃ニ他ニ賣却シタルヨリ該行爲ヲ窃盜トシテ嫌疑ヲ受ケタルニ因ルモノナルコトハ該刑事被告事件ノ審理ヲ爲シタル當裁判所ニ顯著ニシテ要之該公訴ノ提起ハ著シク非難ス可キ公序良俗ニ反スル補償請求人ノ所爲ニ因ルモノナルヲ以テ刑事補償法第四條第一項第二號ノ場合ニ該當スルヲ以テ本件請求ハ之ヲ棄却スヘキモノトス

昭和十五年六月二十九日

宮津區裁判所

四〇一 刑事補償請求棄却決定 (二)

決 定

茨城縣新治郡安飾村大字下輕部三百四十六番地

請求人 農

飯 田 建 之 助

明治二十二年七月十五日生

右代理人辯護士

貝 塚 徳 之 助

七二三

四〇一 刑事補償請求棄却決定(二)

右刑事補償請求事件ニ付當裁判所ハ檢事某ノ意見ヲ聽キ決定スルコト左ノ如シ

七一四

主 文

本件請求ハ之ヲ棄却ス

理 由

本件補償請求ノ要旨ハ一、請求人ハ昭和十二年四月十六日村會議員選舉罰則違反被疑事實アリトシテ土浦警察署ニ檢舉留置セラレ取調ヲ受ケタル結果昭和十二年四月二十日土浦區裁判所檢事ヨリ起訴翌二十一日勾留狀ノ執行ヲ受ケ水戸刑務所土浦支所ニ收容セラレ同年五月八日保釋許可決定ニ依リ出所スル迄十八日間勾留セラレタルモノナリ其ノ後第一審タル土浦區裁判所ニ於テ昭和十二年十一月二十日有罪ノ判決アリタルニ依リ請求人ハ之ニ對シ控訴ノ申立ヲ爲シタル結果昭和十二年八月十六日水戸地方裁判所ニ於テ無罪ノ判決ノ言渡アリテ該判決ハ同月二十一日確定シタリ二、是ヨリ先請求人ハ土浦警察署ニ於テ取調ヲ受ケタル際同署警察官ヨリ他ノ選舉人タル共同被疑者ニ於テ既ニ請求人ヨリ金錢ノ供與ヲ受ケタル旨自白シ居ルニヨリ同様陳述スヘシト強要セラレ身體並ニ精神ニ非常ノ苦痛ヲ與ヘラレタル結果已ムヲ得ス虚偽ノ陳述ヲ爲シ引續キ同警察署ニ於テ土浦區裁判所檢事ニ對シ是亦已ムヲ得ス略前同様ノ陳述ヲ爲シタルモノニシテ斯クノ如ク虚偽ノ陳述ヲ爲ササルヘカラサルニ至リタル事情ハ控訴審ノ判決ニ於テモ認メラレタルトコロニシテ請求人ノ故意又ハ重大ナル過失ニ因リテ起訴又ハ勾留セラレタルモノニ非サルナリ三、請求人ハ相當手廣ク農業養蠶ヲ爲シ現ニ下輕部養蠶實行組合長ヲ爲シ居リ會テ安飾村村會議員收入役等ノ公職ニ就キタル者ナルカ前記ノ如ク無實ノ罪ノ爲ニ十八日間不法不當ノ拘禁生活ヲ爲シタル爲生計上ノ損害ハ勿論精神上甚大ナル損失ヲ蒙

リタル事情ナルヲ以テ勾留ニ依ル十八日間ニ對シ補償額ノ最高限度ヲ給與セラレ度シト謂フニ在リ

案スルニ請求人カ村會議員選舉罰則違反被告事件ノ被告人トシテ昭和十二年四月二十日土浦區裁判所檢事ヨリ同裁判所ニ起訴セラレ同日勾引狀ヲ發セラレ翌四月二十一日同裁判所ニ於テ第一回公判開廷後即日發セラレタル勾留狀ノ執行ニ因リ水戸刑務所土浦支所ニ收容セラレ爾後同年五月八日保釋出所ニ至ル迄十八日間同支所ニ勾留セラレタルコト並ニ第一審ニ於テ有罪ノ判決アリ請求人控訴ノ結果當裁判所ニ於テ更ニ審理ヲ遂ケタル上昭和十三年八月十六日犯罪ノ證明ナシトシテ無罪ノ判決アリタルコトハ孰レモ取寄ニ係ル請求人等ニ對スル村會議員選舉罰則違反被告事件ノ記録ニ徴シ明瞭ナルトコロナリ進ンテ當該記録ヲ精査スルニ請求人ハ昭和十二年四月十七日土浦警察署ニ於テ司法警察官ニ對シ本件被疑事實ヲ自供シ同月二十日日本件起訴前土浦區裁判所檢事ニ對シ前同様公訴事實ノ全部ヲ自白シ翌二十一日日本件起訴後勾留狀發布前ノ第一回公判ニ於テモ亦判事ニ對シ右同様自白シ居ルモノニシテ右ハ請求人ニ對スル司法警察官並ニ檢事ノ聽取書及當該公判調書中孰レモ同趣旨ノ記載ニ依リ之ヲ認メ得ヘク右各供述ハ孰レモ後ニ當裁判所ニ於ケル事實審理ノ結果措信スルニ足ラサルコト明白ト爲リタリト雖モ右自白カ請求人主張ノ如ク拷問又ハ誘導訊問等ノ強制威逼ニ基因スルモノナルコトハ之ヲ認ムルニ足ル何等ノ證據ナク當裁判所ニ於ケル右被告事件ノ判決モ亦請求人ノ自白ノ措信シ難キ理由ヲ說示シタルニ止マリ該自白カ司法警察官並ニ檢事ノ強要ニ出テタルモノナルコトヲ認定シタルモノニ非ス而シテ以上ノ如ク自白アル以上起訴又ハ勾留等ヲ惹起スヘキ當然ノ原因ヲ生スルニ至ルヘキコトハ請求人ノ當ニ認識シ得ヘキトコロナリト認メラルルカ故ニ請求人ニ對シ其ノ後ニ於テ爲サレタル本件勾留處分ハ請求人ノ故意又ハ少クトモ重大ナル過失ニ因ル行爲ニ基クモノト云フヘク斯クノ如キハ正ニ刑事補償法第四條第二項

ノ刑事補償ヲ爲ササル場合ニ該當スヘキモノト認ムヘキヲ以テ本件補償請求ハ之ヲ棄却スヘキモノトス
仍テ同法第十條第一項第二項後段ニ則リ主文ノ如ク決定ス

昭和十三年十一月一日

水戸地方裁判所刑事部

四〇二 刑事補償請求棄却決定ニ對スル抗告ノ棄却決定

決定

本籍 茨城縣西茨城郡東那珂村大字今泉三十八番地ノ一
住居 神奈川縣三浦郡三崎西ノ町三番地

抗告申立人 土木下請負人

安達末吉

右訴訟代理人辯護士

我妻菊次

當三十四年

右抗告申立人ニ係ル無罪ノ判決ニ對スル刑事補償請求事件ニ付昭和十年六月五日横濱地方裁判所カ爲シタル補償請求棄却ノ決定ニ對シ抗告申立代理人ヨリ適法ナル即時抗告ノ申立アリタルヲ以テ當院ハ檢事某ノ意見ヲ聽キタル上決定スルコト左ノ如シ

主文

本件抗告ハ之ヲ棄却ス

理由

本件抗告ノ要旨ハ抗告申立人安達末吉ハ昭和十年四月一日横濱地方裁判所ニ於テ恐喝被告事件ニ付無罪ノ判決ヲ言渡サレ右判決ハ控訴期間ノ經過ト同時ニ確定スルニ至リタルヲ以テ抗告申立人ハ昭和十年五月三日右横濱地方裁判所ニ對シ刑事補償法ニ依ル補償ノ請求ヲ爲シタルトコロ同裁判所ハ右請求ヲ理由ナキモノトシテ之カ棄却ノ決定ヲ爲シ其ノ裁判書謄本ハ昭和十年六月十三日抗告申立人ニ送達セラレタリ、而シテ其ノ理由トスルコロ見ルニ、抗告申立人(補償請求人)ハ泉邦太郎外六名カ板倉寅次郎ヲ脅迫シテ昭和六年五月二十八日其ノ代人田中卯一ヨリ金二百圓、同月三十日其ノ養子武二ヨリ金五百圓ヲ交付セシメタル金錢中ヨリ金拾五圓ヲ貰受ケタルモノニシテ右ハ公ノ秩序、善良ノ風俗ニ反シ著シク非難スヘキモノナルヲ以テ補償ノ請求ハ理由ナシト謂フニ在レトモ右行爲カ若シ公序良俗ニ反スルモノトセハ當然刑事事犯ヲ構成スヘキモノナルニ拘ラス、原裁判所カ之ヲ以テ犯罪ノ證據無シトシテ無罪ノ判決ヲ爲シタルニ徴スレバ右行爲ハ公序良俗ニ反セサルコト明瞭ナリ、更ニ抗告申立人ハ元來恐喝行爲ニ關與セス從ツテ抗告申立人ト恐喝ノ被害者トノ間ニハ法律上ノ價值判斷ヲ受ク可キ何等ノ行爲存在セス唯金拾五圓ヲ抗告申立人ニ交付シタル者ト申立人トノ間ニ於テノミ價值判斷ヲ受ク可キ行爲存在スルニ過キス、而カモソノ行爲ハ何等ノ非難ニモ値スルモノニ非ルカ故ニ之ヲ以テ著シク非難スヘキ行爲ナリト認定シタル原裁判所ハ觀念上ノ混淆ニ基キ用語上ノ技巧ヲ弄シタルモノニシテ以上孰レノ點ヨリスルモ原審カ抗告申立人ノ本件補償ノ請求ヲ棄却シタルハ失當タルヲ免レス仍テ原決定ヲ取消シタル上抗告申立人ニ對シ其ノ勾留日數三百九十六日ニ對シ適當ナル補助金ヲ交付スル旨ノ決定

四〇二 刑事補償請求棄却決定ニ對スル抗告ノ棄却決定

アラムコトヲ求ムル爲茲ニ即時抗告ノ申立ヲ爲シタルモノナリト謂フニ在リ

仍テ按スルニ抗告申立人及泉邦太郎外六名ハ昭和六年五月二十八日神奈川縣三浦郡三崎町三崎尋常高等小學校校舍改築工事ノ入札ニ際シ共謀ノ上右工事ノ落札者ナル同町字入舟七十六番地土木請負業板倉寅次郎方其ノ他ニ押掛ケ祝金ヲ強要シ之ニ應セサレハ危害ヲ加フヘキ氣勢ヲ示シ同町仲崎二十番地旅館久野屋ニ於テ板倉ノ代人田中卯一ノ手ヲ經テ金二百圓ヲ交付セシメタル上、更ニ多額ノ祝金ヲ交付セシメムトシテ前記久野屋ニ宿泊シ居リ目的ノ達セラレサル限リハ同所ヨリ退去セサルノ氣勢ヲ示シタル上同月三十日邦太郎外一名ハ寅次郎方居室ニ於テ同人ノ養子武ニ對シテ宿錢トシテ四百圓、旅費トシテ百圓ヲ出シテ呉レ、ソレヲ出セハ引上ケルト脅迫シテ金五百圓ヲ交付セシメタルモノトシテ昭和八年三月十日横濱地方裁判所ニ豫審ヲ請求セラレ、昭和八年三月十一日同廳豫審判事ノ勾留狀ニ依リ横濱刑務所ニ勾留セラレ昭和九年四月十日保釋ニヨリ釋放セラルル迄引續キ三百九十六日間未決勾留ヲ受ケタル後、同年五月三十一日同廳豫審判事ヨリ、被告人泉邦太郎、同村上市太郎等ハ何レモ表面上土木請負業者ト稱スルモ其ノ實俗ニ談合屋又ハ運動屋ト稱スル者ニシテ縣廳市町村役場其ノ他ニ於ケル土木建築請負工事ノ入札ニ際シ入札場ニ出入シテ請負業者ニ對シ談合入札ノ斡旋勸誘ヲ爲シ其ノ結果談合入札ヲ爲シタル場合ニハ工事落札人ヨリ他ノ入札人ニ交付スヘキ談合金ノ内ヨリ歩合金ノ配當ヲ受ケ或ハ全然自己カ談合ノ斡旋等ヲ爲ササルニ拘ラス工事請負人ヲ脅迫シテ祝金名義ノ下ニ金錢ヲ交付セシメテ生活シ居リ、被告人(抗告申立人)安達末吉、被告人山口熊吉、同小宮武助、同小川國太郎同松山仁輔等ハ土工等ニシテ常ニ右入札場ニ赴キ泉某ノ他ノ受領シタル該談合歩合金又ハ祝金ノ配當ヲ受ケ居リタル者ナル所、抗告申立人ハ泉邦太郎、村上市太郎、山口熊吉、小宮武助、小川國太郎、松山仁輔ト共謀ノ上昭和六年五

月二十八日前示板倉寅次郎ノ養子武ニヲ脅迫シ其ノ代人田中卯一ヲ介シ前記工事落札ノ祝金名義ノ下ニ金二百圓ヲ恐喝交付セシメ、次テ同月三十日亦右武ニヲ脅迫シ金五百圓ヲ恐喝交付セシメタリトシテ公判ニ付セラレ、昭和十年四月一日同裁判所ニ於テ、被告人泉邦太郎、同小川國太郎カ共謀ノ上昭和六年五月三十日前記武ニ對シ宿料及旅費トシテ五百圓出金サレ度ク然ラサレハ談合入札ノ内幕ヲ暴露スヘキ旨申向ケテ同人ヲ恐喝シ祝金名義ノ下ニ金五百圓ヲ喝取シタリト有罪事實ヲ認定シタル上被告人(抗告申立人)安達末吉、被告人泉邦太郎、同村上市太郎、同山口熊吉、同小宮武助、同小川國太郎、同松山仁輔カ共謀ノ上同年同月二十八日前示工事入札ニ付キ板倉武ニヨリ金二百圓ヲ恐喝交付セシメタル旨及ヒ被告人(抗告申立人)安達末吉、被告人村上市太郎、同山口熊吉、同小宮武助、同松山仁輔カ前示泉邦太郎及小川國太郎ノ犯罪行爲ニ加擔シテ金五百圓ヲ恐喝交付セシメタル旨ノ各公訴事實ハ犯罪ノ證明不十分ナリトシテ無罪ノ言渡ヲ爲シ該判決確定シタルコトハ抗告申立人等ニ對スル恐喝被告事件ノ記録ニ徴シ明白ナリ、然レトモ右刑事訴訟記録ニ於ケル抗告申立人ニ對スル豫審第二回訊問調書中同人ノ供述トシテ昭和六年五月二十八日村上、泉ヲ相澤、岡田兩名方へ案内シタルトコロ泉カ金カ取レレハ御禮ヲ遣ルト云ヒタル故同人等ニ尾イテ居レハ御禮カ貰ヘルト思ヒ同人等ト共ニ其ノ日ヨリ同月三十日迄久野屋ニ泊リ翌三十一日泉ヨリ拾五圓貰受ケタリ、自分カ三十日頃ヨリ薄々泉等カ祝金ノ請求ヲ爲シ居ルモノト感シ、夫レハ良イ事トハ思ハサリシモ金ヲ貰ヒ度イ許リニ同人等ト一緒ニ泊リ居タルモノニシテ泉ヨリ金ヲ貰ヒタル際其ノ金ハ板倉カ餘リ氣持ヨク出シタル金ニハアラサルヘシト思ヒタル旨ノ記載、同人ニ對スル豫審第三回訊問調書中同人ノ供述トシテ自分ハ泉等カ板倉ニ祝金ヲ請求シ居ルヲ知り乍ラ其ノ分配ヲ受クル心算ニテ久野屋ニ泊リ居タルモノニテ當時板倉カ家ニ居ナイトノ話ヲ聞キ同人ハ祝金ヲ出スノヲ厭ヒテ

何處カヘ行キ居ルモノト思ヒタル旨ノ記載、被告人村上市太郎ニ對スル豫審第四回訊問調書中同人ノ供述トシテ昭和六年五月二十八日入札終了後正午頃安達ノ案内ニテ泉ト自分トカ相澤國太郎ヲ訪ネ「談合ニナリタル由ナルカ御祝金カ出ナイタロウカ」ト申シタルニ相澤ハ「談合ハシタルモ仕事ハ指名入札人ニナリタル連中カ分ケテ行フ事ニナリ居ル故御祝金トシテハ左程ニ出セヌタロウカ皆ト相談ノ上返事ヲスル」トノコトナリシ故自分ハ久野屋ニ泊ツテ居ルカラト申シテ歸リタリ、其ノ日午後二時半カ三時頃板倉ノ代人田中卯一カ自分等ヲ訪ネテ參リタル故久野屋ニ泊リ居リタル仲間ノ自分山口、小宮、泉、小川、松山、安達ノ室ニ田中ヲ通シテ會ヒタルカ其ノ時田中ハ祝金トシテ貳百圓持參シタルヤウナ事ヲ申シ居リ其ノ際自分モ一寸田中ニ會ヒタルカ泉其ノ他ノ者ハ田中ニ對シ貳百圓位ニテハ費用モ掛リ居ル故仕方カナイト申シ居リタル故自分ハソレ以上出金セシムルヤウ交渉スルヲラウト思ヒ居リタル旨ノ記載並ニ證人板倉武二ニ對スル豫審訊問調書中同人ノ供述トシテ自分ハ昭和六年五月二十八日三崎尋常高等小學校々舎改築工事入札ノ際父寅次郎名義ニテ該工事を落札シ其ノ入札終了後自分ノ代人田中卯一ノ手ヲ經テ談合屋ニ金二百圓ヲ交付シタルモ其ノ際田中ノ話ニ依レハ談合屋カ少イト云ヒ不平ヲ申シ居リタリトノコト故自分ハ自宅ニ居テハ談合屋カ來テ煩イト思ヒ入札終了後其ノ日ヨリ熱海温泉ニ二晩宿泊シテ妻ヲ隱シタルモ同月三十日自分ノ妻カ電話ニテ談合屋カ來テ居リ喧シク云ツテ來テ困ル故歸ツテクレト申ス故歸宅シタルニ妻ヤ子供等カ談合屋ノ訪來タルヲ恐レ居ル様子ニテ早く解決シテ貰ヒ度イト申シ居リ尙田中ノ話ヲヨレハ談合屋カ多勢宿屋ニ泊ツテ居リ費用カ掛リ其ノ支拂ニ困リ居ルヤウナコトヲ申シ最初ノ二百圓ニテハ少イ故未タ少シ出シテ呉レト云ヒ居ルトノコトニテ其ノ日午後四時頃談合屋ノ泉外二、三名カ自分方ニ參リ奥八疊座敷ニテ面會シタルカ泉カ「今度ノ工事は大キイカラ百圓ヤ二百圓テハ少イシ宿屋ノ支拂ニモ足

ラス歸ル旅費モナク困ル故是非今少シ貸シテ呉レ今度ノ入札ハ談合タカラ金ヲ出サネハ内幕ヲ暴露シテ入札ヲ無効ニシテヤル」ト申シ「ドウシテモ五百圓ナケレバ歸レヌ故其ノ金ヲ出シテ呉レ」ト申シタルニヨリ自分ハ其ノ時左様ニ多クハ出シ切レヌ故二百圓テ我慢シテ呉レト申シ田中ニモ其ノ交渉ヲ致サセタルモ泉ハ左様ナ金ニテハトウシテモ三崎ヲ引上ケラレヌ故是非五百圓出シテ呉レト申シタル故自分モ仕方ナク其ノ場ニテ五百圓ヲ田中ノ手ヲ經テ泉ニ渡シタルカ其ノ際泉ハ荒々シキ口調ニテ話ヲ致シ居リタリ入札當日渡シタル二百圓ハ御祝金ノ意味ニテ右ノ金ハ渡シテモ良シト思ヒタルモ五月三十日ニ二度目ニ自宅ニ於テ渡シタル五百圓ハ出ス理由モ無ク、出シ度クモ無カリシモ何時迄モ煩ク談合屋ニ附纏ハレテハ世間體モ惡ク又要求ニ應セサレハ之迄請負人ヨリ金ヲ貰ヒ生活シ居ル連中ニテ命知ラスノ者許リナル故後ニ如何ナルコトヲサレルカ判ラヌト思ヒタル故仕方ナク出シ遣リタルモノナル旨ノ記載ヲ綜合考察スレハ抗告申立人カ泉邦太郎、村上市太郎其ノ他ノ者ト相通シテ昭和六年五月三十日落札人板倉寅次郎ノ養子板倉武二ニ對シ工事ノ落札ニ關シテ金五百圓ヲ強請シタル事實ヲ認定シ得ヘク右行爲ハ抗告申立人等ニ對スル前記起訴事實ノ後半部ト同一性ヲ保有スルコト極メテ明瞭ナルノミナラス、落札人ニ代ルヘキ者ニ對シ金錢ヲ強請シタル點（警察犯處罰令第二條第四號參照）ニ於テ公ノ秩序善良ノ風俗ニ反シ著シク非難スヘキモノナリト斷セサルヲ得ス抗告申立人ハ公序良俗ニ反スルモノハ當然刑事事犯ヲ構成セサルヘカラストノ見地ヨリ原裁判所カ犯罪ノ證明ナシトシテ無罪ノ判決ヲ爲シタル前示抗告申立人ノ行爲特ニ金拾五圓ヲ貰受ケタル行爲ヲ以テ明カニ公序良俗ニ反セスト抗辯スレトモ元來公序良俗ナルモノハ社會的文化規範ノ一斑トシテ、犯罪ノ前提ナル刑事上ノ規範ヨリハ廣汎ナルヘキモノナレハ刑事事犯ヲ構成セサル行爲必スシモ常ニ公序良俗ニ反セストナスコトヲ得サルノミナラス抗告申立人ノ前示行爲ハ既ニ

モ觸レタルカ如ク警察犯處罰令第二條第四號ニ該當セサルヤノ疑極メテ濃厚ナルモノアルヲ以テ到底之ヲ以テ公序良俗ニ反セサルモノナリト辯明スルコトヲ得ス更ニ被告申立人ハ被告申立人カ本件事案ニ關連シテ他人ヨリ金拾五圓ノ交付ヲ受ケタル行爲ヲ以テ單ニ其ノ拾五圓ノ授受者間ニ於テノミ價値ヲ判斷セラルヘキ事實タルニ止ルトナシ被告申立人ト本件恐喝ノ被害者トノ間ニハ法律上ノ價値判斷ヲ受クヘキ如何ナル行爲モ存在セス即チ被告申立人ハ元來本件恐喝行爲ニ關與セサルヲ以テ被告申立人ノ行爲ハ何等ノ非難ニモ値セスト抗辯スレトモ前掲被告申立人ニ對スル豫審第二回及第三回豫審訊問調書中ノ同人ノ供述記載其ノ他前示刑事訴訟記録ニ徵スレハ被告申立人ハ前示金拾五圓ハ前ニ認定セル共同強請ニヨリテ得タル金五百圓中ヨリ分配ヲ受ケタルコト洵ニ明瞭ニシテ此ノ點ニ於テ被告申立人ハ原裁判所ノ認定ニ係リ且前示共同強請ト同一性ヲ保有スルトコロノ泉邦太郎及小川國太郎ノ前記五百圓ノ恐喝行爲ニ無關係ナリトナスコトヲ得ス右拾五圓ノ授受ハ右五百圓ノ強請若クハ恐喝ト關聯セシメテハシメテソノ法律上ノ價値ヲ全部的ニ判斷シ得ルモノニシテ被告申立人主張ノ如ク之ヲ以テ右金拾五圓授受者間ノミニ於ケル事象ナリトナスハ局部的觀察タルニ止リテ正鵠ヲ失スル判斷ナリト謂ハサルヲ得ス、加之泉邦太郎等カ所謂談合屋ニシテ土木建築請負工事ノ入札ニ際シテ談合金ノ内ヨリ歩合金ノ配當ヲ受ケ又ハ工事請負人ヲ脅迫シテ祝金名義ノ下ニ金錢ヲ交付セシメテ生活シ居リ、被告申立人等カ常ニ右入札場ニ赴キ泉等ノ受領シタル談合歩合金又ハ祝金ノ配當ヲ受ケ居ル者ナルコトハ前記刑事訴訟記録ニ徵シ極メテ明白ナルヲ以テ被告申立人ノ前示行爲ヲ以テ著シク非難スヘキモノニ非ストスル辯明ハ之ヲ採用スルニ由ナシ、之ヲ要スルニ被告申立人ニ對シテハ刑事補償法第四條第一項第二號ニ依リ刑事補償ヲナスヘカラサルモノニシテ其ノ補償請求ハ理由ナキモノトシテ同法第十條第二項後段ニ則リ之ヲ棄却スヘキモノトス、

然レハ結局ニ於テ之ト同趣旨ニ出テタル原決定ハ正當ニシテ本件即時被告ハ理由ナキニ歸スルヲ以テ刑事補償法第十八條刑事訴訟法第四百六十四條第四百六十六條第一項後段ニ則リ主文ノ如ク決定ス

昭和十年七月十七日

東京控訴院第〇刑事部

四〇三 刑事補償金交付ノ決定

決定

本籍 神奈川縣横濱市中區西戸部町字境ノ谷一、七〇二番地
住居 新潟縣西頸城郡名立村大字丸田

善照寺住職

澁谷 鼎 道

明治二十四年十二月十五日生

右代理人辯護士

井手 伸

主文

右ニ對スル昭和一〇年(補)第一號刑事補償請求事件ニ付檢事某ノ意見ヲ聽キ決定スルコト左ノ如シ

補償請求人ニ對シ金七百九十圓ヲ交付ス

理由

四〇三 刑事補償金交付ノ決定

補償請求人カ放火被告事件ニ付新潟地方裁判所高田支部ニ起訴セラレ昭和八年十月二十六日同廳豫審刑事ノ勾留狀ニ依リ同日高田刑務支所ニ勾留セラレ昭和九年十一月二十一日公判ニ付スヘキ犯罪ノ嫌疑ナキ旨ヲ以テ免訴ノ言渡ヲ受ケケ同月二十四日該決定確定シテ同日同刑務支所ヨリ釋放セラル、迄引續キ三百九十五日間未決勾留ヲ受ケタルコトハ請求人ニ對スル前記被告事件ノ刑事記録ニ徴シ明瞭ニシテ刑事補償法第一條第五條各第一項ニ依リ補償ヲナスヘキ場合ニ該當スルヲ以テ請求人ノ地位身分職業其他諸般ノ事情ヲ參酌シ右勾留日數ニ對シ一日金二圓ノ割合ニヨリ補償ヲナスヲ相當ト認メ同法第十條第二項前段ニ則リ主文ノ如ク決定スルモノトス

昭和十年三月四日

新潟地方裁判所高田支部

一九條

六、三三三、三三六、三三七、三三八、三三九、三四〇、三四一
本條ノ項若クハ號ノ記載ヲ爲ササルモノ一四、四二、六〇、六八、七〇、一一一、一三八、一三九、一七六、二
四、二三五、二七四、二八三、三〇七、三〇九、三一五、三三五
第一號五九、六一、六三、六五、六七、七二、一五九、三〇八、三三四
第二號一〇、二二、二六、二八、三三(從物沒收)、四三、五七、五九、六五、七一、八一、一〇七、一〇九、一
八、一三三、一三五、一三六、一三七、一四〇、一五三、一五八、一七〇、一七一、一八三、二一九、二三三、二
二六、二五六、二六九、二七〇、二七七、二七八、二八〇、二八四、二八七、二九〇、二九一、二九二、三三七
第三號一八、六二、一〇九
改正後ノ一九條二七八

二二條

三、四、五、七、一〇、一五、一八、二四、二七、二九、三〇、三二、三四、三八、三九、四三、四九、五四、五
五、五七、五九、六〇、六一、六二、六三、六四、六五、六六、六七、七〇、七二、七七、八四、八五、八六、八
九、九一、九三、九四、九八、一〇三、一一一、一一八、一二〇、一二四、一二七、一二八、一二九、一三二、一三
八、一四〇、一四二、一四三、一四八、一四九、一五四、一五七、一六〇、一六五、一六六、一六八、一六九、一七
一、一七三、一七六、一七八、一八〇、一八一、一八三、一九〇、一九一、二〇〇、二〇九、二二三、二四、二
九、三二一、三三三、三三四、三五、三二六、三三三、三三四、三五、三三六、三三八、三三九、三四〇、三四
一、三四二、三五五、三〇九、三二〇、三二二、三三三、三三四、三五、三三九、三三〇、三三一、三三
二、三三七、三三三、三三五、三三六、三三七、三三八、三三九、三四五、三四六
一、四、五、八、二〇、二二、二六(猶豫ノ理由説明)、四三、四四、四五、四六、四八、五八、六九、七一、七二、
七三、七四、七五、七六、八〇、八八、九〇、九五、九六、一一一、一一三、一一六、一一七、一二一、一二三、一
二四、一二六、一二四、一三九(猶豫ノ理由説明)、一四五、一四六、一五一、一五二、一五七、一五九、一六四、一
七(但シ少年)、一七四、一七五、一七九、一八一、一九六(猶豫ノ理由説明)、二二一、二二二、二二四、二二五、
二二七、二二八、二三三、二三八、二三三、二三五、二三六、二五〇、二五六、二六〇、二六四(猶豫ノ理由説明)、
二九七、二九八、三〇三、三〇六、三二二、三二二、三二四、三二五、三三三、三三三、三三三、三三三、三三三、

二五條

三三四、三三八、三三九、三四〇、三四一
第三號三三八
假出獄中ノ犯行二六七
第二項一八二(正當防衛ノ主張ヲ排斥シ過剰防衛ト認定)
第一項三五二
第二項七、二五、三〇、九一、九四(鑑定ニ依ラスシテ認定)、九六同上、一三三、一三九、一四五、二三八、二
九二
二七八

二六條

第一項一五四
本文六、二七、三四、八六、八七、一二八、一三四、一三五、一三七、一五四、二六八、二九〇、二九一
前段四、六、八、一〇、一一、一三、一四、一八、一九、三一、三二、四三、五〇、五七、五九、六二、六
三、六四、六六、六七、六八、七〇、七二、八〇、八一、八四、八五、九九、一〇一、一〇二、一〇四、一一一、
一一三、一三〇、一四二、一四四、一四七、一四八、一四九、一五〇、一五六、一五八、一九二、二二二、二
三、二二四、二四〇、二四四、二四二、二四三、二四五、二七七、二三八、二三九、二四二、二四五、二五六、二
六三、二八二、二八三、二八五、二八六、二八九、二九四、三〇六、三〇七、三〇九、三一〇、三一四、三一六、
三三三、三三五、三三六、三三三、三三三、三三四、三三五、三三六、三四三、三四六
後段三一、六一、六三、六八、一二四、二三四、二五七、二六六(連續犯ニアラサルコトノ理由説明)、三〇五、三
一四、三四七

二八條

第一項九九、一〇二、一四七、一五六、一五八、二八三、二八五、二八六、二八九、第二項一四四、二八二、二
八六

四〇條

本文但書ヲ區別セサルモノ一四、六、一〇、一一、一三、一四、三一、五〇、五七、五九、六三、六六、六八、七
〇、七二、八〇、八三、八四、一〇六、一〇一、一一一、一二一、一二三、一二三、一二三、一二三、一二三、一二三、二
三一、三三三、三三五、三三七、三三九、二四二、二五五、二五六、二六六、二九四、三〇六、三〇七、三〇九

四二條

第一項九九、一〇二、一四七、一五六、一五八、二八三、二八五、二八六、二八九、第二項一四四、二八二、二
八六

四三條

第一項九九、一〇二、一四七、一五六、一五八、二八三、二八五、二八六、二八九、第二項一四四、二八二、二
八六

六九條 第一項一八、二〇、二二、七二、七三、七四、八二、一四四、一四三、一六八、二三四、三三八
 第二項一六八
 六二條 第一項一六二、一一一、一四三、二二三、三三三、二九一、三〇三
 六三條 第一項一四一、二二三、三三三、二九一、三〇三
 六四條 第二項一六七、六八、三三三
 六五條 第二項一六七、六八、一七九、二三五、三三三
 六六條 二〇、二二、二四(特ニ酌量情狀ヲ説明)、二六、二八、三三、三七、五九、六三、六五、八八、九〇、九五、一四
 六、一五〇、一五一、一五二、一五三、一五四(特ニ酌量情狀ヲ説明)、一七〇、一七九、一八〇、一八五、二六五、
 二七〇、二七四、二七五、二九二、二九三、三二五
 六七條 五九、八九、一五四
 六八條 第何號ノ區別ヲ爲ササルモノ一、二、九〇、一八五
 第二號一五三、二九〇、二九一、二九二
 第三號一七、二〇、二四、二五、二六、二七、二八、三〇、三三、三四、四九、五九、六三、六五、八六、八七、八
 八、八九、九一、九四、九五、九六、一一一、一一八、一一三、一一四、一一五、一三七、一三九、一四二、一四
 五、一四六、一五〇、一五一、一五二、一五三、一五四、一七〇、一七九、一八〇、二二三、二三八、二三三、二六五、二
 六八、二七〇、二七四、二七五、二七七、二九二、二九三、三〇三、三二五
 第四號一三七
 五九
 六九條 二〇、二二、二四、二六、二八、三三、三七、六三、六五、八八、八九、九〇、九五、一四六、一五〇、一五一、一
 七一條 五二、一五三、一七〇、一七九、一八五、二六五、二七〇、二七四、二七五、二九二、二九三、三二五
 七二條 二九二
 刑法第二編
 七四條 第一項一、二、三、四、五 第二項四、五

八三條 三五九
 九五條 第一項一六、七、一〇、二〇、一五八、三四三
 九六條 八、九、二六三
 九七條 一〇
 九八條 一一、一二、一三、一四、二八七
 一〇二條 一〇
 一〇三條 一五、一六、一七、一九
 一〇四條 一八
 一〇六條 第一號一〇、二二 第二號一〇、二二 第三號一一
 一〇八條 二二、二三、二四、二五、二八、二九、三〇、三一、三二、三三、三四、一四二、三四八
 一〇九條 第一項一六、二七、三〇、三一、三六、二八六
 一一〇條 第一項一三六
 一一一條 第一項一三五
 一一二條 二七、三〇、三一、三四
 一一三條 二八六
 一一六條 第一項一三八、三九、二〇七 第二項一三七
 一二二條 四〇
 一二三條 四一、四二
 一二四條 第一項一四三
 一二五條 第一項一四四、四五、四六、四七、四八
 一二六條 第一項一三一、四九、一〇六
 一二八條 三一、四九
 一二九條 第二項一五〇、一九〇、一九一、二〇二

一三〇條 二二、三一、五一、五二、五三、五四、五五、五六、五七、八〇、八四、一〇〇、一六〇、二五七、二六三、二六六、二六七、二六八、二七二、二七五、二七九、二八三、二八四、二九〇、二九四、三三四、三三三、一三四
 一四四條 第一項五九 第二項五九
 一四八條 五九
 一五一條 五九
 一五三條 五九
 一五五條 第一項五九 六〇、六一、六二、六三、六四、六五、三〇七、三〇八、三二五、三三四、三三五
 第二項六一 第三項三三四
 一五七條 第一項五九 六〇、六一、六二、六三、六四、六五、一〇六、三〇七、三〇八、三二五、三三四、三三五
 第二項五九 六〇、六一、六二、六三、六四、六五、一〇六、三〇七、三〇八、三二五、三三四、三三五
 一五八條 第一項五八 五九、七〇、七一、一〇六、一三五、三三四、三三五 第三項七一
 一五九條 第一項五八 五九、七一、一〇六、一三五、三三四、三三五
 一六一條 第一項五九 六六、六七、六八、三〇九、三三一 第二項六八、三三一
 一六二條 第一項五九 六六、六七、六八、三〇九、三三一 第二項六八、三三一
 一六三條 第一項五九 六六、六七、六八、三〇九、三三一 第二項六八、三三一
 一六六條 第一項六九 第二項六九
 一六七條 第一項七〇、八一
 一六九條 一八、三八、七二、七三、七四、七五、七六、七七、七八、七九、八〇、八一、一四二
 一七〇條 一四二
 一七二條 七七、七八、七九、八〇
 一七五條 八一
 一七六條 前段八二、八八、八九、九〇 後段八三、九一
 一七七條 前段八四、八五、八六、八七、九六、九七、九八、一〇〇、一〇一、一〇二、一〇三、一〇八
 後段九三、九九

一七九條 八四、八六、八七、九六、一〇〇
 一八一條 八八、八九、九〇、九一、九二、九三、九四、九五、九六、九七、九八、九九、一〇〇、一〇一、一〇二、一〇三、一〇八、一〇九、一一〇、一一一、一一二、一一三、一一四、一一五、一一六、一一七、一一八、一一九、一二〇、一二一、一二二、一二三、一二四、一二五、一二六、一二七、一二八、一二九、一三〇、一三一、一三二、一三三、一三四、一三五、一三六、一三七、一三八、一三九、一四〇、一四一、一四二、一四三、一四四、一四五、一四六、一四七、一四八、一四九、一五〇、一五一、一五二、一五三、一五四、一五五、一五六、一五七、一五八、一五九、一六〇、一六一、一六二、一六三、一六四、一六五、一六六、一六七、一六八、一六九、一七〇、一七一、一七二、一七三、一七四、一七五、一七六、一七七、一七八、一七九、一八〇、一八一、一八二、一八三、一八四、一八五、一八六、一八七、一八八、一八九、一九〇、一九一、一九二、一九三、一九四、一九五、一九六、一九七、一九八、一九九、二〇〇、二〇一、二〇二、二〇三、二〇四、二〇五、二〇六、二〇七、二〇八、二〇九、二一〇、二一一、二一二、二一三、二一四、二一五、二一六、二一七、二一八、二一九、二二〇、二二一、二二二、二二三、二二四、二二五、二二六、二二七、二二八、二二九、二三〇、二三一、二三二、二三三、二三四、二三五、二三六、二三七、二三八、二三九、三四〇、三四一、三四二、三四三、三四四、三四五、三四六、三四七、三四八、三四九、三五〇、三五五
 第一項一〇八、一〇九、二八三、三三三 第二項一一一、一一二
 前段一〇六
 本文一〇七、一一〇、一一一、三三三
 第一項一〇八、一〇九、二八三、三三三 第二項一一一、一一二
 三四九
 八五、九九、一〇一、一〇二、一一三、一二四、一二五、一三〇、一四二、一四八、一四九、一五〇、一五六、一五八、二二二、二八二、二八五、二八六、三五〇
 一一六
 第一、第二項一一三
 第一項前段一一七、一一九、一二〇、一二一、一二四、一二六、一二七 後段六二、一二七
 第二項前段一二四 後段六二、一二七、一二九、一二〇、一二一、一二四、一二六、一二七
 第一項四、六二、一一七、一一八、一一九、一二〇、一二一、一二四、一二五(改正前後ノ比例)、一二六、一二七
 七、一〇、二三、五〇、八五、九九、一〇二、一二八、一二九、一三〇、一三一、一三二、一三三、一三四、一三五、一三六、一三七、一三八、一三九、一四〇、一四一、一四二、一四三、一四四、一四五、一四六、一四七、一四八、一四九、一五〇、一五一、一五二、一五三、一五七、一五八
 一五九、一六〇
 一六一、一六二、一六三、一六四、三三二
 七、一〇、五〇、一二八、一二九、一三〇、一三一、一三四、一三五、一三七、一三九、一四〇、一四三、一五四、一五八、二八九

二〇四條 六、二二、四三、五七、九八、一六五、一六六、一六七、一六八、一六九、一八〇、一八二、一八三、二六三、三
 四、三四三、三四六、三六〇
 二〇五條 第一項||二二、一五七、一七〇、一七一、一七二、一七三、一七四、一七五、一七六、一七七、一七八、一七九、一
 八〇、一八一、三三三、三三三、三三三、三三三
 第二項||一七九、三三六
 二〇七條 二一、一八三
 二〇八條 第一項||一八四、二六三、三六〇
 二一〇條 一八五
 二一一條 一八六、一八七、一八八、一八九、一九〇、一九一、一九二、一九三、一九四、一九五、一九六、一九七、一九八、
 一九九、二〇〇、二〇一、二〇二、二〇三、二〇四、二〇五、二〇六、二〇七、二〇八、二〇九、二一〇、三三三、
 三五四
 二一二條 二一一、二一二、二二三、二二四、二二五
 二二三條 前段||二二三、二二四、二二六
 二二四條 前段||二二五、二二七、二二八、二二九
 二二八條 第一項||二四八、三三〇、三三一 第二項||三三四
 三三一
 二二九條 第一項||九八、三三三、三三三、三三五、三三八 第二項||三三四、三三五、三三六
 九八、三三三、三三三、三三六
 二二二條 第一項||八〇、三三七、三三八、三五五、三四三 第二項||三三八、三七九
 二二三條 第一項||三三九、三五五 第三項||三三九
 二二五條 三三〇、三三一、三三三、三三三、三三四、三三五、三三六、三三八、三三九、三四一、三四二
 二二六條 第一項||三三七、三四〇 第二項||三三七
 二二七條 第二項||三四二

二三〇條 第一項||二四三、二四四、二四五、二四六、二四七、二四八、二四九、二五〇、二五一(上告判決、本條ノ公然ノ意
 義)
 二五一條 二五二
 二三三條 二三三、二三九、二五三、二五四、二五五
 二三四條 二五五、二五六
 二三五條 一〇、一一、一六、一九、三三、六六、八三、一一〇、一四四、三三一、二五八、二五九、二六〇、二六一、二六
 二、二六三、二六四、二六七、二六九、二七二、二七六、二八四、二八七、二九〇、二九四、三三〇、三三六、三三
 七、三三九
 二三六條 第一項||一一、二六五、二六六、二六七、二六八、二七〇、二七一、三四八
 二三七條 二六九、二八六
 二三八條 二七一、二七二
 二四〇條 前段||二七二、二七三、二七四、二七五 後段||二七六、二七七、二七八、二七九、二八〇、二八一、二八二、二八
 三、二八四、二八五、二八六、二八七、二八八、二八九、二九〇、二九一、二九二、二九三、二九五
 二四一條 前段||二九三、二九四、二九五
 二四二條 二七五、二八七
 二四三條 二六二、二六八、二九〇、二九一、二九四
 二四四條 五八
 二四六條 第一、二項ノ區別ヲ爲ササルモノ||一四七、二五五、三〇四、三三三
 第一項||一四、五九、六〇、六一、六四、六八、七一、一〇〇、三三〇、三三一、三三三、三三四、三三五、三三
 七、三三九、二八九、二九四、二九六、二九七、二九八、二九九、三〇〇、三〇一、三〇二、三〇三、三〇四、三〇五、三
 〇六、三〇七、三〇八、三〇九、三一〇、三一〇、三一〇、三一〇、三一〇、三一〇、三一〇、三一〇、三一〇、三一〇、三
 三九、三三〇、三三一、三三四、三三五、三三五、三三五
 第二項||六五、三〇〇

三五四條 第二項 || 三八二
 三九五條 三八三
 三九七條 三六一
 三八六條 三八六
 三八七條 三八四
 三八八條 三八四
 三八九條 三八四
 三九七條 三八五、三八六、三八七、三八八
 三九九條 二六三、三二二
 四〇〇條 三六一
 四〇一條 第一項 || 五一、一七三、二八五
 四〇三條 五〇
 四〇七條 三八〇
 四二〇條 三八九
 四五六條 三七一、三七二
 四五七條 第二項 || 三七一、三七二、三七七
 四六四條 三八六、四〇二
 四六六條 第一項 || 三六九、三七〇、三七一、三七七、三七八、三八二、三八五、三八六、三九〇、四〇二
 第二項 || 三七九、三八八
 四七一條 三九〇
 四七三條 三九〇
 四七四條 三九〇
 四八五條 第二號 || 三九一 第六號 || 三九一、三九二

四八六條 第二號 || 三九三
 四八九條 三九一
 四九二條 第四號 || 三九二
 五〇五條 第一項 || 三九一、三九二
 五〇六條 第一項 || 三九三
 五〇九條 三九三
 五二五條 三八一
 五二六條 二〇六、二一〇
 五五六條 第一項第二號 || 三九六
 五六一條 三九四
 五六二條 三九五、三九六
 五六四條 三九四、三九五、三九六
 五七〇條 三六一、三六三、三六四、三六五、三六六
 五七二條 第五號 || 三六二、三六三、三六四、三六五、三六六
 五八九條 三九七、三九八
 六一二條 三九九

爆發物取締罰則

三條 一六〇
 一二條 一六〇

暴力行為等處罰ニ關スル法律

一條 第一項 二三八
二條 第一項 二五六

盜犯等ノ防止及處分ニ關スル法律

一條 三五二
二條 二三一
三條 二三一

領事官ノ職務ニ關スル法律

一二條 一三一九

陸軍軍法會議法

一條 三五六、三五七
二條 三五六

陸軍刑法

八條 一三五七

刑法施行法

二條 三六
一九條 第一項 三六
二〇條 但書 三六

刑事補償法

一條 第一項 四〇三
四條 第一項第二號 四〇〇、四〇二 第二項 四〇一
五條 第一項 四〇三
一〇條 四〇〇、四〇一、四〇二、四〇三
一一條 四〇二

鑛業警察規則

一四條 第二項 二二二
七九條 第一項 二二三

耕地整理法

九一條 一ノ三 四

裁判所構成法

索引

五〇條—第一號—三六九

舊刑法

二二條—第二項—三六

民法

八一四條—第二項—三五九

民事訴訟法

八九條—三六二、三六四、三六五、三六六

九二條—三六三

九三條—第一項—三六三、三六六

少年法

一條—一七二、二九〇

七條—九五、二七八

八條—五八、一三七、一七二、二七五、二九〇

一〇條—三八三

一一條—三八三

自動車取締令

三七條—第一項—六三

八〇條—六三

森林法(改正前)

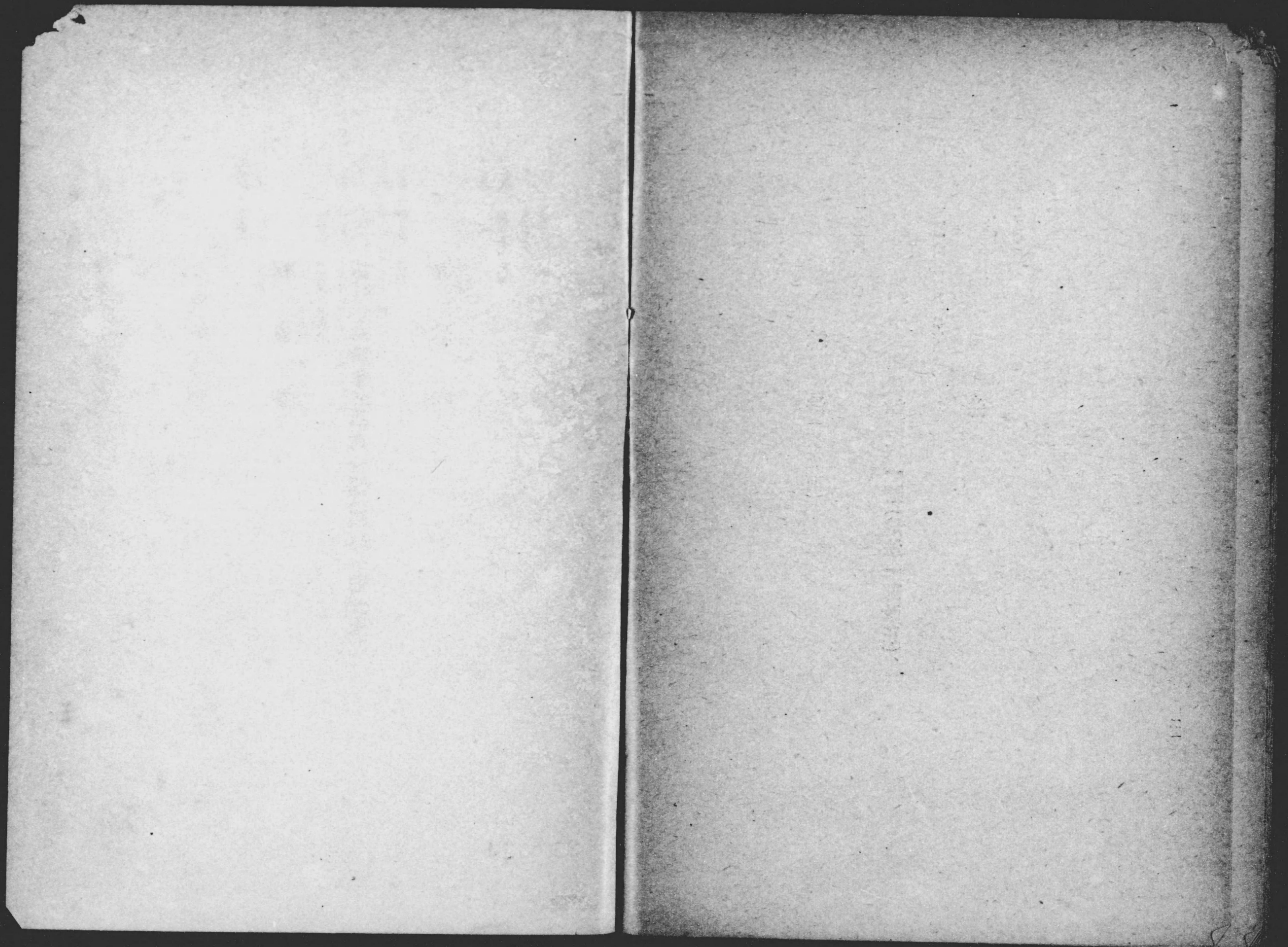
八九條—第一項—三六

昭和十六年法律第六一號(刑法一部改正)

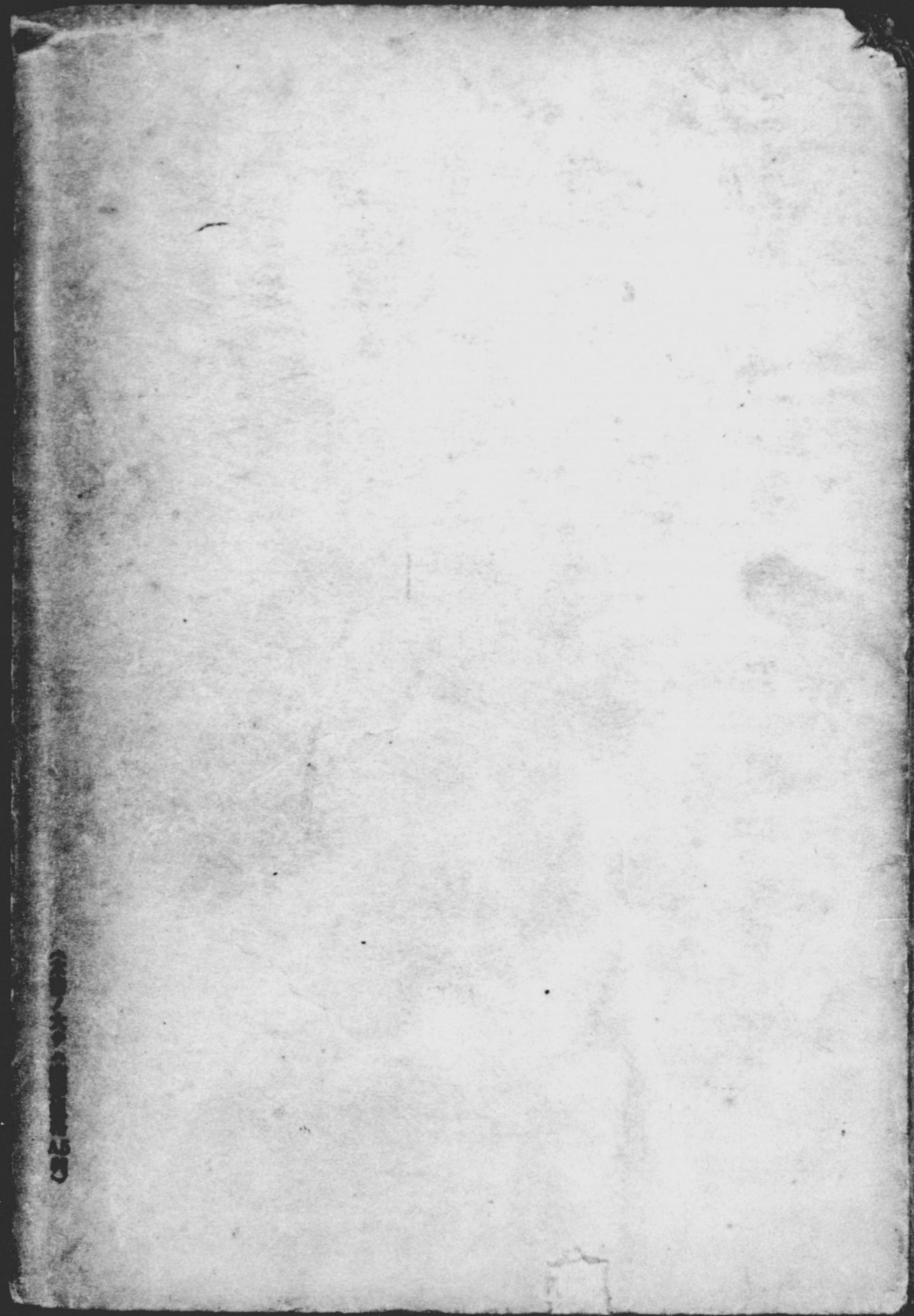
一一〇、一二五、二七八

船員法

五三條—五〇



33.6.24



182

